第６部　東洋の言語と文化

福州語文法概要

—— 中国南方方言記述文法の作成に向けて ——

林　璋　　佐々木 勲 人

rinsho@lingua.tsukuba.ac.jp　ysasaki@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

0.　はじめに

広大な国土をもつ中国では、地域によって言葉もさまざまである。一般には長江を境に、北方方言と南方方言の二つに分けられるが、両者は質的に大きく異なっている。“官话(Mandarin Chinese)”として知られる北方方言は、中国全土の４分の３を占める広い地域で使用されているが、比較的均一性が高く、“普通话”と呼ばれる現在の標準語の基礎方言となった。これに対して、南方方言には性質の異なる複数の方言が存在する。袁家骅等(1960)は呉語、湘語、赣語、客家語、粤語、閩語の６方言を挙げているが(後掲の略図参照)、それぞれがヨーロッパの一言語に匹敵する規模と個性を備えている。

本稿は、南方方言の一つである閩語に属す、福建省福州市の方言(以下福州語と呼ぶ)を記述・分析したものである。福州市は福建省の省都である。台湾海峡に面したこの街には“榕”という別称がある。その名の通り、榕樹(ガジュマル)が茂る亜熱帯の街である。だが、福建省と聞いてすぐに思い浮かぶのは、省都の福州ではなく、南の厦門(アモイ)の方ではないだろうか。近現代の歴史に何度か登場するこの街の方言は、閩南語として知られている。海峡を隔てた台湾でも、日常生活の主要な言語として使われている。いわゆる台湾語とは閩南語のことである。シンガポールやマレーシアなど、東南アジアの華僑やその末裔にも閩南語の話者は多い。

そうした社会的背景もあって、閩語に関する従来の文法研究は、その多くが閩南語を中心に行われてきた。省都の言葉であるにも拘わらず、閩北(閩東)地域を代表する福州語の文法研究は、ほとんど手付かずの状況にあった。近年、李如龙等(1994)や陈泽平(1998)らの研究が発表されたことによって、ようやくその姿が見え始めたばかりなのである。

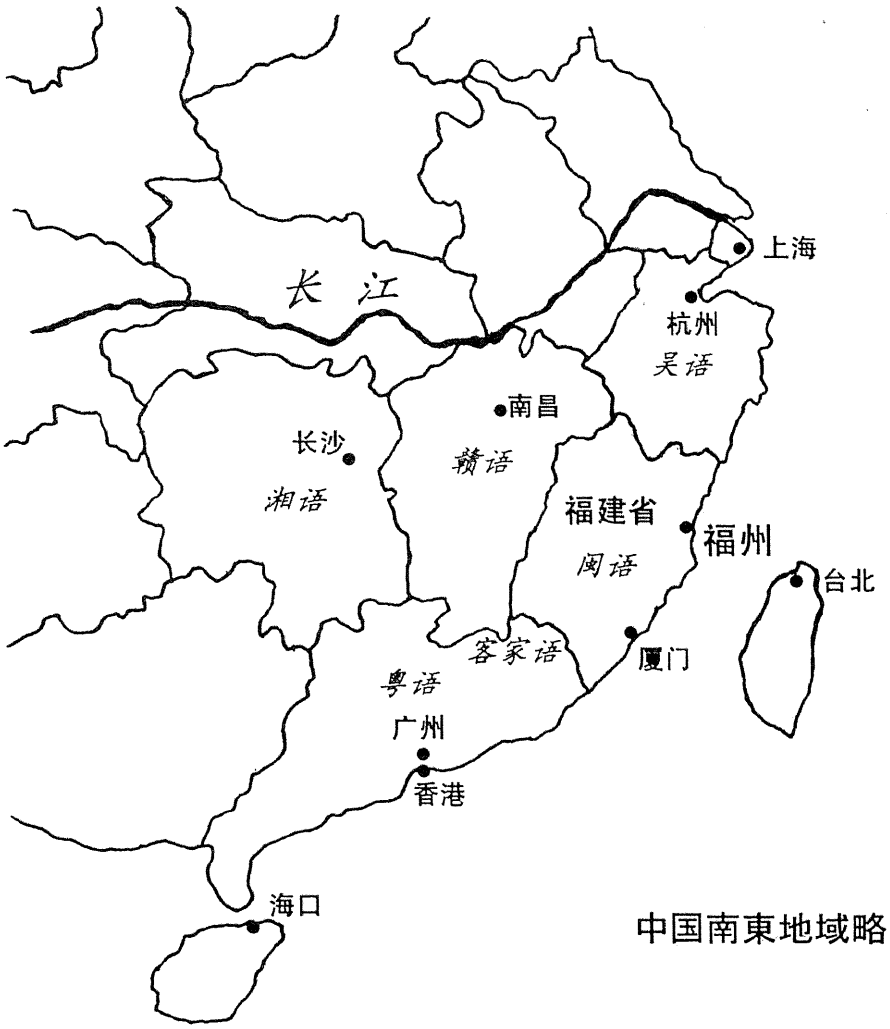
本稿は、標準語の入門テキストである佐々木・林(印刷中)をもとに作成したため、以下の各節は一般的な語学テキストの形式に倣って、[会話文]、[語句]、[文法]の３つの部分から構成されている。このような形式は平易な構文から複雑な構文へ順序よく全体像を描写するのに有利であった。とりわけ[会話文]を盛り込んだことによって、李如龙等(1994)や陈泽平(1998)とは異なる形で、生き生きとした福州語のやりとりを記述することが可能となった。[会話文]ではすべての文に英語の語釈*をつけたため、[語句]での解説は必要最低限にとどめた。音声については、標準語にはピンイン(声調つき表音ローマ字)を用い、福州語にはＩＰＡ(国際音声字母)を使用した。福州語の発音および漢字表記については、李如龙等(1994)および陈泽平(1998)に拠った。

目　次

０．　はじめに
１．　動詞述語文
２．　反復疑問文
３．　動詞と目的語/疑問詞疑問文/名詞述語文
４．　形容詞述語文/指示詞
５．　動詞“是”/主述述語文
６．　存在文
７．　所在文/変化の“了”
８．　選択疑問文/二重目的語文
９．　前置詞
１０．　アスペクト表現(1)
１１．　アスペクト表現(2)
１２．　とりたて表現/結果補語/方向補語
１３．　可能補語/様態補語
１４．　連動文/使役文
１５．　受動文/処置文
１６．　おわりに

---

*英語の語釈では括弧を用いて補足的説明を行った。通常字体ではその語の原義を示し、斜体字では実際の意味を示した。



中国南東地域略図

英文略号一覧

ACC	accusative marker	対格前置詞
ASP	aspect marker	アスペクト助詞
CAU	causative marker	使役前置詞
CLA	classifier	量詞(類別詞)
CSC	stative construction marker	様態文構成助詞
GEN	genitive marker	所有関係助詞
HNO	honorific marker	敬辞
MOD	modality marker	ムード助詞
NOM	nominalizer	名詞化助詞
PAS	passive marker	受動前置詞
PLU	plural marker	複数詞

1. 動詞述語文

[会話文]

1-1

[標準語]咪咪：爸爸，你 去 吗?

Mīmi : Bàba, nǐ qù ma?

Mimi : dad, you go MOD

[福州語]咪咪：依爸，你 有 去 无?

mi^{55}mi^{55} : i^{55}pa^{55}, ny^{33} u^{53} khɔ^{213} mo^{53}

Mimi : SUF-dad, you have go not-have

咪咪 ：お父さん、行くの？

1-2

[標準語]爸爸：我 不 去。

bàba: Wǒ bú qù.

dad : I not go

[福州語]依爸：我 伓 去。

i^{55}pa^{55}: ŋuai^{33} iŋ^{53} ŋɔ^{213}

SUF-dad : I not go

お父さん：行かないよ。

1-3

[標準語]咪咪：那 妈妈 呢?

Mīmi: Nà māma ne?

Mimi : then mom MOD

[福州語]咪咪：咽 依妈 呢?

mi^{55}mi^{55} : xui^{53} i^{55}ma^{55} li

Mimi : then SUF-mom MOD

咪咪：じゃお母さんは？

1-4

[標準語]爸爸：妈妈 去。

bàba : Māma qù.

dad : mother go

[福州語]依爸：依妈 有 去。

i^{55}pa^{55}: i^{55}ma^{55} ou^{242} khɔ^{213}

SUF-dad : SUF-mother have go
お父さん：お母さんは行くよ。

[語　句]

【依～】接頭辞。親族呼称および名前の前に付ける。名前の場合は、一字のものに限られる。苗字には付けない。例、“依伯(おじさん)、依姐(お姉さん)、依弟(弟)、依建(建さん)”など。

【你有去无？】“有”を用いた反復疑問文。(2節を参照。)

[文　法]

動詞述語文

動詞の前に存在・所有を表す動詞“有”を伴う場合と、伴わない場合がある。

1）“有”を伴う動詞述語文

事実があるということを確認する場合に用いる。

[福州語]伊　有　去。
[標準語]他　去。
彼は行く。(彼は行くことになっている。)

[福州語]依妈　蜀冥　有　去。
[標準語]妈妈　昨天　去　了。
お母さんはきのう行った。

[福州語]伊　明旦　有　去。
[標準語]他　明天　去。
彼はあした行く。(彼はあした行くことになっている。)

[福州語]电光　有　开吼。
[標準語]电灯　开着。
電気がついている。

[福州語]伊　只满　有　夹　厝吼。
[標準語]他　这会儿　在　家里。

彼はいま家にいます。

2）“有”を伴わない動詞述語文

[福州語]伊 去。
[標準語]他 去。
彼は行く。

[福州語]伊 蜀冥 去。
[標準語]他 昨天 去。
彼はきのう行った。

[福州語]依爸 明旦 去。
[標準語]爸爸 明天 去。
父さんはあした行く。

[福州語]伊 只满 着 厝吼。
[標準語]他 这会儿 在 家里。
彼はいま家にいます。

[福州語]门 开吼。
[標準語]门 开着。
ドアが開いている。

3）動詞述語文の否定形

a）“有”を伴う文の否定には“无”を使う。“无”は事実の否定を表す。

[福州語]伊 蜀冥 无 去。
[標準語]他 昨天 没 去。
彼はきのう行かなかった。

[福州語]依弟 明旦 无 去。
[標準語]弟弟 明天 不 去。

弟はあした行かない。(弟はあした行くことになっていない。)

[福州語]依妈 无 夹 厝吼。
[標準語]妈妈 不 在 家里。
母さんは家にいません。

[福州語]电视 无 开吼。
[標準語]电视 没 开着。
テレビがついていない。

b) 動作者の意思を否定する場合には“伻”を使う。

[福州語]伊 蜀冥 伻 去 学校。
[標準語]他 昨天 不 去 学校。
彼はきのう学校へ行こうとしなかった。

[福州語]伊 明旦 伻 去 西湖。
[標準語]他 明天 不 去 西湖。
彼はあした西湖へ行かない。

[福州語]伊 伻 夹 厝吼。
[標準語]他 不 愿 在 家里。
彼は家にいたくない。

2. 反復疑問文

[会話文]

2-1

[標準語]马文：你们 去 不 去 西湖?
Mǎwén: Nǐmen qù bu qù Xīhú?
Mawen : you-PLU go not go Xihu
[福州語]马文：汝 各依 有 去 西湖 无?

ma^{21}βuŋ^{53} : ny^{33} kou^{21}nøyŋ^{53} u^{53} khɔ^{213} sɛ^{55}u^{53} mo^{53}

Mawen : you PLU have go Xihu not-have

馬文：きみたち西湖に行くの？

2-2

[標準語]李丽：我们 去。

Lǐlì : Wǒmen qù.

Lili : I-PLU go

[福州語]李丽：我 各侬 有 去。

li^{55}la^{242} : ŋuai^{33} kou^{21}nøyŋ^{53} ou^{242} khɔ^{213}

Lili : I PLU have go

李麗：行くわよ。

2-3

[標準語]马文：我们 也 去。 那 咱们 一起 去 吧。

Mǎ wén: Wǒmen yě qù. Nà zánmen yìqǐ qù ba?

Mawen: I-PLU also go. then we together go MOD

[福州語]马文：我 各侬 也 有 去。 咽 侬家 齐 去 吧。

ma^{21}βuŋ^{53} : ŋuai^{33} kou^{21}nøyŋ^{53} ia^{21} u^{53} ɔ^{213}. xui^{53} naŋ^{55}ŋa^{55} tsɛ^{21} ɔ^{21} βa

Mawen: I PLU also have go. then we together go MOD

馬文：ぼくたちも行くんだ。じゃ一緒に行こうよ。

2-4

[標準語]李丽：好 的。

Lǐlì :Hǎo de.

Lili : good MOD

[福州語]李丽：会使。

li^{55}la^{242} : a^{24}lai^{33}

Lili : can-use(*OK*)

李麗：いいわよ。

[語 句]

【各侬】人称代名詞の後ろに付いて複数を表す。標準語の“一们”とは異なり、単独で用いることができる。例えば、“各侬做各侬其事计。[各人做各人的事情。]（それぞれが自分の仕事をしなさい。）”、“侬家各侬[我们大家]（私たちみんな）。”など。また、“同学各侬[同学们]（同級生たち）、先

生各侬[老师们](先生方)”など人称代名詞以外の名詞の後ろに使われることは少ない。

【侬家】聞き手包含型の一人称代名詞。複数を表す“各侬”を伴い、“侬家各侬”として使われることもある。“侬家各侬”が聞き手包含型であるのに対し、“我各侬”は聞き手排除型である。

【会使】同意を表す慣用表現。文字どおりには「使える」。

[文 法]

反復疑問文

福州語は標準語の“吗”に相当する疑問を表す文末助詞を持たない。そのため、疑問文は肯定形と否定形を並列させた反復疑問文の形式を使う。

1)“有”を伴う動詞述語文の反復疑問文

[福州語]汝 明旦 有 去 西湖 无?
[標準語]你 明天 去 西湖 吗?
君はあした西湖へ行くことになっていますか。

[福州語]汝 蜀冥 有 去 西湖 无?
[標準語]你 昨天 去 西湖 了 吗?
君は昨日西湖へ行った?

[福州語]伊 明旦 有无 夹 厝吼?
[標準語]他 明天 在 不 在 家里?
彼はあした家にいますか。

[福州語]伊 蜀冥 有无 着 厝吼?
[標準語]他 昨天 在 不 在 家里?
彼はきのう家にいましたか。

※“汝明旦有去西湖无?”は“汝明旦有去西湖无去西湖?”から、重複する“去西湖”を省略したものと見ることができる。

2)“有”を伴わない動詞述語文の反復疑問文

否定の副詞“伓”を使って“V＋伓＋V”の形式によって反復疑問文を作る。

[福州語]汝 明旦 去 伓 去 西湖?
[標準語]你 明天 去 不 去 西湖?
君はあした西湖へ行くかい。

[福州語]伊 明旦 去 伓 去 西湖?
[標準語]他 明天 去 不 去 西湖?
彼はあした西湖へ行くかい。

過去の出来事を表す文に“V＋伓＋V”を使うことはできない。

[福州語]*汝 蜀冥 去 伓 去 西湖?
[標準語]*你 昨天 去 不 去 西湖?

“V＋伓＋V”の間に他の成分を差しはさむことはできない。この点において、“有”を用いる反復疑問文とは異なる。

[福州語] *汝 去 西湖 伓 去?
[標準語] 你 去 西湖 不?
君は西湖へ行くかい。

[福州語] *伊 去 西湖 伓?
[標準語] 他 去 西湖 不?
彼は西湖へ行きますか。

※ 形容詞述語文の反復疑問文については4節、動詞“是”を用いる文の反復疑問文は5節を参照されたい。

3. 動詞と目的語/疑問詞疑問文/名詞述語文

[会話文]

3-1

[標準語]老板：你 好，你 要 什么?

lǎobǎn: Nǐ hǎo, nǐ yào shénme?

shopkeeper : you good(*hello*), you need what

[福州語]老板：你 好，你 挃 甚乇?

$lo^{24}pei\eta^{33}$: ny^{33} xo^{33} , ny^{33} $ti\text{ʔ}^{5}$ $sie\eta^{53}no\text{ʔ}^{24}$

shopkeeper : you good(*hello*), you need what

店主 ：いらっしゃい、何にしましょう？

3-2

[標準語]李丽：我 要 腰果。

Lǐlì: Wǒ yào yāoguǒ.

Lili : I need cashew-nut

[福州語]李丽：我 挃 腰果。

$li^{55}la^{242}$: ηuai^{33} $ti\text{ʔ}^{5}$ $iu^{53}uo^{33}$

Lili : I need cashew-nut

李麗：カシューナッツちょうだい。

3-3

[標準語]老板：你 要 多少?

lǎobǎn : Nǐ yào duōshao?

shopkeeper : you need how-many

[福州語]老板：汝 挃 偌夥?

$lo^{24}pei\eta^{33}$: ny^{33} $ti\text{ʔ}^{5}$ $nuo^{53}uai^{242}$

shopkeeper : you need how-many

店主：どのくらい？

3-4

[標準語]李丽：我 要 半 斤，多少 钱?

LǐLì: Wǒ yào bàn jīn, duōshao qián.

Lili : I need half 1/2kilogram, how-many money

[福州語]李丽：我 挃 半 斤，偌夥 钱?

$li^{55}la^{242}$: ηuai^{33} $ti\text{ʔ}^{5}$ $pua\eta^{55}\eta y\eta^{55}$, $nuo^{21}uai^{55}$ $zie\eta^{53}$

Lili : I need half 1/2kilogram, how-many money

李麗：半斤ちょうだい。おいくら？

3-5

[標準語]老板：一 斤 二十，半 斤 十 块。

lǎobǎn: Yì jīn èrshí, bàn jīn shí kuài.

shopkeeper : one 1/2kilogram twenty, half 1/2kilogram ten Yuan

[福州語]老板：蜀 斤 二十，半 斤 十 块。

lo^{24}peiŋ^{33}: so^{55} yŋ^{55} ni^{55}leiʔ^{5} , puaŋ^{55} ŋyŋ^{55} seiʔ^{21} toy^{213}

shopkeeper : one 1/2kilogram twenty, half 1/2kilogram ten Yuan

店主：1斤20元だから、半斤では10元ですね。

[語 句]

【甚乇】名詞相当句をたずねる疑問詞。“甚”は“什么”、“乇”は“东西”にあたる。同様の疑問詞には“乜乇”がある。

【偌夥】数量をたずねる疑問詞。

【块】通貨の単位。標準語の“块”に相当。

[文 法]

動詞と目的語

標準語と同様にSVOの語順が基本である。

[福州語]老 王 蜀冥 去 上海。

[標準語]老 王 昨天 去 上海。

王さんは昨日上海へ行った。

[福州語]伊 送 我 蜀 本 书。

[標準語]他 送 我 一 本 书。

彼はぼくに一冊の本をくれた。

※ 次のような完了表現の場合には、目的語の“饭”を動詞の前に置き、主述述語文の形式で表現する。主述述語文については5節を、完了表現については10節を参照。

[福州語]我 饭 食 咯 了。

[標準語]我 吃 了 饭 了。

ぼくはもうご飯を食べました。

疑問詞疑問文

疑問詞疑問文の作り方については、標準語との違いはとくに見当たらない。

（福）甚乇，甚乇名，甚名——（標）什么
（福）底侬——（標）谁
（福）甚乇侬——（標）什么人
（福）底——（標）哪
（福）底隻——（標）哪个
（福）底呢，底蜀角，底角，底蜀对，底对——（標）哪儿，哪里
（福）底蜀边，底边——（標）哪边
（福）偌夥——（標）多少
（福）偌长——（標）多长
（福）偌大——（標）多大
（福）乜乇辰候，乜候——（標）什么时候
（福）几——（標）几
（福）几隻——（標）几个
（福）几日——（標）几天
（福）溪势，敢㕛势——（標）为什么
（福）怎怎——（標）怎么
（福）怎讲——（標）怎么
（福）怎其——（標）怎么样

名詞述語文

時刻や数量、年月日などは述語になることができる。この点についても標準語と変わらない。

[福州語]只满 几点?
[標準語]这会儿 几点?
いま何時？

[福州語]蜀 斤 二十，半 斤 十 块。
[標準語]一 斤 二十，半 斤 十 块。
1斤20元だから、半斤では10元ですね。

[福州語]今旦 五月 一号。

[標準語]今天 五月 一号。

今日は五月一日です。

4. 形容詞述語文/指示詞

[会話文]

4-1

[標準語]妈妈：咪咪，橘子 甜 吗?

Māma :Mīmi, júzi tián ma?

mom : Mimi, orange sweet MOD

[福州語]依妈：咪咪，橘 会 甜 赡?

$i^{55}ma^{55}$: $mi^{55}mi^{55}$, $kei?^{5}$ ε^{55} $tieŋ^{55}$ ma^{242}

SUF-mom : Mimi, orange can sweet not-can

お母さん：咪ちゃん、ミカンあまい？

4-2

[標準語]咪咪：不 甜，很 酸。

Mīmi : Bù tián, hěn suān.

Mimi : not sweet, very sour

[福州語]咪咪：赡 甜，野 酸。

$mi^{55}mi^{55}$: $m\varepsilon^{55}$ $lieŋ^{55}$, ia^{21} $louŋ^{55}$

Mimi : not-can sweet, very sour

咪咪：あまくない。すっぱいよ。

4-3

[標準語]妈妈：那 这 个 呢? 甜 吧?

Māma :Nà zhèi ge ne? Tián ba?

mom : then this CLA MOD? sweet MOD

[福州語]依妈：咽 只 粒 呢? 会 甜 吧?

$i^{55}ma^{55}$: xui^{53} tsi^{21} $la?^{5}$ li ? ε^{55} $tieŋ^{55}$ ma

SUF-mom : then this CLA MOD? can sweet MOD

お母さん：じゃあこれは？あまいでしょ？

4-4

[標準語]咪咪：对，这 个 甜。

Mīmi : Duì, zhèi ge tián.

Mimi : correct, this CLA sweet

[福州語]咪咪：正是，只 粒 甜。

mi^{55}mi^{55} :tsiaŋ^{53}nei^{242} , tsi^{21} laʔ^{5} tieŋ^{55}

Mimi : really-correct(be), this CLA sweet

咪咪：うん。これはあまい。

4-5

[標準語]妈妈：这 个 苹果 怎么样?

Māma : Zhèi ge píngguǒ zěnmeyàng?

mom : this CLA apple how-about

[福州語]依妈：只 粒 苹果 怎其?

i^{55}ma^{55} : tsi^{21} laʔ^{5} piŋ^{33}kuo^{33} tsuoŋ^{21}ŋi^{53}

SUF-mom : this CLA apple how-about

お母さん：このリンゴはどう？

4-6

[標準語]咪咪：这 个 苹果 很 好吃!

Mīmi : Zhèi ge píngguǒ hěn hǎochī!

Mimi : this CLA apple very good-eat

[福州語]咪咪：只 粒 苹果 野 好食!

mi^{55}mi^{55} : tsi^{21} laʔ^{5} piŋ^{33}kuo^{33} ia^{21} xo^{21} lieʔ^{5}

Mimi : this CLA apple very good-eat

咪咪：このリンゴはとってもおいしいよ！

[語 句]

【会】元来は可能を表す助動詞であるが、形容詞の前に付いて話し手の主観的判断であることを表す。

【艃】“会”の否定形。

【只】近称の指示詞。遠称は“许/xy/”。

【粒】量詞(類別詞)。丸い形状のものに使う。

【怎其】様態や性質をたずねる疑問詞。

【好食】「おいしい」という意味の慣用句。“食”は標準語の“吃”。

[文 法]

形容詞述語文

形容詞の前に“会”を伴う場合と、伴わない場合がある。

1) 肯定文

形容詞の前に副詞“野”(標準語の“很”に相当)をおく。

[福州語]只 间 房裡 野 大。
[標準語]这 个 房间 很 大。
この部屋は広い。

[福州語]只 件 衣裳 野 俊。
[標準語]这 件 衣服 很 漂亮。
この着物はきれいですね。

[福州語]今旦 野 热。
[標準語]今天 很 热。
今日は暑いですね。

副詞“野”がない場合は、対比の意味があらわれる。

[福州語]只 间 房裡 大。
[標準語]这 个 房间 大。
この部屋は(ほかの部屋に比べて)広い。

[福州語]只 件 衣裳 俊。
[標準語]这 件 衣服 漂亮。
この服は(ほかの服に比べて)きれいですね。

[福州語]今旦 热。
[標準語]今天 热。
今日は(昨日に比べて)暑いですね。

2) 否定文

否定には“㱏”を使う。

[福州語]只 间 房裡 赡 大。
[標準語]这 个 房间 不 大。
この部屋は広くない。

[福州語]只 件 衣裳 赡 俊。
[標準語]这 件 衣服 不 漂亮。
この服はきれいではない。

[福州語]今旦 赡 热。
[標準語]今天 不 热。
今日は暑くない。

[福州語]只 粒 橘 赡 酸。
[標準語]这 个 橘子 不 酸。
このみかんはすっぱくない。

部分否定の場合には“赡”と“无”の両方を使うことができる。

[福州語]只 粒 苹果 赡 真 甜。
[標準語]这 个 苹果 不 太 甜。
このリンゴはあまり甘くない。

[福州語]只 粒 苹果 无 真 甜。
[標準語]这 个 苹果 不 太 甜。
このリンゴはあまり甘くない。

[福州語]今旦 赡 真 热。
[標準語]今天 不 太 热。
今日はそんなに暑くない。

[福州語]今旦 无 真 热。
[標準語]今天 不 太 热。

今日はそんなに暑くない。

3) 疑問文

疑問文の形式には、“会＋形容詞＋㑹”と“会＋㑹＋形容詞”の両方がある。

[福州語]许 间 房裡 会㑹 大?
[標準語]那 个 房间 大 不 大?
その部屋は広いですか。

[福州語]只 粒 苹果 会 甜 㑹?
[標準語]这 个 苹果 甜 吗?
このリンゴは甘いですか。

肯定形で答える場合は形容詞の前に“野”などの副詞をおく。

[福州語]只 架 电脑 会 贵 㑹? ——野 贵。
[標準語]这 台 电脑 贵 吗? ——很 贵。
このパソコンは高いですか。——高いです。

[福州語]者 鱼 会㑹 鲜? ——真 鲜。
[標準語]这 鱼 新鲜 不 新鲜? ——很 新鲜。
この魚は新鮮ですか。——新鮮です。

肯定の答えとして“会”を用いた場合には、「そう思う」や「そう感じる」といった話し手の主観的な判断がこめられる。

[福州語]只 粒 苹果 会 甜 㑹? ——会 甜。
[標準語]这 个 苹果 甜 吗? ——很 甜 的。
このリンゴは甘いですか。——甘いです。(甘いと思いますよ。)

[福州語]者 鱼 会㑹 鲜? ——会 鲜。
[標準語]这 鱼 新鲜 不 新鲜? ——很 新鲜 的。
この魚は新鮮ですか。——新鮮です。(新鮮だと思いますよ。)

指示詞

遠称と近称の対立を持つ。さらに、名詞相当の機能を持つ事物指示詞と連体修飾語になる限定指示詞の２種類に分けられる。

	近　　称	遠　　称
事物指示	嚼 /tsui^{53}/	咽 /xui^{53}/
限定指示	只 /tsi^{33}/，者 /tsia^{33}/	许 /xy^{33}/，/xi^{33}/，/xia^{33}/

i) 事物指示

[福州語]嚼 是 甚乇?
[標準語]这 是 什么?
　　これは何ですか。

[福州語]嚼 会 食 其。
[標準語]这 可以 吃 的。
　　これは食べられます。

[福州語]艅使 获 咽 搬。
[標準語]不能 用 那个 搬。
　　それで運んではいけない。

ii) 限定指示

[福州語]只 架 电脑 野 好。
[標準語]这 架 电脑 很 好。
　　このパソコンはすごくいい。

[福州語]许 侬 野 悬。
[標準語]那 人 很 高。
　　あの人は背が高い。

[福州語]我 只 边 野 热。
[標準語]我 这 边 很 热。

こちらは暑い。

[福州語]嘴块 真 闹热。
[標準語]这里 很 热闹。
ここは賑やかです。

[福州語]许边 交通 真 方便。
[標準語]那边 交通 很 方便。
あそこは交通が便利です。

iii) 様態指示

“总款”、“者式”、“许款”、“许式”は動詞または名詞を修飾し、“只满”、“只”、“许满”、“许”は形容詞または心理動詞を修飾する。

[福州語]总款 办法 觍 好。
[標準語]这种 办法 不 好。
こんな方法はよくない。

[福州語]话 觍 使 许款 讲。
[標準語]话 不 能 那样 说。
そんな言い方をしては困る。

[福州語]许式 觍 使。
[標準語]那样 不 行。
それでは駄目だ。

[福州語]汝 溪势 只满 嫌 伊?
[標準語]你 为什么 这么 讨厌 他?
君はどうして彼のことをそんなに嫌がるの？

[福州語]汝 房裡 许满 热 啊?
[標準語]你 房间 那么 热 啊?
君の部屋はそんなに暑いの？

[福州語]我 许块 无 只 热。

[標準語]我 那里 没有 这么热。

僕のところはこんなには暑くない。

5. 動詞“是”/主述述語文

[会話文]

5-1

[標準語]王建：你 好，我 是 王建。

Wángjiàn: Nǐ hǎo, wǒ shì Wáng jiàn.

Wangjian : you good(*hello*), I am Wangjian

[福州語]王建：你 好，我 是 王建。

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : ny^{33} xo^{33} , ŋuai^{33} si^{53} uoŋ^{21}kyoŋ^{213}

Wangjian : you good(*hello*), I am Wangjian

王建：こんにちは、わたしが王建です。

5-2

[標準語]张明：欢迎 欢迎！ 我 叫 张明。

Zhāngmíng: Hunāyíng huāngyíng! Wǒ jiào Zhāng míng.

Zhangming : welcome welcome ! I call Zhangming

[福州語]张明：欢迎 欢迎！ 我 名 张明。

tuoŋ^{55}miŋ^{53} : xuaŋ^{55}ŋiŋ^{53} xuaŋ^{55}ŋiŋ^{53}! ŋuai^{33} miaŋ^{53} tuoŋ^{55}miŋ^{53}

Zhangming : welcome welcome! I call Zhangming

張明：ようこそ！張明ともうします。

5-3

[標準語]王建：噢，你 就 是 张明！ 你 好！

Wángjiàn: O, nǐ jiù shì Zhāng míng! Nǐ hǎo!

Wangjian : Oh, you just are Zhangming! you good(*hello*)

[福州語]王建：噢，你 就 是 张明！ 你 好！

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : o, ny^{33} tsiu^{21} lei^{21} tuoŋ^{55}miŋ^{53} ! ny^{33} xo^{33}

Wangjian : Oh, you just are Zhangming! you good(*hello*)

王建：ああ、あなたが張明さんですか！はじめまして。

5-4

[標準語]张明：你 好！ 咱们 走 吧。

Zhāngmíng: Nǐ hǎo! Zánmen zǒu ba.

Zhangming : you good(*hello*)! we move MOD

[福州語]张明：你 好！ 依家 行 咯 吧。

tuoŋ^{55}miŋ^{53} : ny^{33} xo^{33} ! naŋ^{55}ŋa^{55} kiaŋ^{53} ŋo βa

Zhangming : you good(*hello*)! we move ASP MOD

張明：はじめまして。さあ行きましょう。

5-5

[標準語]王建：北京 夏天 真 热！

Wángjiàn: Běijīng xiàtiān zhēn rè!

Wangjian : Beijing summer really hot

[福州語]王建：北京 夏天 乍是 热！

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : pøyʔ^{21}kiŋ^{55} xa^{55}lieŋ^{55} tsia^{21}li^{55} ieʔ^{5}

Wangjian : Beijing summer really hot

王建：北京の夏は本当に暑いですね。

5-6

[標準語]张明：是 啊，今天 三十九 度。

Zhāngmíng: Shì a, jīntiān sānshíjiǔ dù.

Zhangming : correct(be) MOD, today 39 degree

[福州語]张明：正是，今旦 三十九 度。

tuoŋ^{55}miŋ^{53} : tsiaŋ^{53}nei^{242} , kiŋ^{53}naŋ^{213} saŋ^{21}neiʔ^{21}kau^{55} lou^{242}

Zhangming : really-correct(be), today 39 degree

張明：そうですよ。今日は３９度です。

[語 句]

【名】「呼ぶ、いう」。標準語の“叫”に相当。

【咯】変化を表す文末助詞。10 節を参照。

【乍是】「本当に」。

【今旦】「今日」。「昨日」は“蜀冥”、「明日」は“明旦”。

[文 法]

動詞“是”の動詞述語文

[福州語]我 是 福州 人。
[標準語]我 是 福州 人。
　　僕は福州人です。

[福州語]只 本 书 是 伊 其。
[標準語]这 本 书 是 他 的。
　　この本は彼のです。

否定の場合は“是”の前に“伻”をおく。

[福州語]伊 伻 是 福州 人。
[標準語]他 不 是 福州 人。

[福州語]只 把 伞 伻 是 我 其。
[標準語]这 把 伞 不 是 我 的。
　　この傘は僕のではない。

反復疑問文には次の二種類がある。

[福州語]伊 是 伻是 学生?
[標準語]他 是 不 是 学生?
　　彼は学生ですか。

[福州語]汝 是 老 李 伻是?
[標準語]你 是 老 李 吧?
　　あなたは李さんですね。

“是伻是”は[siŋ^{53}nei^{242}]と発音される。また、“是～伻是”の場合、“伻是”は[nei]と発音される。この場合の[nei]に声調はなく、疑問の上昇イントネーションのみをもつ。

“伻是”[nei]はさらに文法化され、“是”以外の動詞述語文の文末に付いて、相手に確認を促すことができる。

[福州語]汝 明旦 去 西湖 伓是?
[標準語]你 明天 去 西湖, 是 吧?
君はあした西湖へ行くんですよね。

[福州語]汝 买 半斤 伓是?
[標準語]你 买 半斤, 是 吧?
250 グラムお買い上げですね。

主述述語文

S＋S＋Vの形式が成立する条件ついて、標準語との相違はとくに見当たらない。

[福州語]福州 夏天 野 热。
[標準語]福州 夏天 很 热。
福州の夏は暑い。

[福州語]伊 身体 野 好。
[標準語]他 身体 很 好。
彼は元気です。

[福州語]汝 工作 会 忙 舰?
[標準語]你 工作 忙 吗?
仕事は忙しいですか。

[福州語]汝 饭 食 咯 未?
[標準語]你 饭 吃 了 没有?
食事はもう済んだ？

[福州語]我 羊肉 无 食。
[標準語]我 羊肉 不 吃。
ぼくは羊の肉は食べない。

6. 存在文

[会話文]

6-1

[標準語]李丽：请问，你们 这儿 有 公用电话 吗?

Lǐlì : Qǐngwèn, nǐmen zhèr yǒu gōngyòngdiànhuà ma？

Lili : HNO(ask)-ask, you-PLU here have public-telephone MOD

[福州語]李丽：请问，汝 各依 嘴块 有 公用电话 无?

li^{55}la^{242} : tshiaŋ^{55}muoŋ^{213} , ny^{33} ko^{21}noyŋ^{53} tsu^{53}uai^{213} ou^{242}

kuŋ^{53}ŋoyŋ^{242}tieŋ^{53}ŋua^{242} mo^{53}

Lili : HNO(ask)-ask, you PLU here have-not-have public-telephone

李麗：すみません、こちらに公衆電話はありますか？

6-2

[標準語]售货员：我们 这儿 没有。

Shòuhuòyuán: Wǒmen zhèr méiyou.

salesclerk : I-PLU here not-have

[福州語]售货员：我 各依 嘴块 无。

siu^{21}uo^{55}uoŋ^{53} : ŋuai^{33} ko^{21}noyŋ^{53} tsu^{53}uai^{213} mo^{53}

salesclerk : I PLU here not-have

店員：ここにはございません。

6-3

[標準語]李丽：这 附近 有 吗?

Lǐlì: Zhè fùjìn yǒu ma？

Lili : this neighborhood have MOD

[福州語]李丽：嘴块 附近 有无?

li^{55}la^{242} : tsu^{53}uai^{213} xu^{53}køyŋ^{242} ou^{242}mo^{53}

Lili : here neighborhood have-not-have

李麗：この近くにありますか？

6-4

[標準語]售货员：有，马路 对面 有。

Shòuhuòyuán: Yǒu, mǎlù duìmiàn yǒu.

salesclerk : have, street the-other-side have

[福州語]售货员：有，马埕 对面 有。

siu^{21}uo^{55}uoŋ^{53} : ou^{242} , ma^{55}luo^{242} tøy^{53}meiŋ^{213} ou^{242}

salesclerk : have, street the-other-side have

店員：はい。通りの向こう側にございます。

6-5

[標準語]李丽：谢谢！

Lǐlì : Xièxie !

Lili : thank-thank(*thank you*)

[福州語]李丽：谢谢！

li^{55}la^{242} : sia^{53}lia^{242}

Lili : thank-thank(*thank you*)

李麗：どうもありがとう。

6-6

[標準語]售货员：不 客气！

Shòuhuòyuán: Bú kèqi !

salesclerk : not hesitate

[福州語]售货员：无 客气！

siu^{21}uo^{55}uoŋ^{53} : mo^{21} eiʔ^{55}khei^{213}

salesclerk : not-have hesitate

店員：どういたしまして。

[語 句]

【嘸块】「ここ」。比較的広い近くの場所を指す。

【无客气】「どういたしまして」。文字通りには「ご遠慮なく」。

[文 法]

存在文と所有文

動詞“有”は存在文と所有文の両方に用いられる。

1）存在文

[福州語]桌面 有 蜀 本 字典。

[標準語]桌子上 有 一 本 字典。

机の上に辞書があります。

[福州語]汝 各依 嚼块 有无 公用电话?
[標準語]你们 这儿 有 没 有 公用电话?
こちらに公衆電話はありますか。

[福州語]汝 各依 嚼块 有 公用电话 无?
[標準語]你们 这儿 有 公用电话 吗?
こちらに公衆電話はありますか。

[福州語]嚼块 附近 无 超市。
[標準語]这 附近 没 有 超市。
この近くにスーパーはありません。

2）所有文

[福州語]伊 有 三 隻 伲囝。
[標準語]他 有 三 个 孩子。
彼には三人の子供がいます。

[福州語]汝 有无 字典?
[標準語]你 有 没 有 字典?
あなたは辞書を持っていますか。

[福州語]汝 有 字典 无?
[標準語]你 有 字典 吗?
あなたは辞書を持っていますか。

[福州語]我 无 钱。
[標準語]我 没 有 钱。
ぼくはお金がない。

7. 所在文/変化の“了”

[会話文]

7-1

[標準語]师母：喂！

shīmǔ: Wéi!

teacher-mother : hello

[福州語]先生姆：喂！

siŋ^{21}naŋ^{53}mu^{33} : øy^{53}

teacher-mother : hello

奥様：もしもし。

7-2

[標準語]大野：喂，师母 您 好！ 我 是 大野。

Dàyě: Wéi, shīmǔ nín hǎo! Wǒ shì Dà yě.

Daye : hello, teacher-mother you good! I am Daye

[福州語]大野：喂，先生姆 汝 好！ 我 是 大野。

duai^{53}ia^{33} : øy^{53} , siŋ^{21}naŋ^{53}mu^{33} ny^{33} hao^{33} ! ŋuai^{33} si^{21} duai^{53}ia^{33}

Daye : hello, teacher-mother you good! I am Daye

大野：もしもし。奥様、こんにちは。大野です。

7-3

[標準語]师母：哟，是 大野 呀！ 好 久 不 见 了。

shīmǔ: Yō, shì Dàyě ya! Hǎo jiǔ bú jiàn le.

teacher-mother : Oh, be Daye MOD! very long not see MOD

[福州語]先生姆：哎哟，是 大野！ 野 昕 无 看见 汝 了 啊。

siŋ^{21}naŋ^{53}mu^{33} : ai^{55}yo^{55} , si^{21} duai^{53}ia^{33} ! ia^{21} ouŋ^{53} mo^{21} aŋ^{53}ŋieŋ^{213} ny^{33} lau^{33} a .

teacher-mother : Oh, be Daye! very long not-have look-see you MOD MOD

奥様：まあ大野さん。お久しぶりね。

7-4

[標準語]大野：是 啊。 好 久 不 见 了。 您 身体 好 吗?

Dàyě: Shì a. Hǎo jiǔ bú jiàn le. Nín shēntǐ hǎo ma?

Daye : correct MOD. very long not see MOD. you body good MOD

[福州語]大野：正是。 野 昕 无 看见 汝 了。 汝 身体 都 好?

duai^{53}ia^{33} : tsiaŋ^{53}nei^{242} . ia^{21} ouŋ^{53} mo^{21} aŋ^{53}ŋieŋ^{213} ny^{33} lau^{33} . ny^{33} siŋ^{53}thɛ^{33} tu^{53} xo^{33}

Daye : really-correct. very long not-have look-see you MOD. you body all good

大野：はい、ご無沙汰しております。奥様はお元気ですか？

7-5

[標準語]师母：挺 好 的。 你 找 老 王 吗?

shīmǔ: Tǐng hǎo de. Nǐ zhǎo lǎo Wáng ma?

teacher-mother : very good MOD. you search SUF(old) Wang MOD

[福州語]先生姆：都 好 都 好。 汝 讨 老 王 伓是?

siŋ^{21}naŋ^{53}mu^{33} : tu^{53} xo^{33} tu^{53} xo^{33} . ny^{33} tho^{33} no^{21} uoŋ^{53} nei

teacher-mother : all good all good. you seek SUF(old) Wang MOD

奥様：ええ元気よ。主人にご用かしら？

7-6

[標準語]大野：对，我 想 找 王 老师，他 在 家 吗?

Dàyě: Duì, wǒ xiǎng zhǎo Wáng lǎoshī, tā zài jiā ma?

Daye : correct, I want search Wang teacher, he be home MOD

[福州語]大野：正是。我 想 讨 王 先生，伊 有 夹 厝吼 无?

duai^{53}ia^{33} : tsiaŋ^{53}nei^{242} . ŋuai^{33} suoŋ^{33} tho^{33} uoŋ^{21} niŋ^{55}naŋ^{55} , i^{55} u^{55} kaʔ^{5} tshuo^{213}lɛ mo^{53}

Daye : really-correct. I want seek Wang teacher, he have be home-in not-have

大野：はい、王先生をお願いしたいんですが、ご在宅でしょうか？

7-7

[標準語]师母：他 不 在，还 在 学校 呢。

shīmǔ: Tā bú zài, hái zài xuéxiào ne.

teacher-mother : he not be, also be school ASP

[福州語]先生姆：伊 无 夹 吼，固 夹 学校吼。

siŋ^{21}naŋ^{53}mu^{33} : i^{55} mo^{55} aʔ^{5} lɛ , ku^{55} aʔ^{5} xouʔ^{21}xau^{242}lɛ

teacher-mother : he not-have be ASP, also be school-in

奥様：いないのよ。まだ学校なの。

7-8

[標準語]大野：噢，是 嘛。那 回头 我 再 打 电话。

Dàyě :Ō, shì ma.Nà huítóu wǒ zài dǎ diànhuà.

Daye : Oh, be MOD. then turn-head(*after a while*) I again hit telephone

[福州語]大野：噢。咽 我 过 蜀刻 介 拍 电话。

duai^{53}ia^{33} : o, xui^{53} ŋuai^{33} kuo^{213} lo^{21} khaiʔ^{24} kai^{21} ɸaʔ^{21} tieŋ^{53}ŋua^{242}

Daye : Oh. then I pass a-while again hit telephone

大野：そうですか。ではまたあとでかけなおします。

[語 句]

【先生姆】恩師の夫人に対する敬称。“先生娘”とも言う。“先生”は「先生」の意。

【啊】文末助詞。ここでは感嘆を表す。

【都】副詞「すべて」。ここでは時間に転じて「ずっと」の意。

【伓是】疑問を表す。標準語の“是不是”に相当。5 節を参照。

【吼】場所を示す方位詞。7-6 の場合は省略不可。

【吼】持続を表す。

【夹】存在を表す動詞。

【着】存在を表す動詞。7-7 の場合は“夹”との置き換えが可能。

[文 法]

所在文

ものの存在を前提として、それがどこにあるかを問題にする文。

[福州語]许 本 字典 夹 桌吼。

[標準語]那 本 字典 在 桌子上。

あの辞書は机の上にあります。

[福州語]老 王 着 厝吼。

[標準語]老 王 在 家里。

王さんは家にいる。

[福州語]伊 固 夹 学校吼。

[標準語]他 还 在 学校 呢。

彼はまだ学校にいるんです。

“有”を用いる次の文は、「彼が家にいるかどうか」という事実を確認する。

[福州語]伊 有 夹 厝吼 无?
[標準語]他 在 家 吗?
彼は家にいますか。

所在文を否定するときは“无”を使う。

[福州語]伊 无 夹 厝吼。
[標準語]他 不 在 家。
彼は家にいません。

“伓”を用いる次の文は動作者の意思を否定する。

[福州語]我 伓 夹 厝吼。
[標準語]我 不 愿意 在 家。
ぼくは家にいたくありません。

変化を表す文末助詞“了”

文末助詞の“了”は事態の変化を表す。動作・行為の完了を表す用法については10節を参照。

[福州語]野 昕 无 看见 汝 了 啊!
[標準語]好 久 不 见 了!
お久しぶりです!

[福州語]伊 也 是 大学生 了。
[標準語]他 也 是 大学生 了。
彼も大学生になった。

[福州語]伊 伓 去 了。
[標準語]他 不 去 了。
彼は行かないことになった。

8. 選択疑問文/二重目的語文

[会話文]

8-1

[標準語]大野：你 这儿 有 汉语 语法 书 吗?

Dàyě : Nǐ zhèr yǒu hànyǔ yǔfǎ shū ma?

Daye : you here have Chinese grammar book MOD

[福州語]大野：汝 只角 有 汉语 语法 书 无?

duai^{53}ia^{33} : ny^{33} tsi^{55}køyʔ^{24} ou^{242} xaŋ^{53}ŋy^{33} ŋy^{55}uaʔ^{24} zy^{55} mo^{53}

Daye : you this-place have Chinese grammar book not-have

大野：きみのところに中国語の文法書はある？

8-2

[標準語]李丽：有，你 要 初级 的 还是 要 中级 的?

Lǐlì :Yǒu, nǐ yào chūjí de háishì yào zhōngjí de?

Lili : have, you need elementary-course NOM also-be(*or*) intermediate-course NOM

[福州語]李丽：有，汝 拏 初级 其 固是 拏 中级 其?

li^{55}la^{242} : ou^{242} , ny^{33} tiʔ^{5} tshu^{53}ŋeiʔ^{24} ki ku^{21}li^{55} tiʔ^{5} tøyŋ^{53}ŋeiʔ^{24} ki

Lili : have, you need elementary-course NOM also-be(*or*) intermediate-course NOM

李麗：あるわよ。初級のが欲しい？ それとも中級の？

8-3

[標準語]大野：我 要 初级 的。

Dàyě: Wǒ yào chūjí de.

Daye : I need elementary-course NOM

[福州語]大野：我 拏 初级 其。

duai^{53}ia^{33} : ŋuai^{33} tiʔ^{5} tshu^{53}ŋeiʔ^{24} ki

Daye : I need elementary-course NOM

大野：初級のが欲しいんだ。

8-4

[標準語]李丽：这 是 《汉语 语法 入门》，我 有 两 本，可以 送 你 一 本 吧。

Lǐlì:Zhè shì《Hànyǔ yǔfǎ rùmén》, wǒ yǒu liǎng běn, sòng nǐ yì běn ba.

Lili : this is “Chinese grammar introduction”, I have two CLA, can present

you one CLA MOD

[福州語]李丽：只 本 是 《汉语 语法 入门》，我 有 两 本，可以 送 汝 一 本。

li^{55}la^{242} : tsi^{24} βuoŋ^{33} si^{21} xaŋ^{53}ŋy^{33} ŋy^{55}uaʔ^{24} iʔ^{33}muoŋ^{53} , ŋuai^{33} ou^{242} naŋ^{53}muoŋ^{33} , kho^{24}i^{33} soyŋ^{213} ny^{33} lo^{33} βuoŋ^{33}

Lili : this CLA is "Chinese grammar introduction", I have two CLA, can present you one CLA

李麗：これは『漢語語法入門』っていうの。二冊持っているから、一冊あげるわ。

8-5

[標準語]大野：谢谢！ 真 不 好 意思。

Dàyě: Xièxie! Zhēn bù hǎo yìsi.

Daye : thank-thank(*thank you*)! very not good feelings

[福州語]大野：谢谢！ 野 㑹 好 意思。

duai^{53}ia^{33} : sia^{53}lia^{242} ! ia^{33} mɛ^{21} xo^{21} i^{53}løy^{213}

Daye : thank-thank(*thank you*)! very not-can good feelings

大野：ありがとう。本当にもうしわけないなあ。

8-6

[標準語]李丽：不 客气！

Lǐlì : Bú kèqi !

Lili : not hesitate

[福州語]李丽：无 客气！

li^{55}la^{242} : mo^{21} eiʔ^{55}khei^{213}

Lili : not-have hesitate

李麗：どういたしまして。

[語 句]

【只角】「ここ」。"角" は「コーナー」の意。8-1 は "嚼块(6-2 を参照)" に置き換えることも可能。

【其】「の」。標準語の "的" に相当。

【㑹好意思】"怀好意思" にはならない。

[文 法]

選択疑問文

“(是)…固是…” の形式によって二者択一の疑問文を作ることができる。

[福州語]汝（是）拄 日本 其 固是 拄 中国 其?
[標準語]你（是）要 日本 的 还是 要 中国 的?
日本のが欲しいですか、それとも中国のが欲しいですか。

[福州語]汝（是）去 北京 固是 去 上海?
[標準語]你（是）去 北京 还是 去 上海?
北京へ行きますか、それとも上海へ行きますか。

[福州語]（是）马文 去 固是 李丽 去?
[標準語]（是）马文 去 还是 李丽 去?
馬文さんが行きますか、それとも李麗さんが行きますか。

二重目的語構文

「与える」という意味を持つ動詞は後ろに二つの目的語をとることができる。

[福州語]我 乞 汝 蜀 粒 苹果。
[標準語]我 给 你 一 个 苹果。
ぼくは君にリンゴをあげよう。

[福州語]我 送 汝 蜀 粒 苹果。
[標準語]我 送 你 一 个 苹果。
ぼくは君にリンゴを(プレゼントして)あげよう。

[福州語]小 王 卖 伊 蜀 架 骹踏车。
[標準語]小 王 卖 了 他 一 辆 自行车。
王さんは彼に自転車を売った。

動詞“借”は「貸す」と「借りる」の両方の意味を表すことができる。

[福州語]小 王 借 伊 蜀 本 汉语 语法书。
[標準語]小 王 借 他 一 本 汉语 语法书。
王さんは彼に中国語の文法書を貸してやった。

王さんは彼から中国語の文法書を借りた。

日本語の補助動詞「～てやる」のように、動詞の直後に“乞”を伴うことができる。

[福州語]我 送乞 汝 蜀 本 书。
[標準語]我 送给 你 一 本 书。
君に本をプレゼントしてあげよう。

[福州語]我 卖乞 伊 蜀 架 骹踏车。
[標準語]我 卖给 他 一 辆 自行车。
ぼくは彼に自転車を売ってあげた。

[福州語]小 王 借乞 伊 蜀 本 汉语 语法书。
[標準語]小 王 借给 他 一 本 汉语 语法书。
王さんはかれに中国語の文法書を貸してやった。

※“乞”を伴うこの例には「王さんが僕から中国語の文法書を借りた」という意味はない。

[福州語]*小 王 教乞 我 汉语。
[標準語] 小 王 教给 我 汉语。
王さんはぼくに中国語を教えてくれた。

[福州語]我 寄乞 伊 蜀 隻 包裹。
[標準語]我 寄给 他 一 个 包裹。
ぼくは彼に小包を郵送した。

[福州語]*伊 买乞 我 蜀 把 钢笔 。
[標準語]*他 买给 我 一 支 钢笔。
彼はぼくにペンを買ってくれた。

[福州語]伊 买乞 我 其 钢笔 野 好 使。
[標準語]*他 买给 我 的 钢笔 很 好 用。

彼が買ってくれたペンは使いやすい。

[福州語]*伊 洗乞 我 蜀 件 汗衫。
[標準語]*她 洗给 我 一 件 衬衫。
彼女はぼくにシャツを洗ってくれた。

9. 前置詞

[会話文]

9-1

[標準語]马文：你们 家 怎么 走?

Mǎwén : Nǐmen jiā zěnme zǒu?

Mawen : you-PLU home how go

[福州語]马文：汝 厝 怎怎 行?

ma^{21}βuŋ^{53}: ny^{33} tshuo^{213} tsuoŋ^{21}nzuoŋ^{55} ŋiaŋ^{53}

Mawen : you home how go

馬文：きみの家ってどう行くの？

9-2

[標準語]李丽：从 你们 家 走 的 话，坐 十八 路，在 江滨 公园 下 车。

Lǐlì: Cóng nǐmen jiā zǒu de huà, zuò shíbā lù, zài Jiāngbīn gōngyuán xià chē.

Lili : from you-PLU home go NOM-speak(*if*), sit 18 CLA, at(be) Jiangbin park down car

[福州語]李丽：趁 汝 厝 行 其 话，坐 十八 路，夹 江滨 公园 落 车。

li^{55}la^{242} : theiŋ^{213} ny^{33} tshuo^{213} kiaŋ^{53} ŋi βua^{242} , soy^{242} seiʔ^{21}peiʔ^{55}lou^{242} , kaʔ^{5} kouŋ^{55}miŋ^{55} kuŋ^{55}ŋuoŋ^{53} no^{55} zia^{55}

Lili : from you home go NOM-speak(*if*), sit 18 CLA, at(be) Jiangbin park fall car

李麗：あなたの家からだと、１８番のバスに乗って、江浜公園で降りるのよ。

9-3

[標準語]马文：离 车站 远 吗?

Mǎwén : Lí chēzhàn yuǎn ma?

Mawen : from car-stop far MOD

[福州語] 马文：离 车站 会 远 舾?

ma^{21}βuŋ^{53}: nie^{242} tshia^{53}ziaŋ^{242} ɛ^{53} xuoŋ^{242} ma^{242}

Mawen : from car-stop can far not-can

馬文：バス停から遠い？

9-4

[標準語]李丽：不 远。走 五 分钟 左右。

Lǐlì : Bù yuǎn. Zǒu wǔ fēnzhōng zuǒyòu.

Lili : not far. go 5 minutes left-right(*about*)

[福州語]李丽：舾 远。行 五 分钟 左右。

li^{55}la^{242} : mɛ^{53} uoŋ^{242} . kiaŋ^{53} ŋu^{21} uŋ^{55}nzøyŋ^{55} tso^{55}iu^{242}

Lili : not-can far. go 5 minutes left-right(*about*)

李麗：遠くないわ。歩いて５分くらいよ。

9-5

[標準語]马文：那 一带 不 好 找，你 给 我 画 个 图 吧。

Mǎwén : Nà yídài bù hǎo zhǎo, nǐ gěi wǒ huà ge tú ba.

Mawen : that area not good search, you for(give) me draw CLA map MOD

[福州語]马文：许 块 真 伓 好 讨，汝 共 我 画 蜀 张 图 吧。

ma^{21}βuŋ^{53}: xy^{55} loy^{213} tsiŋ^{21} iŋ^{21} ŋo^{24} lo^{33} , ny^{33} køyŋ^{21} ŋuai^{55} ua^{242} lo^{55} luoŋ^{55} tu^{53} βa

Mawen : that CLA really not-can good search, you for(?) me draw one CLA map MOD

馬文：あの辺はわかりづらいから、地図かいてくれるかなあ。

9-6

[標準語]李丽：这样 吧，你 走 的 时候 给 我 打 个 电话，我 在 车站 等 你。

Lǐlì: Zhèyang ba, nǐ zǒu de shíhou gěi wǒ dǎ ge diànhuà, wǒ zài chēzhàn děng nǐ.

Lili : this-style MOD, you move NOM time for(give) me hit CLA telephone, I at(be) car-stop wait you

[福州語]李丽：总款 吧，汝 行 其 时候 共 我 拍 蜀 隻 电话，我 夹 车站 等 汝。

li^{55}la^{242} : tsuŋ^{24}ŋuaŋ^{33} ma , ny^{33} kiaŋ^{53} ŋi si^{21}au^{242} koyŋ^{21} ŋuai^{55} paʔ^{24} lo^{21} zieʔ^{24}

tieŋ^{53}ŋua^{242} , ŋuai^{33} kaʔ^{5} tshia^{53}ziaŋ^{242} tiŋ^{33} ny^{33}

Lili : this-way MOD, you move NOM time for(?) me hit telephone, I at(be) car-stop wait you

李麗：こうしましょうよ。出るときに電話をくれたら、バス停で待ってるわ。

[語 句]

【汝厝】9-1は“汝各依厝”とはできない。“汝各依厝”とした場合は、複数の人の家をさすことになる。

【落车】「下車する」

【总款】「このように」。

【隻】人や器具を数える量詞。“蜀隻茶杯”。

[文 法]

さまざまな前置詞

前置詞句が現れる位置は動詞句の前である。この点は標準語と変わらない。

i) [夹]: 場所を導く。

[福州語]我 夹 车站 等 汝。

[標準語]我 在 车站 等 你。

バス停で待っています。

[福州語]我 各依 夹 江滨 公园 落 车。

[標準語]我们 在 江滨 公园 下 车。

私たちは江浜公園で降ります。

ii) [共]: 受益者や共に動作を行う相手、動作・行為の対象を導く。

1）受益者

[福州語]我 共 汝 买 衣裳。

[標準語]我 给 你 买 衣服。

君に服を買ってあげよう。

[福州語]汝 行 其 时候 共 我 拍 蜀 隻 电话。
[標準語]你 走 的 时候 给 我 打 个 电话。
出るときに電話してください。

[福州語]汝 共 我 画 蜀 张 图。
[標準語]你 给 我 画 个 图。
地図を書いてください。

2）共に動作を行う相手

[福州語]大家 各依 共 我 齐 读!
[標準語]大家 跟 我 一起 念!
皆さん私と一緒に読んでください。

[福州語]只 哔 问题 我 着 共 伊 商量。
[標準語]这 个 问题 我 要 跟 他 商量。
この問題は彼と相談しなければならない。

3）動作・行為の対象（標準語の“把”の働きに相当）

[福州語]汝 共 房裡 扫 嘛。
[標準語]你 把 房间 打扫 一下。
部屋を掃除してください。

[福州語]伊 共 我 电脑 做呆 咯。
[標準語]他 把 我 的 电脑 弄坏 了。
彼は僕のパソコンを壊した。

iii) [趁・离]: 起点を導く。

[福州語]趁 嘞块 行 其 话, 着 有 十五 分钟 左右。
[標準語]从 这里 走 的 话, 得 要 十五 分钟 左右。
ここからだと、１５分くらいかかります。

[福州語]离 车站 会 远 艕?
[標準語]离 车站 远 吗?
バス停から遠いですか。

vi) [获・掏・使]: 道具や材料を導く。

[福州語]伊 都是 获 矿泉水 泡 茶。
[標準語]他 总是 用 矿泉水 沏 茶。
彼はいつもミネラルウォーターでお茶をいれます。

[福州語]掏 复印机 复印。
[標準語]用 复印机 复印。
コピー機でコピーする。

[福州語]我 使 钢笔 写 批。
[標準語]我 用 钢笔 写 信。
ぼくはペンで手紙を書きます。

10. アスペクト表現(1)

[会話文]

10-1

[標準語]李丽：前 几 天 我 给 你 打过 电话，你 好像 不 在。
Lǐlì : Qián jǐ tiān wǒ gěi nǐ dǎguo diànhuà, nǐ hǎoxiàng bú zài.
Lili: before some day I for(give) you hit-ASP telephone, you very-like not be
[福州語]李丽：前 几 日 我 共 汝 拍过 电话，汝 野像 无 夹 吼。
li^{55}la^{242} : seiŋ^{53} kui^{21} li^{5} ŋuai^{33} koyŋ^{21} ny^{55} phaʔ^{24} kuo^{213} tieŋ^{53}ŋua^{242} , ny^{33} ia^{55}zuoŋ^{242} mo^{55} aʔ^{5} lɛ
Lili: before some day I for you hit-ASP telephone, you very-like no-have be ASP
李麗：先日お電話したけど、留守だったみたいね。

10-2

[標準語]马文：我 去 香港 旅游 了。 你 去过 香港 吗?

Mǎwén :Wǒ qù Xiānggǎng lǚyóu le. Nǐ qùguo Xiānggǎng ma?

Mawen : I go Hong Kong travel ASP. you go-ASP Hong Kong MOD

[福州語]马文：我 去 香港 旅游。 汝 有 去过 香港 无?

$ma^{21}βuŋ^{53}$: $ŋuai^{33}$ kho^{21} $xyoŋ^{53}ŋøŋ^{33}$ $ny^{21}iu^{53}$. ny^{33} u^{53} $khɔ^{213}kuo^{213}$ $xyoŋ^{53}ŋøŋ^{33}$ mo^{53}

Mawen : I go Hong Kong travel. you have go-ASP Hong Kong not-have

馬文：香港へ旅行に行ってたんだ。行ったことある？

10-3

[標準語]李丽：没 去过。香港 好玩儿 吗?

Lǐlì : Méi qùguo. Xiānggǎng hǎowánr ma？

Lili : not-have go-ASP. Hong Kong good-play(*interesting*) MOD

[福州語]李丽：无 去过。香港 会 有味 㑹?

$li^{55}la^{242}$: mo^{21} $ɔ^{213}kuo^{213}$. $xyoŋ^{53}ŋøŋ^{33}$ $ε^{21}$ $u^{53}mei^{242}$ ma^{242}

Lili : not-have go-ASP. Hong Kong can have-taste(*interesting*) not-can

李麗：ないわ。香港っておもしろい？

10-4

[標準語]马文：很 好玩儿。街上 很 热闹，东西 也 很 便宜。

Mǎwén :Hěn hǎowánr. Jiēshang hěn rènao, dōngxi yě hěn piányi.

Mawen: very good-play. avenue-on very crowded, goods also very cheep

[福州語]马文：野 有味。街吼 野 闹热，乇 也 真 便宜。

$ma^{21}βuŋ^{53}$: ia^{21} $u^{53}mei^{242}$. $kε^{55}lε$ ia^{21} $nau^{55}ieʔ^{5}$, $nɔʔ^{24}$ ia^{21} $ziŋ^{55}$ $βeiŋ^{55}ŋie^{53}$

Mawen: very have-taste. avenue-in very crowded, goods also really cheep

馬文：おもしろいよ。通りはにぎやかだし、ものも安いんだ。

10-5

[標準語]李丽：你 都 买了 什么 东西?

Lǐlì :Nǐ dōu mǎile shénme dōngxi?

Lili : you all buy-ASP what goods

[福州語]李丽：汝 都 买 甚乇?

$li^{55}la^{242}$: ny^{33} tu^{53} $mε^{33}$ $lieŋ^{53}nɔʔ^{24}$

Lili : you all buy what-thing

李麗：なにを買ったの？

10-6

[標準語]马文：我 买了 这 套 西服。你 看 怎么样?

Mǎwén : Wǒ mǎile zhè tào xīfú. Nǐ kàn zěnmeyàng?

Mawen : I buy-ASP this CLA suit. you see how-style

[福州語]马文：我 买 只 蜀 套 西装。汝 看 怎其?

ma^{21}βuŋ^{53}: ŋuai^{33} mɛ^{33} tsi^{55} lo^{21} lɔ^{213} sɛ^{55}zouŋ^{55} . ny^{33} khaŋ^{213} tsuoŋ^{21}ŋi^{53}

Mawen : I buy this one CLA suit. you see how-about

馬文：このスーツを買ったんだ。どう？

10-7

[標準語]李丽：很 漂亮! 不过，这 领带 可 不 怎么样。

Lǐlì : Hěn piàoliang! Búguò, zhè lǐngdài kě bù zěnmeyàng.

Lili : very beautiful! not-pass(*but*), this tie very not how-style

[福州語]李丽：野 俊! 就是 只 领带 艄 遘 底呢 止。

li^{55}la^{242} : ia^{55} zouŋ^{213} ! tsiu^{53}lei^{242} tsia^{21} niaŋ^{55}nai^{213} mɛ^{53} au^{213} tie^{21}nœ^{24} tsi^{33}

Lili : very smart! just-be(*only*) this tie to(arrive) where stop(*not-until*)

李麗：かっこいいわね。ただ、そのネクタイがちょっとね。

10-8

[標準語]马文：不 懂 了 吧! 现在 香港 就 时髦 这 个。

Mǎwén : Bù dǒng le ba! Xiànzài Xiānggǎng jiù shímáo zhèi ge!

Mawen : not understand MOD MOD! now Hong Kong just in-fashion this CLA

[福州語]马文：汝 嗜 底 就 艄 光! 现在 香港 就 行时 者 乇。

ma^{21}βuŋ^{53}: ny^{33} tsui^{53} tɛ^{33} ziu^{21} mɛ^{55} uoŋ^{55} ! xieŋ^{53}nzai^{242} xyoŋ^{53}ŋøyŋ^{33} tsiu^{55} kiaŋ^{55}ni^{53} tsia^{55} nɔʔ^{24}

Mawen : you this bottom just not-can shine! now Hong Kong just in-fashion this thing

馬文：きみにはわからないだろうね。いま香港ではこれがはやりなんだよ。

[語 句]

【野像】「まるで～のようだ」。“野”は標準語の“很”に相当。

【吼】持続を表す。11 節を参照。

【有味】「おもしろい」。標準語の“有趣，有意思”に相当。

【乇】「もの、品物」。

【俊】見た目に美しい。

【舾遘底呢止】「たいしたことはない」という意味の慣用句。“遘底呢”は標準語の“到哪里”。

【嚙底就舾光】「わかっていない」という意味の慣用句。文字通りには「これについて底が明るくない」。

【嚙】「これ」。

【者】「この」。

[文 法]

[咯]と[了]

標準語では、アスペクト表現に二種類の“了”が関与していると考えられている。一つは、動詞の直後に現れ、動作・行為の完了を表す“了$_1$”であり、もう一つは、文末に現れ、事態の変化を表す“了$_2$”である。

福州語の場合、“了”[nau^{33}]はつねに文末に現れる。また、完了や変化のアスペクト表現には“了”だけではなく、文末助詞“咯”も深く関与していると考えられる。陈泽平(1992)は“咯”は「行く」という意味の動詞“去”が文法化したものであると指摘している。歴史的な考察はここでは措くとして、福州語に存在する二つの文末助詞“咯”と“了”の機能について、標準語の“了$_1$”や“了$_2$”と比較しつつ観察していくことにしたい。

i) 以下の例では、標準語の場合には完了を表す“了$_1$”を必要とするが、福州語の場合では“咯”や“了”は必要ない。

[福州語]我 买 蜀 架 骹踏车。
[標準語]我 买 了 一 辆 自行车。
ぼくは自転車を買いました。

[福州語]汝 都 看 甚乇 书?
[標準語]你 都 看了 什么 书?
君はどんな本を読んだんだい？

[福州語]伊 来 侬家 就 行 吧。
[標準語]他 来了 咱们 就 走 吧。

彼が来たら出かけましょう。

ii) “咯”は予想外の状態の変化を表す(陈泽平(1998)を参照)。

[福州語]老 张 病 咯。
[標準語]老 张 病 了。
張さんが病気になった。

[福州語]伊 最近 肥 咯。
[標準語]他 最近 胖 了。
彼はこのごろ太った。

[福州語]眼镜 跋破 咯。
[標準語]眼镜 摔破 了。
眼鏡が落ちて割れた。

[福州語]碗 破 两 隻 咯。
[標準語]碗 破 了 两 个。
お碗が二つ割れた。

[福州語]伊 写 几 字 就 伓 写 咯。
[標準語]他 写 了 几 个 字 就 不 写 了。
彼はちょっとだけ書いて書こうとはしなくなった。

iii) “了”はつねに文末に現れ、[nau^{33}] あるいは [lau^{33}] と発音される。完了と変化の両方を表すことができる。

[福州語] 伊 饭 食 了。
*伊 饭 食 咯。
[標準語] 他 饭 吃 了。
彼はご飯を食べた。

[福州語] 伊 批 写完 了。
*伊 批 写完 咯。

[標準語] 他 信 写完 了。
彼は手紙を書き終わった。

[福州語] 伊 去 上 班 了。
*伊 去 上 班 咯。
[標準語] 他 去 上 班 了。
彼は会社へ行った。

[福州語] 开始 逷 雪 了。
*开始 逷 雪 咯。
[標準語] 开始 下 雪 了。
雪が降り出した。

[福州語] 空调 开 吼 了。
*空调 开 吼 咯。
[標準語] 空调 开 着 呢。
エアコンはついているよ。

[福州語] 我 吼 写 了。
*我 吼 写 咯。
[標準語] 我 在 写 呢。
いま書いているところです。

[福州語] 三 点 了。
*三 点 咯。
[標準語] 三 点 了。
三時になった。

[福州語] 咪咪 已经 是 大学生 了。
*咪咪 已经 是 大学生 咯。
[標準語] 咪咪 已经 是 大学生 了。
咪咪はもう大学生になった。

iv) “咯”や“了”は助動詞“卜”とともに近接する未来を表すことができる。両者はどちらも将然の事態の表現に関与している。この点からも、“咯”や“了”が標準語の“了$_2$”に相当する機能を備えていることがわかる。

[福州語] 风 野 透，桌面 其 乇 都 卜 飞 咯。
*风 野 透，桌面 其 乇 都 卜 飞 了。
[標準語] 风 很 大，桌面上 的 东西 都 要 飞走 了。
風が強くて、机の上のものが飛ばされそうだ。

[福州語] 伊 声音 都 卜 告嗄 咯。
*伊 声音 都 卜 告嗄 了。
[標準語] 他 声音 都 快 喊哑 了。
彼は声がかすれるほど叫んだ。

[福州語] 卜 逿 雨 了。
*卜 逿 雨 了。
[標準語] 快 下 雨 了。
雨が降りそうだ。

[福州語] 伊 卜 来 了。
*伊 卜 来 了。
[標準語] 他 快 来 了。
彼はもうすぐ来ます。

v) 命令文では“咯”を使い、“了”は使えない。

[福州語] 作业 快 做 咯!
*作业 快 做 了!
[標準語] 快 做 作业!
はやく宿題をしなさい。

[福州語] 鞋 褪 咯!
*鞋 褪 了!
[標準語] 鞋子 脱 了!

靴を脱ぎなさい。

vi) “咯”と“了”は共起することができる。その際の順序は“咯了”である。“咯了”は変化と完了のどちらをも表すことができる。

[福州語]天 暗 咯 了。
[標準語]天 黑 了。
日が暮れた。

[福州語]三 点 咯 了。
[標準語]三 点 了。
三時になった。

[福州語]开水 开 咯 了。
[標準語]水 开 了。
お湯が沸いた。

[福州語]伊 饭 食 咯 了。
[標準語]他 饭 吃 了。
彼はご飯を食べた。

[福州語]作业 做完 咯 了。
[標準語]作业 做完 了。
宿題は出来上がりました。

vii) 疑問文と否定文

“咯”を含む文の疑問形式には、“～咯啦？”と“～咯未？”の二種類がある。答え方もそれぞれ異なる。

[福州語]伊 病 咯 啦？——正是，伊 病 咯。
[標準語]他 病 了？——对，他 病 了。
彼は病気になった？——はい、彼は病気になりました。

[福州語]伊 病 咯 啦？——无，伊 无 病。

[標準語]他 病 了? ——不，他 没 病。

彼は病気になった？——いいえ、彼は病気にはなっていません。

[福州語]雨 晴 咯 未? ——雨 晴 咯 了。

[標準語]雨 停 了 没有? ——雨 停 了。

雨はやみましたか。——雨はやみました。

[福州語]雨 晴 咯 未? ——雨 固 未 晴。

[標準語]雨 停 了 没有? ——雨 还 没 停。

雨はやみましたか。——雨はまだやんでいません。

[福州語]伊 ト 行 咯 未? ——伊 ト 行 咯 了。

[標準語]他 要 走 了 吗? ——他 要 走 了。

彼はもうすぐ出かけますか。——彼はもうすぐ出かけます。

“未”は否定辞と“了”が一つになったものと考えられる。“未”と“了”は一文中に共起することができない。

[福州語]雨 晴 咯 未? ——*雨 固 未 晴 咯 了。

[標準語]雨 停 了 没有? ——*雨 还 没 停 了。

雨はやみましたか。——雨はまだやんでいません。

[福州語] 开始 未? ——固 未 开始。

*开始 了 未? ——*固 未 开始 了。

[標準語] 开始 了 没有? ——还 没 开始。

始まったか。——まだ始まっていない。

[过]

経験済みであることを表したり、実現済みであることを表す。

i) 経験

[福州語]汝 有 看过 只 片 电影 无?

[標準語]你 看过 这 片 电影 吗?

君はこの映画を見たことがありますか。

[福州語]汝 有无 看过 只 片 电影?
[標準語]你 看过 这 片 电影 没有?
君はこの映画を見たことがありますか。

[福州語]我 各依 (有) 登过 万里长城。
[標準語]我们 登过 万里长城。
ぼくたちは万里の長城に登ったことがあります。

否定には“无”を使う。“无”と“过”は共起してよい。

[福州語]小 马 无 食过 生鱼片。
[標準語]小 马 没有 吃过 生鱼片。
馬さんはお刺身を食べたことがありません。

ii) 実現済み

[福州語]前几日 我 共 汝 拍过 电话。
[標準語]前几天 我 给 你 打过 电话。
数日前ぼくはきみに電話をかけました。

※次のような状況では、“过”よりも“咯了”を使うのが一般的である。

[福州語]A：汝 饭 食 咯 未? ——B：我 已经 食 咯 了。
[標準語]A：你 吃 饭 了 吗? ——B：我 已经 吃(过) 了。
A：ご飯食べた？——B：もう食べちゃった。

[福州語]A：汝 共 伊 讲 咯 未? ——B：我 共 伊 讲 咯 了。
[標準語]A：你 跟 他 说 了 吗? ——B：我 跟 他 说(过) 了。
A：ご飯食べた？——B：もう食べちゃった。

11. アスペクト表現(2)

[会話文]

11-1

[標準語]马文：谁 呀?

Mǎwén : Shéi ya?

Mawen: who MOD

[福州語]马文：底侬?

$ma^{21}βuŋ^{53}$: $tie^{55}nøyŋ^{53}$

Mawen: who

馬文：だれ？

11-2

[標準語]李丽：是 我，李 丽。到 点 了，该 走 了。

LǐLì :Shì wǒ, LǐLì. Dào diǎn le, gāi sǒu le.

Lili: be me, Lili. arrive time ASP, should go ASP

[福州語]李丽：是 我，李 丽。遘 时候 了 啊，着 行 了 啊。

$li^{55}la^{242}$:si^{53} $ŋuai^{33}$, $li^{55}la^{242}$. kau^{53} $si^{21}au^{242}$ lau^{33} a , $tuoʔ^{5}$ $kiaŋ^{53}$ nau^{33} a

Lili: be me, Lili. arrive time ASP MOD, should go ASP MOD

李麗：わたしよ、李麗。時間よ、行かなくちゃ。

11-3

[標準語]马文：先 别 着急，进来 坐 会儿。

Mǎwén: Xiān bié zháojí, jìnlái zuò huǐr.

Mawen: first don't hurry, enter-come sit a-while

[福州語]马文：先 莫 急，裡来 坐 啊。

$ma^{21}βuŋ^{53}$: $seiŋ^{21}$ mo^{53} $keiʔ^{24}$, $tie^{33}li^{21}$ soy^{242} la^{242}

Mawen: first don't hurry, enter-come sit a-little

馬文：まずは慌てずに、入って座りなよ。

11-4

[標準語]李丽：瞧 你 围着 围裙，还 在 做 饭 哪?

LǐLì :Qiáo nǐ wéizhe wéiqún, hái zài zuò fàn na?

Lili: see you wear-ASP apron, still ASP(be) make meal MOD

[福州語]李丽：汝 固 戴吼 围身裙，固 吼 煮 饭 啊?

$li^{55}la^{242}$: ny^{33} ku^{53} $tai^{213}lε$ $ui^{21}liŋ^{55}ŋuŋ^{53}$, ku^{21} $lε^{21}$ zy^{55} $puoŋ^{242}$ ŋa

Lili: you still wear-ASP apron, still ASP boil meal MOD

李麗：エプロンなんか着けちゃって、まだご飯作ってるの？

11-5

[標準語]马文：对，马上 就 好。

Mǎwén: Duì, mǎshang jiù hǎo.

Mawen: correct, soon just good.

[福州語]马文：正是，此刻 就 好。

ma^{21}βuŋ^{53}: tsiaŋ^{53}nei^{242} , tshy^{55}khaiʔ^{24} ziu^{53} o^{33}

Mawen: really-correct(be), this-time(*soon*) just good.

馬文：そう、すぐできるよ。

11-6

[標準語]李丽：你 真 行，一点儿 都 不 着急。

Lǐlì :Nǐ zhēn xíng, yìdiǎnr dōu bù zháojí.

Lili: you really great(go), a-little all not hurry

[福州語]李丽：汝 野 霸，蜀粒 都 艄 急。

li^{55}la^{242} : ny^{33} ia^{55} βa^{213} , so^{33}laʔ^{5} tu^{21} mɛ^{53} eiʔ^{24}

Lili: you very brave(dominant), a-little all not-can hurry

李麗：本当にたいしたもんね、まったく慌ててないんだから。

11-7

[標準語]马文：你 别 急，王 建 还 没 来 呢。他 来了 咱们 就 走。

Mǎwén:Nǐ bié jí, Wáng jiàn hái méi lái ne. Tā láile zánmen jiù zǒu.

Mawen: you don't hurry, Wang Jian yet not-have come ASP. he come-ASP we just go

[福州語]马文：汝 莫 急，王 建 固 未 来 吼。伊 来 侬家 就 行。

ma^{21}βuŋ^{53}:ny^{33} mo^{53} keiʔ^{24} , uoŋ^{21} kyoŋ^{213} ku^{21} mui^{55} li^{53} lɛ . i^{55} li^{53} naŋ^{55} ŋa^{55} tsiu^{55} kiaŋ^{53}

Mawen: you don't hurry, Wang Jian yet not-yet come ASP. he come we just go

馬文：あわてなさんなって。王建さんはまだ来てないじゃない。彼が来たら出かけましょう。

11-8

[標準語]李丽：行，你 快 点儿 吧。

Lǐlì :Xíng, nǐ kuài diǎnr ba.

Lili: go(*OK*), you quick a-little MOD

[福州語]李丽：会使，汝 快 仂囝。

li^{55}la^{242} : a^{24}lai^{33} , ny^{33} kha^{213} niʔ^{24}kiaŋ^{33}

Lili: can-use(*OK*), you quick a-little

李麗：わかったわ。急いでちょうだいね。

[語 句]

【着】「～すべきである」という意味の助動詞。(同音字)

【啊】文末助詞。相手の注意を呼び起こしたり、疑問を表す機能を持つ。

【蜀粒】“粒”は丸いものを数える量詞(類別詞)。文字通りには「ひとつ」。転じて「少し」の意。“蜀粒都+否定”は全否定を表す。

【未】「いまだ～ない」という意味の副詞。

【仂囝】「少し、ちょっと」。“水多食仂囝(水多喝一点儿)「水分を多めに取ってください」”

[文 法]

持続の“吼”

“吼”は動詞の直後に現れ、持続を表すことができる。前の音節が母音で終わる場合は[lɛ]、[-ŋ]で終わる場合は[nɛ]、入声で終わる場合は[tɛ]と発音する。

“吼”は必ず動詞の後ろにおかれる。

[福州語]门 关吼。

[標準語]门 关着。

ドアは閉まっている。

[福州語]伊 蹲吼。

[標準語]他 蹲着。

彼はうずくまっている。

[福州語]伊 戴吼 围身裙。

[標準語]她 围着 围裙。

彼女はエプロンを着けている。

[福州語]老 王 牵吼 蜀 架 骸踏车。
[標準語]老 王 牵着 一 辆 自行车。
王さんは自転車を押している。

“V吼”は様態表現として、しばしば他の述語の連用修飾語になる。

[福州語]伊 坐吼 讲。
[標準語]她 坐着 说。
彼女は座って話す。

[福州語]伊 拈吼 伞 散步。
[標準語]他 拿着 伞 散步。
彼は傘を持って散歩している。

※ 標準語の“走着去(歩いていく)”“走着来(歩いてくる)”は、福州語では次のようになる。標準語に置き換えれば“走路去”“走路来”である。

[福州語]依家 行 垡 去!
[標準語]咱们 走着 去 吧。
歩いていきましょうよ。

事実を否定する場合は“无”を使い、動作主の意思を否定する場合は“伓”を使う。この点は、標準語の“没有”と“不”の対立と平行している。

[福州語]伊 无 坐吼 讲。
[標準語]她 没有 坐着 说。
彼女は座っては話さなかった。

[福州語]伊 伓 坐吼 讲。
[標準語]她 不 坐着 说。
彼女は座って話そうとはしない。

“吼”は命令文に使われることもある。

[福州語]汝 坐吼!

[標準語]你 坐着!

座っていなさい。

[福州語]汝 只 本 书 拈吼!

[標準語]你 这 本 书 拿着!

この本を持っていきなさい。

疑問の形式には次の三種類がある。

i) 有无＋V＋吼

[福州語]电光 有无 开吼? ——有，电光 有 开吼。

[標準語]电灯 开着 吗? ——对，电灯 开着。

電気はついていますか。——はい、電気はついています。

[福州語]伊 有无 倒吼 看 书? ——无，伊 无 倒吼 看 书。

[標準語]他 有没有 躺着 看 书? ——没有，他 没有 躺着 看 书。

彼は寝ながら本を読んでいましたか。——いいえ、彼は寝ながら本を読んではいませんでした。

ii) 有＋V＋吼＋无

[福州語]汝 手表 有 戴吼 无? ——我 手表 无 戴吼。

[標準語]你 戴着 手表 吗? ——我 没戴 手表。

時計を持っていますか。——私は時計を持っていません。

[福州語]伊 有 徛吼 唱 无? ——有，伊 有 徛吼 唱。

*伊 徛吼 唱 无?

[標準語]他 站着 唱 了 吗? ——是，他 站着 唱 了。

彼は立って歌っていたのですか。——はい、彼は立って歌っていました。

iii) V＋吼＋无

[福州語]老 张 夹吼 无? ——伊 夹吼。

[標準語]老 张 在 吗? ——他 在。

張さんはいますか。——彼はいます。

[福州語]空调 开吼 无? ——空调 无 开吼。
[標準語]空调 开着 吗? ——空调 没 开着。
エアコンはついていますか。——エアコンはついていません。

進行の“吼”

“吼”は存在動詞“夹、着、屈、住”などと共に動作・行為の進行を表すことができる。

[福州語]伊 夹吼 听 音乐。
[標準語]他 在 听 音乐。
彼は音楽を聞いている。

[福州語]小 张 着吼 写 批。
[標準語]小 张 在 写信。
張さんは手紙を書いている。

“吼”を単独で用いることもできる。これは存在動詞の“夹、着、屈、住”などが省略されたものと考えられる。

[福州語]依 爸 吼 食 饭。
[標準語]爸爸 在 吃 饭。
お父さんはご飯を食べています。

[福州語]伊 吼 写 报告。
[標準語]他 在 写 报告。
彼はレポートを書いています。

疑問文や否定文では存在動詞を省略することはできない。

[福州語]伊 有 着吼 做 作业 无? ——有，伊 着吼 做 作业。
[標準語]他 在 做 作业 吗? ——是，他 在 做 作业。
彼は宿題をしていますか。——はい、彼は宿題をしています。

[福州語]汝 只昕 夹吼 看 电视 无? ——无，我 只昕 无 夹吼 看 电视。
[標準語]你 这会儿 在 看 电视 吗? ——没有，我 这会儿 没 在 看 电视。
いまテレビを見ていますすか。——いいえ、いまはテレビを見ていません。

ただし、疑問詞疑問文の場合は存在動詞を省略してよい。

[福州語]小 李 只昕 (夹)吼 做 甚乇?
[標準語]小 李 这会儿 在 干 什么?
李さんはいま何をしていますか。

[福州語]汝 (夹)吼 看 甚乇 书?
[標準語]你 在 看 什么 书?
何の本を読んでいるの？

[福州語]汝 (着)吼 写 甚乇?
[標準語]你 在 写 什么?
何を書いているの？

12. とりたて表現/結果補語/方向補語

[会話文]

12-1

[標準語]马文：今晚 的 全 明星 篮球 赛，我 弄到了 两 张 票。
Mǎwén: Jīnwǎn de quán míngxīng lǎnqiú sài, wǒ nòngdàole liǎng zhāng piào.
Mawen: this-evening of all star basketball match, I do-arrive-ASP two CLA ticket

[福州語]马文：今晡 其 全 明星 篮球 赛，我 寻着 两 张 票。
ma^{21}βuŋ^{53}: kiŋ^{55}muo^{55} i tsuoŋ^{55} miŋ^{55}niŋ^{55} naŋ^{21}ŋiu^{21}lui^{213} , ŋuai^{33} siŋ^{53}nuoʔ^{5} naŋ^{55} nuoŋ^{55} phiu^{213}

Mawen: this-evening of all star basketball match, I seek-arrive two CLA ticket

馬文：今晩のオールスターバスケットの試合だけど、ぼく切符２枚手に入れたんだ。

12-2

[標準語]李丽：你 真 行！你 是 从 哪儿 弄 的 票？

Lǐlì :Nǐ zhēn xíng! Nǐ shì cóng nǎr nòng de piào?

Lili: you really great(go)! you be from where do NOM ticket

[福州語]李丽：汝 野 硬！汝 是 底呢 寻 其 票？

li^{55}la^{242} : ny^{33} ia^{55} ŋaiŋ^{242} ! ny^{33} si^{21} tie^{21}nœ^{21} liŋ^{53} ŋi phiu^{213}

Lili: you very great(hard)! you be where seek NOM ticket

李麗：すごいわね。どこから手に入れたの？

12-3

[標準語]马文：是 朋友 送来 的。想 去 看 吗？

Mǎwén: Shì péngyou sònglái de. Xiǎng qù kàn ma?

Mawen: be friend present-come NOM. want go watch MOD

[福州語]马文：是 朋友 送来 其。会 想 去 看 舾？

ma^{21}βuŋ^{53}: si^{53} peiŋ^{33}ŋiu^{33} soyŋ^{213} ni^{53} i. ɛ^{53} suoŋ^{33} kho^{53} khaŋ^{213} ma

Mawen: be friend present-come NOM. can want go watch not-can

馬文：友達がくれたんだ。見に行きたい？

12-4

[標準語]李丽：太 想 看 了。可是 我 的 读书 报告 还 没 写完 呢。

Lǐlì :Tài xiǎng kàn le. Kěshì wǒ de dúshū bàogào hái méi xiěwán ne.

Lili: very want watch MOD. but I GEN read-book report yet not-have write-finish ASP

[福州語]李丽：野 想 看。俪是讲 我 其 读书 报告 固 未 写完。

li^{55}la^{242} : ia^{24} luoŋ^{33} khaŋ^{213} . na^{21}li^{53}kouŋ^{33} ŋuai^{33} i thøyʔ^{55}zy^{55} po^{53}kɔ^{213} ku^{21} mui^{53} sia^{33} uoŋ^{53}

Lili: very want watch. only-be-speak(*but*) I GEN read-book report yet not-yet write-finish

李麗：すごくいきたいわ。でも読書レポートが書き終わっていないの。

12-5

[標準語]马文：材料 都 找齐 了 吗？

Mǎwén :Cáiliào dōu zhǎoqí le ma?

Mawen: material all seek-ready ASP MOD

[福州語]马文：材料 都 讨全 咯 未?

ma^{21}βuŋ^{53}: tsai^{21}lau^{242} tu^{53} tho^{33}tsuoŋ^{53} ŋo mui^{242}

Mawen: material all seek-complete ASP not-yet

馬文：資料はもう集まってるの？

12-6

[標準語]李丽：都 找齐 了，大致 的 内容 也 想好 了。

Lǐlì :Dōu zhǎoqí le, dàzhì de nèiróng yě xiǎnghǎo le.

Lili: all seek-ready ASP, most-part of content also think-good ASP

[福州語]李丽：都 讨全 咯 了，大体 其 内容 也 想好 了。

li^{55}la^{242} : tu^{53} tho^{33}tsuoŋ^{53} ŋo lau^{33} , tai^{53}thɛ^{33} i nøy^{55}øyŋ^{53} ia^{53} suoŋ^{33} xo^{33} lau^{33}

Lili: all seek-complete ASP ASP, most-part of content also think-good ASP

李麗：ぜんぶ集まってるわ。大体の内容も考えたの。

12-7

[標準語]马文：那 就 快 了。抓紧 点儿，争取 下午 写完。

Mǎwén :Nà iù kuài le. Zhuājǐn diǎnr, zhēngqǔ xiàwǔ xiěwán.

Mawen: then just soon MOD. grasp-firmly(*hurry*) a-little, fight-get(*strive*) afternoon write-finish

[福州語]马文：咽 就 野 快 了。抓紧 仂囝，争取 下昼 写完。

ma^{21}βuŋ^{53}: xui^{53} tsiu^{53} kha^{242} lau^{33} . tsua^{53}kiŋ^{33} niʔ^{24}kiaŋ^{33} , tseiŋ^{53}tsy^{33} a^{53}lau^{213} sia^{33}uoŋ^{53}

Mawen: then just very soon MOD. grasp-firmly(*hurry*) a-little, fight-get(*strive*) afternoon write-finish

馬文：それじゃすぐさ。急いでやって、午後には書きあがるようにがんばりなよ。

12-8

[標準語]李丽：行！那 我 中午 就 不 休息 了。

Lǐlì :Xíng! Nà wǒ zhōngwǔ jiù bù xiūxi le.

Lili: go(*OK*)! then I noon just not rest ASP

[福州語]李丽：会使！咽 我 中午 就 伻 休息。

li^{55}la^{242} : a^{24}lai^{33} ! xui^{53} ŋuai^{33} tyŋ^{53}ŋu^{33} tsiu^{21} iŋ^{21} ŋiu^{53}leiʔ^{24}

Lili: can-use(*OK*)! then I noon just not rest

李麗：わかったわ。じゃお昼は休まないわ。

[語　句]

【着】「至る」。

【俪是讲】接続詞「しかし」。文字通りには「そうは言っても」。

[文　法]

とりたて表現

動作・行為がすでに実現したことを前提として、場所や時間、方法などに焦点を当てて述べる表現には“是～其”の形式を使う。“是”は焦点を当てる要素の前におくが、肯定形の場合は省略してもよい。

[福州語]伊 (是) 坐 飞机 来 其。
[標準語]他 (是) 坐 飞机 来 的。
　　彼は飛行機で来たのです。

[福州語]汝 (是) 甚乇 时候 来 其?
[標準語]你 (是) 什么 时候 来 的?
　　きみはいつ来たんですか。

[福州語]我 伓 是 夹 只角 买 其。
[標準語]我 不 是 在 这里 买 的。
　　ぼくはここで買ったのではありません。

目的語を伴う場合、“其”は動詞の直後に置く。標準語では、“其”を文末に置くことも可能だが、福州語では許されない。

[福州語] 汝 (是) 底呢 寻 其 票?
　　*汝 (是) 底呢 寻 票 其?
[標準語] 你 (是) 从 哪儿 弄 的 票?
　　你 (是) 从 哪儿 弄 票 的?
　　どこで切符を手に入れたのですか。

[福州語]汝 (是) 夹 底呢 食 其 饭?

*汝 (是) 夹 底呢 食饭 其?
[標準語] 你 (是) 在 哪儿 吃 的 饭?
你 (是) 在 哪儿 吃 饭 的?
どこで食事をしたの？

結果補語

動作・行為がもたらす結果的な状態を形容詞や自動詞を使って表現することができる。

1）形容詞の結果補語

[福州語]材料 都 讨全 咯 未?
[標準語]材料 都 找齐 了 吗?
資料はもう集まったの？

[福州語]我 已经 准备好 了。
[標準語]我 已经 准备好 了。
すでに準備できました。

[福州語]大体 其 内容 也 想好 了。
[標準語]大致 的 内容 也 想好 了。
大体の内容も考えました。

[福州語]依 来齐 咯 未?
[標準語]人 来齐 了 没有?
人数は揃いましたか。

[福州語]饭 先 食饱 再 讲。
[標準語]饭 先 吃饱 再 说。
お腹いっぱいになってからにしましょう。

[福州語]字 写郑 咯。
[標準語]字 写错 了。
字を書き間違えた。

[福州語]依 倚直 咯!
[標準語]人 站直 了!
まっすぐ立ちなさい。

2）自動詞の結果補語

[福州語]我 寻着 两 张 票。
[標準語]我 弄到 了 两 张 票。
切符を二枚手に入れた。

[福州語]伊 救活 两 隻 依。
[標準語]他 救活 了 两 个 人。
彼は二人の命を助けた。

[福州語]武松 拍死 老虎。
[標準語]武松 打死 了 老虎。
武松が虎を殴り殺した。

[福州語]电话 无 拍通。
[標準語]电话 没 打通。
電話はかからなかった。

[福州語]蜀冥 我 无 看见 伊。
[標準語]昨天 我 没有 看见 他。
昨日ぼくは彼を見かけなかった。

[福州語]我 其 读书 报告 固 未 写完。
[標準語]我 的 读书 报告 还 没 写完。
レポートはまだ書き終わっていません。

方向補語

動詞の後ろに“来”や“去”をつけて、動作・行為に方向性を与えることが

できる。

a）目的語を伴わない場合

[福州語]空调 买来 了。
[標準語]空调 买来 了。
　　エアコン買ってきたよ。

[福州語]公共汽车 开去 了。
[標準語]公共汽车 开去 了。
　　バスが出ていった。

[福州語]慢慢 行过来!
[標準語]慢慢 走过来!
　　ゆっくり歩いてきなさい。

[福州語]伊 行裡来了。
[標準語]他 走进来了。
　　彼が入ってきた。

b）目的語を伴う場合

i) 未然の事態の場合：動詞と方向補語の間に目的語を入れる。

[福州語] 汝 掏 蜀 张 纸 来!
　　*汝 掏来 蜀 张 纸!
[標準語] 你 拿 一 张 纸 来!
　　*你 拿来 一 张 纸!
　　紙を持ってきなさい。

ii) 已然の事態の場合：動詞と方向補語の間に目的語を入れてもよいし、方向補語の後ろにおいてもよい。

[福州語]伊 送来 蜀 份 报纸。
[標準語]他 送来 一 份 报纸。
　　彼は新聞を送ってきた。

[福州語]伊 送 蜀 份 报纸 来。
[標準語]他 送 一 份 报纸 来。
彼は新聞を送ってきた。

iii) 場所目的語の場合：標準語では方向補語の後ろに場所を表す目的語は現れないが(朱德熙(1982:128)を参照)、福州語にそのような制約はない。

[福州語] 论文 寄去 北京 了。
[標準語]*论文 寄去 北京 了。
論文は北京へ郵送した。

[福州語] 汝 几号 转去 北京?
[標準語]*你 几号 回去 北京?
いつ北京へ帰るんですか。

[福州語] 伊 蜀满 转来 福州。
[標準語]*他 昨天 回来 福州。
彼はきのう福州に帰ってきた。

[福州語] 汝 拍算 几号 转来 福州?
[標準語]*你 打算 几号 回来 福州?
いつ福州に帰るつもりですか。

13. 可能補語/様態補語

[会話文]
13-1
[標準語]王建：你 的 汉语 说 得 真 好。
Wángjiàn: Nǐ de hànyǔ shuō de zhēn hǎo.
Wangjian: you GEN Chinese speak CSC(get) really good
[福州語]王建：汝 汉语 讲 野 好。

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : ny^{33} xaŋ^{53}ŋy^{33} kouŋ^{33} ia^{24} o^{33}

Wangjian: you Chinese speak very good

王 建：あなたの中国語は実に素晴らしいですね。

13-2

[標準語]大野：您 过奖 了。我 就 只 会 这 几 句，再 多 就 说不了 了。

Dàyě :Nín guòjiǎng le. Wǒ jiù zhǐ huì zhè jǐ jù, zài duō jiù shuōbuliǎo le.

Daye: you over-praise MOD. I just only can this some phrase, again many just speak-not-finish ASP

[福州語]大野：汝 过奖 咯。我 俪 会 讲 只 几 句，再 俤 就 讲赡来 了。

Duai^{53}ia^{33} : ny^{33} kuo^{53}zuoŋ^{33} ŋo . ŋuai^{33} na^{21} ɛ^{53} kouŋ^{33} tsi^{21} kui^{55} uo^{242} . tsai^{53} sa^{242} tsiu^{53} kouŋ^{33}mɛ^{55}li^{53} lau^{33}

Daye: you over-praise MOD. I only can speak this some phrase, again many just speak-not-can-come ASP

大野：とんでもない。少しばかり話せるだけで、これ以上は話せません。

13-3

[標準語]王建：你 太 客气 了。学 多 久 了?

Wángjiàn :Nǐ tài kèqi le. Xué duō jiǔ le?

Wangjian: you very hesitate MOD. study many-long(*how-lomg*) ASP

[福州語]王建：汝 过 客气 咯。学 偌昕 咯 了?

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : ny^{33} kuo^{21} khei^{55}khei^{242} o . o^{5} nuo^{55}ouŋ^{53} ŋo lau^{33}

Wangjian: you over hesitate MOD. study how-long ASP ASP

王 建：ご謙遜を。どのくらい勉強しているんですか？

13-4

[標準語]大野：学 一 年 了。不过，您 说快 了 我 可 听不懂。

Dàyě :Xué yì nián le. Búguò, nín shuōkuài le wǒ kě tīngbudǒng.

Daye: study one year ASP. not-pass(*but*), you speak-quick ASP I so hear-not-understand

[福州語]大野：学 蜀 年 咯 了。俪是讲，汝 讲快 咯 我 就 听赡来。

Duai^{53}ia^{33} : o^{5} so^{33}nieŋ^{53} ŋo lau^{33} . na^{21}li^{53}kouŋ^{33} , ny^{33} kouŋ^{33}kha^{213} o ŋuai^{33} ziu^{55} thiaŋ^{55} mɛ^{55}li^{53}

Daye: study one year ASP ASP. only-be-talk(*but*), you speak-quick ASP I just

hear-not-can-come

大野：一年になります。でも、速く話されたら本当に聞き取れません。

13-5

[標準語]王建：比 我 强多 了。我 学了 两 年 英语，可 一 句 也 说不了。

Wángjiàn: Bǐ wǒ qiángduō le. Wǒ xuéle liǎng nián yīngyǔ, kě yí jù yě shuōbuliǎo.

Wangjian: than(compare) me strong-many MOD. I study-ASP two year English, but one phrase either speak-not-finish

[福州語]王建：汝 比 我 强得俤。我 学 两 年 英语，蜀 句 都 艅 讲。

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : ny^{33} pi^{24} ŋuai^{33} kyoŋ^{53}niʔ^{5}sa^{242} . ŋuai^{33} oʔ^{5} naŋ^{55} nieŋ^{53} iŋ^{53}ŋy^{33} , so^{21}uo^{213} tu^{21} mɛ^{53} kouŋ^{33}

Wangjian: you than(compare) me strong-CSC(get)-many. I study two year English, one phrase all not-can speak

王建：ぼくよりはずっとましですよ。二年間英語を勉強しましたが、ひと言も話せません。

13-6

[標準語]大野：我 在 北京 呆了 半年，所以 大致 听得懂。

Dàyě :Wǒ zài Běijīng dāile bànnián, suǒyǐ dàzhì tīngdedǒng.

Daye: I in(be) Beijing stay-ASP half-year, because roughly hear-CSC(get)-understand

[福州語]大野：我 夹 北京 屈 半年，故此 托母 听会会意。

Duai^{53}ia^{33} : ŋuai^{33} kaʔ^{5} pøy^{21}kiŋ^{55} khouʔ^{24} buaŋ^{55}nieŋ^{53} , ku^{53}zy^{33} thouʔ^{24}mo^{33} thiaŋ^{55}ɛ^{21}xui^{53}ei^{213}

Daye: I in(be) Beijing stay half-year, because roughly hear-can-understand

大野：北京に半年滞在したので、大体は聞き取れます。

13-7

[標準語]王建：我 也 去过 两 趟 美国，可是 见了 那 些 字母 就 头晕。

Wángjiàn :Wǒ zài Měiguó yě dāiguo liǎng zhōu, kěshì jiàn le nà xiē zìmǔ jiù tóuyūn.

Wangjian: I also go-ASP two time America, but see-ASP that CLA alphabet just head-dizzy

[福州語]王建：我 也 去过 两 回 美国，见着 许 蜀 批 字母 头 就 眩。

uoŋ^{21}kyoŋ^{213} : ŋuai^{33} ia^{53} khɔ^{213}kuuo^{213} naŋ^{55}ŋui^{53} mi^{55}uoʔ^{24} , kieŋ^{213}nuoʔ^{5} xy^{21} lo^{55} βie^{55} tsi^{53}mo^{33} thau^{53} tsiu^{55} xiŋ^{53}

Wangjian: I also go-ASP two time America, see-arrive that CLA alphabet head just dizzy

王建：ぼくもアメリカに二度行きましたが、アルファベットを見ると めまいがしたんです。

13-8

[標準語]大野：这 一 点 中国 好得多，用 的 都 是 汉字。

Dàyě: Zhè yī diǎn Zhōngguó hǎodeduō, yòng de dōu shì hànzì.

Daye: this one point China good-CSC(get)-many, use NOM all be Chinese-character

[福州語]大野：只 蜀 点 中国 好得俤，都 是 使 汉字。

Duai^{53}ia^{33} : tsi^{21} lo^{33} lieŋ^{33} tyŋ^{53}ŋuoʔ^{24} xo^{33}liʔ^{5}sa^{242} , tu^{21} li^{53} lai^{33} xaŋ^{53}nzei^{242}

Daye: this one point China relatively good-CSC(get)-many, all be use Chinese-character

大野：その点中国はいいですね。使っているのはすべて漢字ですから。

[語 句]

【咯】“过”と呼応して程度が甚だしいことを表す。

【着】「至る」。

【批】不定の数を表す。

[文 法]

可能補語

動詞と補語の間に“会”や“㑹”を挿入して、動作の結果が実現できるか否かを表す。

1）肯定形

[福州語]英语 其 文章 托母 看会会意。

[標準語]英语 的 文章 大致 看得明白。

英語の文章は見てだいたいわかります。

[福州語]伊 其 声音 我 听会出。

[標準語]他 的 声音 你 听得出来。
彼の声は聞いてわかります。

[福州語]许 本 书 我 掏会着。
[標準語]那 本 书 我 拿得到。
あの本は取れます。

2）否定形

[福州語]伊 写 其 论文 我 看赡会意。
[標準語]他 写 的 论文 我 看不懂。
彼の書いた論文はぼくにはわかりません。

[福州語]总款 其 文章 我 写赡来。
[標準語]这样 的 文章 我 写不来。
こんな文章はぼくには書けない。

[福州語]许 隻 皮箱 伊 掏赡定动。
[標準語]那 个 皮箱 他 拿不动。
そのスーツケースは彼には持てない。

[福州語]恰 远 咯，行赡转。
[標準語]太 远 了，走不回去。
遠すぎて、歩いて帰れない。

3）疑問形

[福州語]我 其 汉语 汝 各依 听会来 赡?
[標準語]我 的 汉语 你们 听得来 吗?
ぼくの中国語は皆さん聞いて分かりますか。

[福州語]伊 其 声音 汝 听会出 赡?
[標準語]他 的 声音 你 听得出来 吗?
彼の声は聞いて分かりますか。

[福州語]许 本 书 汝 掏会着 赡?
[標準語]那 本 书 你 拿得到 吗?
あの本は取れますか。

次のような疑問の形式は成立しない。

[福州語]*我 其 汉语 汝 各依 听会赡来?
[標準語] 我 的 汉语 你们 听得来 吗?
ぼくの中国語は皆さん聞いて分かりますか。

[福州語]*我 其 汉语 汝 各依 听会来 听赡来?
[標準語] 我 的 汉语 你们 听得来 听不来?
ぼくの中国語は皆さん聞いて分かりますか。

様態補語

標準語では動詞の直後に“得”を伴って、動作・行為のありさまや主語の性質を述べる形容詞句を続ける。そのような形式は福州語には見られない。形容詞句は動詞の後ろに直接続ける。

[福州語]皮鞋 拭 野 光。
[標準語]皮鞋 擦得 很 亮。
革靴はぴかぴかに磨いてある。

[福州語]今旦 我 行 野 蒻 咯。
[標準語]今天 我 走得 很 累。
今日は歩き疲れた。

[福州語]被 折 平平直直 势。
[標準語]被子 叠得 平平整整 的。
布団はきちんと畳んである。

[福州語]蜀冥 固 讲 好好 势，今旦 就 变卦 咯。
[標準語]昨天 还 说得 好好 的，今天 就 变卦 了。

昨日はちゃんと話しがまとまっていたのに、今日になったら気が変わってしまった。

[福州語]只 件 衣裳 洗 无 澈。
[標準語]这 件 衣服 洗得 不 干净。
この服は洗ってきれいになっていない。

[福州語]许 本 书 写 会 好 㱿?
[標準語]那 本 书 写得 好 不 好?
あの本はよく書けていますか。

[福州語]伊 文章 写 㱿 好。
[標準語]他 文章 写得 不 好。
彼は文章が下手だ。

程度を表す場合は“得”を必要とする。

[福州語]汝 比 我 强得俤。
[標準語]你 比 我 强得多。
きみはぼくよりずっとましだ。

[福州語]好得很!
[標準語]好得很!
素晴らしい!

14. 連動文/使役文

[会話文]

14-1

[標準語]马文：刚才 王 老师 打 电话 来 找 你。

Mǎwén: Gāngcái Wáng lǎoshī dǎ diànhuà lái zhǎo nǐ.

Mawen: just-now Wang teacher hit telephone come search you

[福州語]马文：头先 王 先生 拍 电话 来 讨 汝。

ma^{21}βuŋ^{53}: thau^{55}leiŋ^{55} uoŋ^{21} niŋ^{55}naŋ^{55} phaʔ^{21} tieŋ^{53}ŋua^{242} li^{33} tho^{33} ny^{33}

Mawen: just-now Wang teacher hit telephone come seek you

馬文：いましがた王先生からきみに電話があったよ。

14-2

[標準語]李丽：有 什么 事儿 吗?

Lǐlì :Yǒu shénme shìr ma?

Lili: have what matter MOD

[福州語]李丽：有 甚乇 事计 无?

li^{55}la^{242} : ou^{242} sieŋ^{21}no^{21} lai^{53}ie^{213} mo^{53}

Lili: have-not-have what-thing matter

李麗：なにかご用かしら。

14-3

[標準語]马文：没 说。 他 让 你 回来 后 给 他 回 个 电话。

Mǎwén :Méi shuō. Tā ràng nǐ huílái hòu gěi tā huí ge diànhuà.

Mawen: not-have speak. he CAU(allow) you back-come after for(give) him back CLA telephone

[福州語]马文：无 讲。伊 吼 汝 转来 以后 共 伊 回 蜀 隻 电话。

ma^{21}βuŋ^{53} : mo^{33}ouŋ^{33} . i^{55} xau^{33} ny^{33} tuoŋ^{33}ni^{53} i^{55}xau^{242} køyŋ^{55} i^{55} xui^{53} lo^{21} zieʔ^{24} tieŋ^{53}ŋua^{242}

Mawen: not-have speak. he CAU(?) you turn-come after for(?) him back one CLA telephone

馬文：おっしゃらなかったよ。帰ったら電話するようにって。

14-4

[標準語]李丽：谢谢。我 这 就 给 王 老师 回 电话。

Lǐlì :Xièxie. Wǒ zhè jiù gěi Wáng lǎoshī huí diànhuà.

Lili: thank-thank(*thank you*)! I this(*now*) just for(give) Wang teacher back telephone

[福州語]李丽：谢谢！我 只盘 就 共 王 先生 回 电话。

li^{55}la^{242} : sia^{53}lia^{242} ! ŋuai^{33} tsi^{21}βuaŋ^{53} tsiu^{53} øyŋ^{242} uoŋ^{21} niŋ^{55}naŋ^{55} xui^{21} tieŋ^{53}ŋua^{242}

Lili: thank-thank(*thank you*)! I this-time just for(?) Wang teacher back telephone

李麗：ありがとう。すぐに王先生に電話してみるわ。

14-5

[標準語]马文：别 急 呀！他 这会儿 上课 去 了。

Mǎwén : Bié jí ya! Tā zhèhuìr shàng kè qù le.

Mawen: don't hurry MOD! he this-while go-class(*give-a-lesson*) go ASP

[福州語]马文：莫 急 嘛！伊 只昕 去 上堂。

ma^{21}βuŋ^{53} : moʔ^{53} keiʔ^{24} ma ! i^{55} tsi^{21}ouŋ^{53} kho^{21} suoŋ^{55}touŋ^{53}

mawen: don't hurry MOD! he this-time go go-class(*give-a-lesson*)

馬文：慌てるなよ。いまは授業に行かれているよ。

14-6

[標準語]李丽：行，等 他 下课 以后 再 给 他 回 吧。

Lǐlì :Xíng, děng tā xià kè yǐhòu zài gěi tā huí ba.

Lili: go(*OK*), wait he down-class(*finish-a-lesson*) after again for(give) back MOD

[福州語]李丽：好，等 伊 落堂 以后 介 共 伊 回。

li^{55}la^{242} : xo^{33} , tiŋ^{33} i^{55} no^{33}louŋ^{53} i^{55}xau^{242} kai^{53} øyŋ^{242} i^{55} xui^{53}

Lili: good, wait he down-class(*finish-a-lesson*) after again for(?) him back

李麗：わかったわ。授業が終わられたころに電話するわ。

14-7

[標準語]马文：对 了，请 首都 大学 的 张 教授 来 讲演 的 事 怎么样 了？

Mǎwén: Duì le, qǐng Shǒudū dàxué de Zhāng jiàoshòu lái jiǎngyǎn de shì zěnmeyàng le?

Mawen: correct MOD, ask Capital University of Zhang professor come speak-perform(*give-a-lecture*) of matter how-about ASP

[福州語]马文：正是，请 首都 大学 其 张 教授 来 演讲 其 事计 怎其 咯 了？

ma^{21}βuŋ^{53} : tsiaŋ^{53}nei^{242} , tshiaŋ^{33} siu^{21}tu^{55} tai^{55}oʔ^{5} i tuoŋ^{21} ŋau^{53}liu^{242} ni^{21} ieŋ^{24}ŋouŋ^{33} ŋi tai^{53}ie^{213} tsuoŋ^{21}ŋi^{53} o lau^{33}

Mawen: really-correct(be), ask Capital University of Zhang professor come perform-speak(*give-a-lecture*) of matter how-about ASP ASP

馬文：そうだ、首都大学の張先生をお招きして講演していただく件はどうなったかなあ？

14-8

[標準語]李丽：敲定 了。下 星期三 下午 两 点。

Lǐlì : Qiāodìng le. Xià xīngqī sān xiàwǔ liǎng diǎn.

Lili: hit-decide ASP. down(*next*) Wednesday afternoon two o'clock

[福州語]李丽：确定 咯 了。下 蜀 拜三 下昼 两 点。

li^{55}la^{242} : khouʔ^{55}teiŋ^{242} ŋo lau^{33} . a^{21} lo^{21} βai^{55}saŋ^{55} a^{53}lau^{213} naŋ^{53}neiŋ^{33}

Lili: certain-decide ASP ASP. down(*next*) one Wednesday afternoon two o'clock

李麗：決まったわよ。来週の水曜日午後２時からよ。

[語 句]

【吼】被使役者を導く前置詞。発話動詞に由来すると考えられるが、具体的な意味は不明。

【共】受益者を導く前置詞。9節を参照。

【隻】人や物品を数える量詞(類別詞)。標準語の“个”に相当。

[文 法]

連動文

二つの動詞句が、時間の流れに沿って連続して現れることがある。この点に関して、とくに標準語との相違点は見られない。

[福州語]老 张 去 上海 出差 了。

[標準語]老 张 去 上海 出差 了。

張さんは上海へ出張に出かけた。

[福州語]伊 只盘 去 街 买 菜。

[標準語]她 这会儿 上 街 买 菜 去 了。

彼女はいま買い物に出かけています。

[福州語]头先 王 先生 拍 电话 来 讨 汝。

[標準語]刚才 王 老师 打 电话 来 找 你。

いましがた王先生からきみに電話があったよ。

[福州語]伊 掏吼 介绍信 来 讨 我。
[標準語]他 拿着 介绍信 来 找 我。
彼は紹介状を持ってたずねてきた。

[福州語]外斗 有 人 拍 门。
[標準語]外边 有 人 敲 门。
外で誰かがノックしている。

使役文

前の動詞句の目的語が、後ろの動詞句の主語の役割を果たす連動文を使って、使役的状況が表現される。

[福州語]王 老师 派 伊 去 北京。
[標準語]王 老师 派 他 去 北京。
王先生は彼を北京に派遣した。

[福州語]蜀冥 我 各依 请 伊 食 饭。
[標準語]昨天 我 们 请 他 吃 饭。
昨日ぼくたちは彼を食事に招待した。

[福州語]请 首都 大学 其 张 教授 来 演讲 其 事计 怎其 咯 了?
[標準語]请 首都 大学 的 张 教授 来 讲演 的 事 怎么样 了?
首都大学の張先生をお招きして講演していただく件はどうなりましたか？

“告”と“吼”は代表的な使役前置詞として被使役者を導く。“告”は「呼ぶ、言いつける」という意味の動詞である。“吼”も発話動詞に関連があると考えられるが、具体的な意味は不明である。

標準語では、「ゆずる」という意味の動詞が文法化した“让”も使役文を構成するが、福州語に「ゆずる」という意味が文法化した前置詞はない。

[福州語]我 告 伊 早仂囝 转 厝。
[標準語]我 叫 他 早点儿 回 家。
ぼくは彼に早く家に帰らせた。

[福州語]汝 告 伊 出 来!
[標準語]你 叫 他 出 来!
彼に出てこさせなさい。

[福州語]伊 吼 汝 去 办公室。
[標準語]他 让 你 去 办公室。
彼はあなたに事務室へ来させた。

[福州語]主任 吼 小 李 去 广州 出差。
[標準語]主任 让 小 李 去 广州 出差。
主任は李さんを広州へ出張させた。

標準語では「与える」という意味の動詞が文法化した“给”によって、誘発使役を表すことができる(楊凱栄(1989)を参照)。福州語において“给”に相当する“乞”の使役文が成立するには、以下のような条件が必要である。

i) 肯定文は成立しない。

[福州語]*伊 乞 我 看 相片。
[標準語] 他 给 我 看 相片。
彼はぼくに写真を見せてくれた。

[福州語]*我 乞 汝 食。
[標準語] 我 给 你 吃。
きみに食べさせてあげる。

ii) 不許可を表す否定文では成立する。

[福州語]伊 无 乞 我 看 相片。
[標準語]他 不 给 我 看 相片。
彼は私に写真を見せてくれない。

[福州語]我 无 乞 汝 食。

[標準語]我 不 给 你 吃。
　　きみに食べさせてあげない。

次のような状況は、誘発使役にあたらないため標準語としては成立しない。しかし、不許可を表す文として理解できるので福州語では成立する。

[福州語] 伊 无 乞 我 去 机场。
[標準語]*他 不 给 我 去 机场。
　　彼はぼくを空港へ行かせてくれなかった。

iii) 誘発使役の状況を表すには、“乞”だけでなく、誘発のために行われる動作・行為を具体的に明示する必要がある。その際、“乞”は省略してもよい。

[福州語]我 掏 苹果 (乞) 汝 食。
[標準語]我 拿 苹果 给 你 吃。
　　リンゴを持ってきて食べさせてあげよう。

[福州語]我 掏 (乞) 汝 看。
[標準語]我 拿 给 你 看。
　　持ってきて君に見せてあげる。

[福州語]我 剜 苹果 (乞) 汝 食。
[標準語]我 削 苹果 给 你 吃。
　　リンゴをむいて食べさせてあげる。

[福州語]我 讲 (乞) 汝 听。
[標準語]我 说 给 你 听。
　　教えてあげる。

15. 受動文/処置文

[会話文]

15-1

[標準語]李丽：王 老师 快 走 了，你 赶快 把 读书 报告 送去 吧。

Lǐlì :Wáng lǎoshī kuài zǒu le, nǐ gǎnkuài bǎ dúshū bàogào sòngqù ba.

Lili: Wang teacher soon go ASP, you quickly ACC(hold) read-book report send-go MOD

[福州語]李丽：王 先生 卜 行 咯 了，汝 读书 报告 赶紧 快 送去。

li^{55}la^{242} : uoŋ^{21} niŋ^{55}naŋ^{55} puo^{55} kiaŋ^{53} ŋo lau^{33} , ny^{33} thøyʔ^{55}zy^{55} po^{53}kɔ^{213} kaŋ^{24}ŋiŋ^{33} khɛ^{53} soyŋ^{213}ŋɔ^{213}

Lili: Wang teacher soon go ASP ASP, you read-book report quickly fast send-go

李麗：王先生もうすぐ出かけちゃうわよ。はやく読書レポートとどけに行きなさいよ。

15-2

[標準語]马文：刚才 已经 送去 了。

Mǎwén :Gāngcái yǐjing sòngqù le.

Mawen: just-now already send-go ASP

[福州語]马文：头先 已经 送去 了。

ma^{21}βuŋ^{53} : thau^{55}leiŋ^{55} i^{21}kiŋ^{55} soyŋ^{213}ŋɔ^{213} lau^{33}

Mawen: just-now already send-go ASP

馬文：いまとどけてきたよ。

15-3

[標準語]李丽：怎么样，王 老师 夸 你 了 吧?

Lǐlì :Zěnmeyàng, Wáng lǎoshī kuā nǐ le ba?

Lili: how-about, Wang teacher praise you ASP MOD

[福州語]李丽：怎其，王 先生 有 表扬 汝 无?

li^{55}la^{242} : tsuoŋ^{21}ŋi^{53} , uoŋ^{21} niŋ^{55}naŋ^{55} ou^{21} piu^{21}yoŋ^{53} ny^{33} mo^{53}

Lili: how-about, Wang teacher have praise you not-have

李麗：どうだった。王先生ほめてくださったでしょう。

15-4

[標準語]马文：别 提 了。惨透 了。把 我 教训了 一 通。

Mǎwén :Bié tí le. Cǎntòu le. Bǎ wǒ jiàoxunle yí tòng.

Mawen: don't point-out MOD. miserable-extremely MOD. ACC(hold) me chide-ASP one time

[福州語]马文：都 嗵 讲。凄惨 无能耐 咯。共 我 搦吼 教训。

ma^{21}βuŋ^{53} : tu^{21} nøyŋ^{53} ŋouŋ^{33} . tshɛ^{53}tshiaŋ^{33} mo^{21}nieŋ^{55}ŋai^{53} o . køyŋ^{53} ŋuai^{33} nieʔ^{5}lɛ kau^{53}xouŋ^{242}

Mawen: all don't speak. miserable not-have-can MOD. ACC(?) me catch-ASP chide

馬文：やめてくれよ。とても悲惨だったんだ。叱られたんだ。

15-5

[標準語]李丽：真 的? 别 逗 了!

Lǐlì :Zhēn de? Bié dòu le!

Lili: really MOD? don't tease MOD

[福州語]李丽：真 其 啊? 嗵 解闷 我 咯。

li^{55}la^{242} : tsiŋ^{55} ŋi a ? nøyŋ^{21} kɛ^{55}mouŋ^{242} ŋuai^{33} o

Lili: really MOD MOD? don't allay-bored me MOD

李麗：本当？ からかわないでよ！

15-6

[標準語]马文：我 骗 你 干吗?

Mǎwén : Wǒ piàn nǐ gànmá?

Mawen: I deceive you do-what

[福州語]马文：我 骗 汝 做 甚乇?

ma^{21}βuŋ^{53} : ŋuai^{33} phieŋ^{33} ny^{33} tsɔ^{21} lieŋ^{53}nɔʔ^{24}

Mawen: I deceive you do what-thing

馬文：きみを騙してどうするんだよ。

15-7

[標準語]李丽：我 觉得 你 写 得 挺 好 的 呀!

Lǐlì :Wǒ juéde nǐ xiě de tǐng hǎo de ya!

Lili: I feel you write CSC(get) very good MOD MOD

[福州語]李丽：我 见觉 汝 写 野 好 嘛!

li^{55}la^{242} : ŋuai^{33} kieŋ^{53}ŋoyʔ^{24} ny^{33} sia^{33} ia^{24} o^{33} ma

Lili: I feel you write very good MOD

李麗：よく書けていたと思うわよ。

15-8

[標準語]马文：就是 嘛。我 也 觉得 挺 冤 的。花 了 我 不 少 心血。

Mǎwén :Jiùshì ma. Wǒ yě juéde tǐng yuān de. Huā le wǒ bù shǎo xīnxuè.

Mawen: just-correct(be) MOD. I also feel very injustice MOD. use ASP my

not small hart-blood(*painstaking effort*)

[福州語]马文：就是 讲 了 啊。我 也 见觉 野 冤讲。花 我 不 少 心血。

ma^{21}βuŋ^{53} : tsiu^{21}li^{53} kouŋ^{33} nau^{33} a . ŋuai^{33} ia^{21} kieŋ^{53}ŋoyʔ^{24} ia^{21} uoŋ^{53}ŋouŋ^{33} .

xua^{55} ŋuai^{33} puʔ^{24} ziu^{33} siŋ^{53}ŋaiʔ^{24}

Mawen: just-correct(be) speak ASP MOD. I also feel very injustice-speak. use me not small hart-blood(*painstaking effort*)

馬文：そうさ。ぼくもすごく悔しいよ。心血そそいだっていうのに。

15-9

[標準語]李丽：文章 被 退回来 了?

Lǐlì :Wénzhāng bèi tuìhuílái le?

Lili: writings PAS(cover) return-back-come ASP

[福州語]李丽：文章 乞 退转来 啊?

li^{55}la^{242} : uŋ^{55}nzuoŋ^{55} khiʔ^{5} thoy^{213}luoŋ^{33}ni^{53} a

Lili: writings PAS (give) return-turn-come MOD

李麗：レポート突っ返されちゃったの？

15-10

[標準語]马文：对，叫 我 重写，明天 交。

Mǎwén :Duì, jiào wǒ chóngxiě, míngtiān jiāo.

Mawen: correct, CAU(call) me rewrite, tomorrow hand-over

[福州語]马文：就是 了 啊，吼 我 重新 写，明旦 缴。

ma^{21}βuŋ^{53} : tsiu^{53}li^{242} lau^{33} a , xau^{33} ŋuai^{33} thøyŋ^{55}niŋ^{55} sia^{33} , miŋ^{21}naŋ^{213} kiu^{33}

Mawen: just-correct(be) MOD MOD, CAU(?) me anew write, tomorrow hand-over

馬文：うん。書き直しだって。あした提出するよ。

[語 句]

【嗵】禁止を表す。

【无能耐】ここでは標準語の“不得了”に相当。

【不少】「少なくない」。慣用句の中でのみ使用。

【吼】被使役者を導く前置詞。14 節を参照。

[文 法]

受動文

福州語では「与える」という意味の動詞が文法化した前置詞“乞”によって動詞句の前に動作者(旧主語)を導くことで受動文を構成する。標準語では、発話動詞が文法化した前置詞“叫”が使役文と受動文の両方に用いられるが、福州語の“吼”や“告”は、発話動詞が文法化した前置詞であるが、受動文を構成することはない。また、標準語では「ゆずる」という意味の動詞が文法化した“让”によっても使役文と受動文の両方が構成されるが、前節でも述べたように、福州語には「ゆずる」という意味が文法化した前置詞はない。

[福州語]我 其 书 乞 伊 掏去 了。
[標準語]我 的 书 被 他 拿走 了。
ぼくの本は彼に持って行かれた。

[福州語]眼镜 乞 仂囝 做破 咯。
[標準語]眼镜 被 小孩儿 打破了。
眼鏡を子供に壊された。

“乞”によって導かれる動作者(旧主語)は省略されることがある。一般に、南方方言では「与える」という意味の動詞が文法化した前置詞が動作者(旧主語)を導く場合、それは省略できないといわれている(詹伯慧(1982)および桥本万太郎(1987)等を参照)。しかし、福州語にそのような制約はない。特定の人物が明らかな場合には省略してよい。

[福州語]文章 乞 退转来。
[標準語]文章 被 退回来 了。
文章はつき返されてしまった。

[福州語]饭 乞 食 咯。
[標準語]饭 给 吃 了。
本は破られた。

[福州語] 书 乞 掏(吼) 扯。
[標準語]*书 被 给 撕 了。
本は破られた。

※ 標準語では“被”と“给”の連続は許されない。

述語の直前に“搦”や“掏”が置かれることがある。“搦”は「捕まえる」という意味の動詞、“掏”は「手に取る」という意味の動詞がそれぞれ文法化したものである。標準語において「与える」という意味の動詞“给”が、受動文の述語の直前に現れる現象と類似している。(佐々木(1996)を参照されたい。)

[福州語]伊 乞 先生 搦(吼) 批评。
[標準語]他 被 老师 给 批评 了。
彼は先生に叱られた。

[福州語]伊 乞 依 搦(吼) 拍。
[標準語]他 被 人 给 打 了。
彼は誰かに殴られた。

[福州語]厝 乞 依弟 掏 卖代 咯。
[標準語]房子 被 弟弟 给 卖掉 了。
家は弟に売られてしまった。

※ 結果補語を伴うこの例では“掏”の後ろに“吼”は用いない。

[福州語] 书 乞 掏(吼) 扯。
[標準語]*书 被 给 撕 了。
本は破かれてしまった。

[福州語] 伊 今旦 无 乞 先生 搦(吼) 骂。
[標準語]*他 今天 没有 被 老师 给 骂。
彼は今日は先生に怒られなかった。

処置文

前置詞“共”を用いて、強く働きかける動作・行為の対象を述語の前に導くことができる。前置詞“共”は受益者を導いたり、共に動作を行う相手を導いたりすることもある(9節を参照)。他の前置詞と同様に、動詞が文法化したものである可能性が高いが、具体的にどのような意味の動詞であったかは不明であ

る。

[福州語]汝 共 黑板 拭 嘛!
[標準語]你 把 黑板 擦 一下!
　　黒板をふいてください。

[福州語]伊 共 我 其 书 扯破 咯。
[標準語]他 把 我 的 书 撕破 了。
　　彼はぼくの本を破った。

[福州語]伊 共 我 车 骑去。
[標準語]他 把 我 的 车 骑走 了。
　　彼はぼくの自転車を乗っていってしまった。

[福州語]我 赡 共 汝 电脑 做呆 咯。
[標準語]我 不 会 把 你 的 电脑 弄坏 的。
　　きみのパソコンを壊したりはしないよ。

受動文の場合と同様に、述語の前に“搦”や“掏”が置かれることがある。標準語の処置文において、述語の直前に“给”が現れる現象と類似している。

[福州語]伊 共 我 其 书 掏(吼) 扯。
[標準語]他 把 我 的 书 给 撕 了。
　　彼はぼくの本を破った。

[福州語]伊 共 我 其 书包 掏 拄代 咯。
[標準語]他 把 我 的 书包 给 扔掉 了。
　　彼はぼくの鞄を捨てた。

※ 結果補語を伴うこの例では“掏”の後ろに“吼”は用いない。

[福州語]共 伊 其 棉被 掏(吼) 曝 嘛。
[標準語]把 他 的 被子 给 晒 一下。
　　彼の布団を干してあげなさい。

[福州語]共 伊 搦(吼) 拍。
[標準語]把 他 给 打 了。
奴をぶん殴ってやった。

16. おわりに

本稿は佐々木・林(印刷中)をもとに、標準語との比較・対象を通して福州語の文法のアウトラインを示したものである。はじめにも述べたように、佐々木・林(印刷中)は一般の学習者を想定して作成された標準語の入門テキストである。その執筆作業を進めていくうちに、林璋の故郷である福州の言葉に訳してみようという話になった。中国語の多様な姿を示すことは、東アジアの言語の記述的研究を進める我々のプロジェクトにとって、きっと相応しい成果になると考えたからである。標準語のために作成した会話文を一つひとつ慎重に福州語に置き換えていくことから始めたが、作業は予想以上に困難を伴った。一つの単語の使い方をめぐって、二人で何時間も議論を重ねるということもしばしばであった。[文法]に示した例文や解説はそうした悪戦苦闘の結果である。

今、こうして一応の完成を見たが、未だ不充分な個所も多いと思う。しかし、中国語の多様性を示すという当初の目的については、ある程度まで達成できたかもしれない。我々はこの方法を使って他の南方方言も記述していこうと考えている。複数の地域の記述が成功すれば、多様性の中に潜む一般性を解明できると信じるからである。本稿はそのための第一歩である。

(2000.2.1)

当プロジェクトの中本武志氏からは数々の貴重なご意見を頂戴した。

参考文献

陈泽平. 1992.〈试论完成貌助词“去”〉《中国语文》第2期, 143-146.
陈泽平. 1998.《福州方言研究》福建人民出版社.

李如龙・梁玉璋・邹光椿・陈泽平. 1994.《福州方言词典》福建人民出版社.
李如龙. 1997.《福建方言》福建人民出版社.
木村英樹. 1996.『中国語はじめの一歩』ちくま新書.
Li, Charles N., and Sandra A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese : A Functional Reference Grammar*. Berkeley : University of California Press.
林璋. 1999.「文法対照研究と翻訳」『文藝言語研究 言語篇』35号, 筑波大学文芸・言語学系, 85-101頁.
文字鏡研究会編. 1999.『パソコン悠々漢字術—今昔文字鏡徹底活用』紀伊国屋書店.
桥本万太郎. 1987.〈汉语被动式的历史・区域发展〉《中国语文》第1期, 36-49.
佐々木勲人. 1996.「"被…给" と "把…给" —強調の "给" 再考—」『中国語学』243号, 日本中国語学会, 65-74頁.
佐々木勲人. 1999.「南方方言におけるGIVEの処置文」『中国語学』246号, 日本中国語学会, 207-216頁.
佐々木勲人・林璋. (印刷中).『システム中国語(シリーズ2・入門編)』アルク.
楊凱栄. 1989.『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版.
袁家骅等. 1960.《汉语方言概要(第2版)》北京:文字改革出版社.
詹伯慧. 1981.《现代汉语方言》武汉:湖北人民出版社.
朱德熙. 1982.《语法讲义》北京:商务印书馆.

近代日本と中国における翻訳文化についての比較研究

—中村正直と厳復を例に—

王克非　　林　璋

1．序論

十九世紀の中頃には、日本でも中国でもヨーロッパの著書の翻訳が盛んに行われ、その近代的思想の受け入れに熱心であった。世界近代史においても興味深い現象である。その時期、日本の中村正直と中国の厳復がそれぞれイギリスの思想家 J. S. Millの*On Liberty*を翻訳した。中村正直も厳復も普通の意味での翻訳家ではなく、彼らの翻訳は実際は思想的啓蒙そのものであった。従って、本稿では中村と厳が*On Liberty*を翻訳する過程において行った処理（削除や訳者注の内容）について、例をあげながら考察し、その異文化受容の態度を比較してみたい。

2．*On Liberty*について

・*On Liberty*は1859年に出版され、作者John Stuart Millはイギリスの哲学者、経済学者である。*On Liberty*が出版されたのは、ちょうど産業革命が勃興し、生産が急激に発展し、世界的市場が形成されようとしていた時期であった。新興のブルジョア階級は、経済面においては自由貿易と自由競争を求め、それでもってより多くの原料市場と利潤を獲得しようとし、政治の上でも、封建的貴族階級の特権を取り消し、日増しに増大する議会の権力に制限を加えようとした。Millの*On Liberty*はこうした世間の願望を反映し、自由の価値を充分に肯定すると同時に、社会的権威を制限し、個人の自由を守ることを強調した。

第一章の序論において、Millは著書の目的が公民或いは社会的自由、即ち社会が合法的に加える権力の性質とその限度を探るところにある[1] と説明し、第二、三章では、思想・言論・著述の自由と個性の自由の価値について論じた。第

四、五章では、個人の自由と国家（社会）の権威との間の矛盾を和らげようとして、解決法を提案した。要するに、*On liberty*は、個人の自由（特に思想・言論の自由）を尊重することと、社会の個人に対する干渉を制限すべきだということについて述べたものである。

3．訳者の自由観

啓蒙思想家として、厳復も中村正直も自国の民衆にヨーロッパの近代的思想を伝えるにあたって、自分なりの取捨選択の基準があったと思われる。彼らと*On Liberty*の思想との接点を探るに先立って、彼らの自由観について検討してみる必要がある。

厳はダーウィンの進化論とスペンサーの著作を通して、ヨーロッパの自由思想を学び取り、自由についての考えはその最初の著書『论世变之亟』に見られる。厳は公然と自由を基準に中国の封建社会とヨーロッパの近代社会を区分した。“夫自由一言，真中国历古圣贤之所深畏，而从未尝立以为教也”[2] と指摘し、宗法礼教が“牢笼天下”、言論の自由を許さないため、[3]“民智因之以日窳，民力因之以日衰”[4] という結果になったと封建的独裁の中国を批判した。と同時に、民衆の自由に対する自覚を呼び覚まし、自分の有すべき自由の権利を勝ち取るよう呼びかけ、“物竞天择”、“适者生存”というダーウィンの進化論に基づいて、“社会之变相无穷，而一一基于小己之品质”[5] と言って、社会にとって個人の自主と自由がなくてはならないものだと説いた。自由思想が民衆の進歩に益し、そして民衆の進歩が国家の富強をもたらすものだと厳は考えたのである。この点において、ヨーロッパの自由思想が彼の“鼓民力，开民智，新民德”[6]という「三民」の思想と共通していた。

このような厳の考え方は、一時は広く受け入れられていたが、しかし、失敗に終わった戊戌変法と義和団運動に、厳の思想が大きく影響された。戊戌変法後の厳は精神的に滅入った状態にあった。“富国强民”の主張は彼が西洋書籍を選択し翻訳する際の一貫した態度であったが、当時の独裁的抑圧の雰囲気も

---

[1] J.S.Mill (1859/1981) p.5.
[2] 严复(1986)，第 2 頁。
[3] 严复(1986)，第 134 頁。
[4] 严复(1986)，第 2 頁。
[5] 严复(1986)，第 126 頁。
[6] 严复(1986)，第 15－32 頁。

Millの*On Liberty*を選んだ原因の一つになるだろう。[7] 当時の中国は八国連合軍に侵略され、列強によって分割される危機に直面していて、その上「庚子の乱」で政局が動揺していた。不安に陥った厳は、“旦而言平等，夕而说自由”[8] のような人々には、もはや我慢ができなくなり、「自由」に対して限定を加えなければならないと考えるようになったのである。そんな厳からすれば、Millのこの“为人分别何者必宜自繇，何者不可自繇”[9] という著作を最適な学説だと思って国民に紹介したのある。1903年の春、四年前に訳した『自由論』の原稿（1900年の義和団の戦乱で一時原稿を失ってしまった）が手に戻ると[10]、それまで本を出す時のように注を付けたり、[11] 名士に序を書いてもらったり[12] するような手続きを一切に省いて、ちょっとだけ手入れをして、二、三ヶ月のうちに、『群己权界论』[13] という書名で上梓させた。

訳者の序に“十稔之间，吾国考西政者日益众，于是自繇之说，常闻于士大夫。顾竺旧者既惊怖其言，目为洪水猛兽之邪说。喜新者又恣肆泛滥，荡然不得其义之所归。”という言葉があるように、こうした二つの誤った傾向を正そうとして、“学者必明乎己与群之权界，而后自繇之说乃可用耳。”[14] と書いて、この本を訳する目的を明らかに示した。

このように、二十世紀の初頭に厳が自由思想を中国に紹介した[15] のは啓蒙し

---

[7] Benjamin I. Schwartz, 1964. p.131 参照。

[8] 严复(1986)，第 117 頁。

[9] 严复(1986)，第 133 頁。

[10] 严璩《侯官严先生年谱》によれば、1901 年ある外国の友人が厳復の無くした原稿を送り返してくれたとあるが、本稿では 1903 年の春に手に戻ったという厳復の“译凡例”に従う。

[11] 厳復が翻訳した八冊の洋書のうち、『群学肄言』に注が 1 条しかなく、『名学浅说』には注が 2 条しかない。後の五冊にはいずれも大量の注が付けてある。例えば、『法意』、『原富』には注が 300 条もある。しかし、『群己权界论』には注が 1 条もなく、段落要旨式の注しか付けていない。

[12] 『群己权界论』より前の訳書と同時期の訳書にはすべて誰かに書いてもらった序文があるが、この訳書だけにはない。序文や注がないばかりではなく、この本を翻訳した 1899 年から出版した 1903 年の間に、厳の手紙や文章には一度もこの本のことについては触れていない。しかし、この時期に翻訳した『原富』、『群学肄言』、『社会通诠』、『穆勒名学』などについてはしばしば言及している。

[13] 「社会と個人との自由の限界について」との意。

[14] 严复(1986)，第 131－132 頁。

[15] 近代中国では、厳復がその 1895 年の上半期に書いた数本の論文が最も早く体系的に自由の問題について論じた。梁啓超も自由を論じ、『自由書』(1899)、『新民説』(1902)など書いたが、時期的には厳より遅い。馬君武も日本語から『弥勒約翰自由原

て国を救おうとしたためのことで、個人の自由の発達のためでもなく、個人の自由に対する社会の干渉を制限するためでもなかった。これは前に見たMillが*On Liberty*を書く動機とは全く違う。

次に中村正直の自由観について見てみよう。

中村は厳と相似た経歴の持ち主で、漢文の造詣も深かったが、旧来の学問に拘らず、積極的にヨーロッパに科学的真理を求め、いろいろと比較、検討を加えたうえで吸収するようにしていた。ロンドンから帰国して何年も経たないうちに、本を二冊翻訳して、自由を説いた。明治四年（1871年）七月下旬『自由之理』の翻訳を終えて、その序に次のような言葉を書いた。

> コノ書ニ論ズル冂、是ナリヤ非ナリヤ、予ガ知ルトコロニ非ズ。或人曰ク、然ラバ何故ニコレヲ訳スルヤ、対テ曰ク、世ノ中ニ、アリトアラユル議論ハ、是ニモセヨ、知リテ居ル方ガ、知ラヌヨリハ善カルベシ。サレバ、英国並ニ欧羅巴諸国ニテ、他邦ノ書ヲ広ク翻訳スル冂ヲ努メタリ。コノ書ニ論ズル自由ノ理（又曰自主ノ理）トイフ冂ハ、　皇国ニテハ、固ヨリ関係ナキ冂ナレドモ、欧羅巴諸国ニテハ、至要至緊ナルモノト為シテ、常ニ言フ冂ナルガ故ニ、コレヲ訳シテオカバ、外国ノ政体ヲ穿鑿スル人ノタメニ、万一ノ裨補トモナルベシト思ヒ…

これは中村が世界的範囲で真理を求めようとする態度の現れであり、ヨーロッパにとっても自国の日本にとっても自由思想が重要であることを心得ている表現でもある。しかし、中村の自由に対する認識は厳のそれとは違い、言い換えれば、中村が自由を説く意図は、濃厚な倫理的色合いを持ち、個人意識の解放と道徳の自己修業・更新を重視したものである。

中村のこのような自由観の形成は、本人の知識構造によるものであるとともに、社会的な理由によるものでもあった。1868年に、日本では明治維新が行われ、それまでの幕府政治が覆され、大政は積極的に近代化を推し進める明治天皇に奉還された。そのため、国家の危機感が薄れ、政治的倫理その他のいろいろな新思想が益々注目されるようになった。

理』を翻訳して、留学生の刊行物『訳書匯編』に発表した。同じく 1903 年に出版されたものの、厳訳のほうが時期的にやや早いことと、馬訳が留学生の刊行物に発表されたのと違って、厳訳が一流の出版社である商務印書館から出されたため、影響が大きかった。

その時、中村は田舎にいて、塾を開く一方、新しい世界の動向について他人と意見を交わしたり、自分で思索したりしていた。[16] ロンドン時代のイギリス社会や議会、政治制度に対する視察で、特に議員の品行の正しさと、社会風俗の清らかさ、民衆の独立精神に大いに感激させられた。『西国立志編』の翻訳を通して、日本人になかったヨーロッパの種種の美徳を唱え、『自由之理』を翻訳することによって、「欲品行才能之人多出于世、莫若培養人民独自一己者」[17] を強調し、自由意識を持つ人間を養成して社会の進歩を図ろうとした。中村からすれば、これこそイギリスが大国になった秘訣であった。従って、ヨーロッパの文化を受容する際に、最初に受け入れなければならないものだと考えたのである。[18]

言うまでもなく、ヨーロッパの自由思想の受容においても、中村は自分なりの考えを持っていた。『古今東西一致道徳の説』では、自由について次のように解釈した。

> 西洋の自由の正義は、支那にて言へば、道心（天理）主となりて自由を得るなり、人心（人欲）の奴隷とならぬことなり、この自由なるもの、実に修身即ち自治の根本なり、福祥の本源ここに在り、家国の基礎ここに在り、これ古今東西道徳一致の大なるもの其一なり、[19]

このように、中村は自由について自分なりに解釈し、倫理的な意味において自由を発展させ、東西の道徳の結び付きを求めようとした。しかし一方、中村は「自由といふは、決して紀綱倫理を破壊するの意に非ず。自由は善政の下に在って賢智の統轄を受けるの意なり、一般の利益の為に、設立する規法に甘心服従するの意なり。」[20] とも考えていた。ここでは権力の束縛から解放されるべき自由の要素がないばかりか、「賢政」と倫理的しきたりや、法的規制への服従を強調した。[21]

---

[16] 中村は『自序千字文』においてかなりの紙面を取ってイギリス視察のことについて述べている。高橋昌郎(1966)を参照。
[17] 中村(1927/1967)，第 50 頁。
[18] 中村も福沢諭吉も日本の民衆がヨーロッパの新しい道徳を身につけてはじめて日本が文明先進国になると信じていたらしい。Huang(1972)を参照。
[19] 大久保利謙（編）(1967)，第 331 頁。
[20] 大久保利謙（編）(1967)，第 327 頁。
[21] 萩原隆(1984)，第 131－133 頁。

つまり、中村が『自由之理』を翻訳する意図の一つは道徳のために自由思想を鼓吹するところにあった。そのため、訳者としての言葉に現れた「敬天愛人」（天を敬い、人を愛する）という道徳観には濃厚な宗教的な色彩が見られる。[22] これを厳の『群己权界论』の言葉と比較すれば明らかなように、中村は自由と道徳とを平行して講じたが、厳は自由の限界を明確にしなければ天下がその害を蒙る恐れがあると見ていた。

だが、このような儒教的な「汎愛」的思想が満ち溢れている訳者の言葉よりも、その前の年に書いた『西国立志編』の序のほうが、ヨーロッパの文化を取り入れる中村の哲人としての識見をよりよく反映しているであろう。その序には次のような文章が書かれている。

> 余の是の書を訳するや、客過りて問う者有り、曰く、子何ぞ兵書を訳せざると。余曰く、子は兵強なれば則ち国頼りて以て治安なりと謂うや。且つ西国の強は兵に由ると謂うや。是れ大いに然らず。夫れ西国の強は、人民の篤く天道を信ずるに由る。人民に自由の権有るに由る。政の寛にして法の公なるに由る。…斯邁爾斯曰く、国の強弱は人民の品行に関する、と。又曰く、真実良善は品行の本たり、と。蓋し国なる者は人衆相合の称なり。故に人々品行正しければ則ち風俗美なり。風俗美なれば、則ち一国協和し、合して一体と成る。強、何ぞ言うに足らん。[23]

そして、『西国立志編の後に書す』において、中村は「国に自主の権有る所以は、人民に自主の権有るに由る。人民に自主の権有る所以は、自主の志行有るに由る。」[24] と付け加えた。これも中村が『自由之理』を翻訳する出発点と見てよかろう。

ヨーロッパの思想を取り入れるに際して、中村も厳と同じように自国のために富強の道を求めるという動機を持っていたことは確かであった。ゆえに、*Self-help*を『西国立志編』と訳したのである。「国の強弱は人民の品行に関する」と考えていたから、ヨーロッパの近代的政治制度や風俗習慣を紹介したのであろう。その置かれていた環境の違いから、中村は厳ほど深刻な民族危機感

---

[22] 興味深いことに、『自由之理』が『明治文化集』（原書房、1980）に収録される際に、第6巻の『宗教』に入れられた。
[23] 松本三之芥（編）(1976)，第31頁。
[24] 松本三之芥（編）(1976)，第36頁。

を持っていなかった。そのため、倫理の面において、人間の自主・自由意識をより重視したのであろう。これはヨーロッパ文化に対する姿勢で中村が厳と異なる最大の相違点と言えよう。

4．「自由」という訳語について

厳も中村も、ヨーロッパ文化を受け入れるにあたって、自国の文化に新しい概念体系を組み入れなければならないという責任感があったはずである。*On Liberty*を翻訳するに際して、真っ先に「自由」という訳語とその中核的意味をどうすればよいかという問題に直面した。ここではまずこの訳語の問題を通して、厳と中村の立場を考えてみたい。

「自由」という語は古代中国語にすでにあったのだが、近代に至ると、人々がこれを以って“liberty”或いは“freedom”の訳語として、この二つの英単語の意味を伝えたのである。しかし、こうなると、「自由」の原義と新義との間にずれが生じた。

この「自由」については、厳は“初义但云不为外物拘牵而已，无胜义亦无劣义也。”[25]と解釈している。しかし、“名义一经俗用，久辄失真”[26]ということから、本来中性的であった自由という語が礼教文化の中で使われているうちに、“放诞、恣睢、无忌惮”[27]などのマイナスの意味が生じてきた。

英語の“liberty”や“freedom”にも自主的で束縛されないという意味もあるが、それよりも個性の解放と古い思想の枷を打破するといった近代的観念を持つものである。マイナスの意味での「自由」でもってプラスの意味での“liberty”を翻訳するのに無理が生じたことに、中日両国の思想家が直ちに気づいたのである。

日本語の「自由」の初出例は外国語辞書に見られると言われている。柳父章によれば、『和蘭字彙』(1855－1858)に訳語としての自由がすでにあったという。[28] ヨーロッパの学問が日本よりも先に中国に入ったので、かつては大量の英華、華英辞典ないし中国語訳宗教書が日本に伝えられ、日本の外国語辞書に影響を及ぼした。[29] その中で、例えば、Morrisonの辞典では“liberty”を「自

---

[25] 严复(1986)，第 132 頁。
[26] 严复(1986)，第 132 頁。
[27] 严复(1986)，第 132 頁。
[28] 柳父章(1982)，第 180 頁。
[29] R. Morrison の『英華字典』(1822)と W. Lobscheid の『英華字典』(1866－1869)が日本に大きな影響を与えた。森岡(1978/1979)によれば、W. Lobscheid の『英華字典』

主之理」と訳し、『英華辞典』(1847－48)では、“liberty”の訳語に「自主」、「自由」が与えられていたのである。

だが、啓蒙思想家たちは、“liberty”の訳語に対して終始慎重な態度をとり続けた。例えば、福沢諭吉がその『西洋事情』には、「libertyとは自由と云ふ義にて、漢人の訳に自主、自専、自得、自若、自主宰、任意、寛容、従容、等の字を用ひたれども、未だ原語の意義を尽くすに足らず。」[30] と書いているし、日本近代の著名な哲学者西周がその訳書『万国公法』(1868)に、「自由」のかわりに、「自主」を用いた。加藤弘之もその『立憲政体略』(1868)の中に、「自主」、「自在」を使い、その後の『真政大意』(1870)には、別の訳語「不羈」を使った。1871年に中村が『自由之理』を訳し、この訳書が広く読まれたため、「自由」という訳語がはじめて定着するようになったのである。[31] だが、上述の諸氏と同じように、中村も「自由」という訳語を慎重に扱い、『自由之理』だけを取り上げてみても、“liberty”の訳語として、「人民自主の権」、「自主自立の権」、「自主の気象」、「自主の事」、「自主の権」など様々あり、[32] その上、自由よりも自主のほうを使うことが多かった。その後も中村は頻繁に「自由」を使っていたが、この訳語が確立するまでの経緯で分かるように、中村も他の啓蒙学者も外来文化を取り入れる際に、文字としての言葉よりもその言葉の表す概念そのものを重視し、単に従来の漢語語彙を使っただけのように見えても、実際には、その言葉に新しい意味を与えていたのである。

一方、厳も“liberty”の意味と「自由」という訳語との定義について、厳しく検討を重ねた。“既云科学，则其中所用字义，必须界线分明，不准丝毫含混。”と主張し、[33] “欲论自由，自必先求此二字之的义。又此二字名词，用于政治之中，非由我辈，乃自西人，自不得不考彼中用法之如何。”と述べていた。[34] さらに、厳はイギリス、フランスにおける自由の概念を説き、“西人于此二字，其入于脑

の日本語訳への影響が最も大きく、『英和字典』(1872)、『附音挿図英和字彙』(1873)はその訳語を大量に採用しただけではなく、中村が『西国立志編』と『自由之理』を翻訳する時にもそれを参考にしたという。『自由之理』の訳語で『英華字典』の訳語と完全に一致したものだけでも「職分、利益、商量、道理、悪弊、意見、談論、判断、権勢、管轄、交易、限制、徳行、教養、行為」などがある。

[30] 柳父章(1982)，第 181 頁。

[31] 柳父章(1982)，第 181 頁。

[32] 松沢弘陽(1975)，第 35 頁。

[33] 严复(1986)，第 1280 頁。

[34] 严复(1986)，第 1280 頁。

海甚深。”[35] と言って、ヨーロッパでは、民生や幸福が話題になると、必ず自由の話をし、個人ないし社会の自由及び政界の自由をきちんと区別していると述べていた。

前述のように、厳は、中国語の自由という語が本来自主的で、束縛されないという意だったが、“名义一经俗用，久辄失真”ということで、使われているうちに“放诞、恣睢、无忌惮”といったマイナスの意味が生じたことを指摘して、厳しく批判した。と同時に、厳は中国の古代文献を調べ、“政界自由之义。原为我国所不谈。”と指摘した。[36] こうなれば、ヨーロッパで言う自由は中国にとっては、まさに新しい概念であることになる。そこで、厳は自由の義を釈明する使命感を感じ、*On Liberty*の翻訳を終えてから、「訳凡例」を著して、ヨーロッパの自由思想のいくつかの重要な概念を紹介し、“自繇”という語を使用し、書名を『群己权界论』と訳したのである。

なぜ“自繇”という訳語を敢えて選んだかについて、厳は“由、繇二字，古相通假。今此译遇自繇字，皆作自繇，不作自由者，非以为古也。视其字依西文规例，本一玄名，非虚乃实，写为自繇，欲略示区别而已。”と説明していた。[37] 長い間俗用されてマイナスの意味が付いてしまった“自由”を避けるために、わざとその古い異体字を見つけ出して、“自繇”という語にヨーロッパの“liberty”の原義を持たせようとした厳復の苦心には、誠に感心せざるを得ないものがある。

むろん、厳復がその訳書の題名を『群己权界论』にしたのは、当時の中国における自由の現状を憂えての措置でもあった。要は、厳が、自由のことを議論するにはまず個人と社会との間の自由の限界を明らかにさせておかなければならないと考えたから、“群己权界”が当然のことながら最大の問題点となったのである。このこと、つまり厳が*On Liberty*を『群己权界论』と訳したことについては、[38] 厳が自由という言葉を避けるためで、その思想が保守的だと主張する説もあるが、[39] そういう指摘は当を得ているとは言えないであろう。

---

[35] 严复(1986)，第 1280 頁。
[36] 严复(1986)，第 1279 頁。
[37] 严复(1986)，第 133 頁。
[38] 魯迅、蔡元培、賀麟、周振甫なども、*On Liberty*は最初は『自由论』と訳され、後に『群己权界论』に変更されたと言っているが、その証拠は提示されていない。
[39] 賀麟（1925）には“(严复)…把四年前旧译穆勒的 *On Liberty* 特避去自由二字，译作《群己权界论》”とあり、李泽厚(1979)には“(严）出版时却改名为《群己权界论》，连自由一词也不愿提”とあり、蔡元培（1923）には“严氏译《天演论》的时候，本来算激进派，听说他常常说‘尊民叛君，尊今叛古’八个字的主义。后来他看得激进的多了，

Millが主張していたのは限界のある自由で、しかも限界の下にある自由（とくに個人の自由）は充分に発達しなければならないということであった。しかし、当時の中国では自由思想の全義の分かる人が少なかったため、厳がわざと『群己权界论』と訳して、世俗で言う自由との区別を示そうとしたのであろう。自由を論ずるのにまず“群己”の“权界”を明らかにしなければならないという厳の考えは、その一貫した“民欲自由，必自其各能自治始”[40] という観点と一致している。即ち、“群己”の“权界”を知って始めて、自由の真意が分かり、それでもって自治の能力を高め、真の自由を勝ち取ることができると考えていたのである。

5．訳書と訳者の心のあり方について

次は二人の訳者の翻訳実態から見ていきたい。まず両者それぞれの翻訳の基準を概観し、それから実例でもって翻訳文章と訳語を検討したり、訳者の注を比較、分析しながら、訳者の心のあり方を探ることにする。

厳は1898年の『天演论』の「译例言」で“信・达・雅”を言い出して、自らの翻訳の目安としていた。早期の訳書『天演论』はさておき、その後の訳書はいずれもしっかりしていて、本人も“字字如戢子称出”[41] と誇らかに言っていた。原文の文法にこだわらずに、古雅な言葉でその意味を伝えるのは、厳の一貫した翻訳法であった。“理之精者不能载以粗犷之词，而情之正者不可达以鄙俗之气。”[42] というのだからである。むろん、『群己权界论』もその例外ではない。ただ、『群己权界论』の場合は、原文に拘りすぎたところがいささかあって、読みづらい個所がある。後になって、魯迅がこの訳書について、“据我所记得，译得最费力，也令人看起来最费力的，是《穆勒名学》和《群己权界论》的一篇作者自序。”と評価していた。[43]

ここで特に注目すべきところは、この『群己权界论』が厳の訳書の中で唯一注のないものだということである。厳が手を加えたのは、ただ段落の要旨を提

反有点保守的样子。他在民国纪元前九年，把四年前旧译穆勒的 *On Liberty* 特避去‘自由’二字，名作《群己权界论》”とあり、魯迅(1927)にも“不知怎地又改称为《权界》，连书名也很费解了”とある。

[40] 严复(1986)，第 27 頁。

[41] 严复(1986)，第 5 頁。

[42] 严复(1986)，第 516 頁。

[43] 魯迅(1927/1981)，第 38 頁。

示しただけである。[44] これは恐らく1903年の春に、それまで紛失した原稿が何らかのきっかけで見つかり、そして六月に活字にされたことと関連があるのではないかと思われる。このことからは、厳が翻訳をする際に、その第一稿の時に必ずしも同時に注を付けたとは限らないことが推測できよう。その証拠として、『天演论』の1895年の原稿には注がわずか7条で、字数も少なかったが、1898年に正式に出版されたものには注が28条にまで増え、そのうち、当初の7条の注も大幅に拡充されたのである。[45] 恐らく、『群己权界论』も同様に、活字になる直前に、厳が原稿に目を通した時点で段落の要点を加えたのではないだろうか。[46]

一方、中村の翻訳は厳の場合とかなり異なる。中村の教育歴を含めた履歴を見ても分かるように、その英語の語学力がそれほど練達だとは言えない。このことについて、中村自身も東大の学生であった三宅雄次郎に、Millの *On Liberty* はSmilesの *Self-help* とは違って、分からないところがいっぱいあるようなことを言ったくらいである。[47] そのため、中村の翻訳には、削除された個所が多く、訳文に何度も修正が加えられたり、読みやすくするための評注まで付け加えられたりしたのである。

だが、中村と厳との間に相似したところがないわけではない。厳の最初の訳書『天演论』(*Evolution and Ethics*)と同様、中村の最初の訳書『西国立志編』も原著の題名*Self-help*を変えたものであるし、各章に訳者の言葉（注）を付けたり、原著を削除したり、原作の重要な語句を儒教経典の中の漢語や故事成語で翻訳したりした。これは中日近代翻訳史においては興味深い現象である。ただ、『自由之理』の場合は、削除は前より少ない上、長い頭注の代わりに短い語句でその要点を提示しただけである。具体的な翻訳では、一文一文翻訳していくのではなく、漢語を多用した優雅で簡潔な言葉でその意味を伝えただけである。次は、いくつかの訳文を例に検討してみたい。

On Liberty 第二章第一段落(部分)

---

[44] 『群己权界论』と同じ年に出版した『群学肄言』にも注が1条しかなく、後は段落要旨式の注が付けてあるだけだが、その数は『群己权界论』よりずっと少ない。

[45] これは筆者が『严复集』に収録してある二つの版本の『天演论』を比較して得たデータである。

[46] このことは、その時点で厳がそれほど自由思想を重視しなくなったことの象徴なのだろうか、あるいは急いで出版しようとしていたためなのであろうか。

[47] 松沢弘陽(1975)、第36頁。

原文：

But I deny the right of the people to exercise such coercion, either by themselves or by their government. The power itself is illegitimate. The best government has no more title to it than the worst. It is as noxious, or more noxious, when exerted in accordance with public opinion, than when in opposition to it. If all mankind minus one, were of one opinion, and only one person were of the contrary opinion, mankind would be no more justified in silencing that one person, than he, if he had the power, would be justified in silencing mankind... But the peculiar evil of silencing the expression of an opinion is that it is robbing the human race; posterity as well as the existing generation; those who dissent from the opinion, still more than those who hold it. If the opinion is right, they are deprived of the opportunity of the exchanging error for truth; if wrong, they lose, what is almost as great a benefit, the clearer perception and livelier impression of truth, produced by its collision with error. (pp. 23-24)

中村訳：

答テ曰ク、然ラズ、人民ト官府トノ差別ナク、凡ソカクノ如キ強迫禁阻ノ事ヲ行フハ、当然ノ道ニ非ズ。権勢トイヘル冂、畢竟道理ニ合ハズ、極善ノ官府ニテモ、権勢ヲ用フレバ、極悪ノ官府ト称セラルベシ。官府ニテ、国人ノ衆論ニ一致シ、権勢ヲ行フハ、ソノ邪悪タル冂、衆論ニ抵抗スルヨリモ甚ダシトス。タトイ、天下ノ人、意見ミナ同一ニシテ、独リ一人ノ意見異ナリトモ、コノ一人ヲ圧抑シソノ口ヲ閉テ言フヲ得ザラシムレバ、大ニ公義ニ叛ケリ。…コノ新説異見ヲ禁圧シ発言スルヲ得セシメザルノ大害ハ、単独奇抜ニシテ、他ニ比類アルベカラズ。コノ害ハ、人類ヲ賊ナヒ、今世ノ人ヲ奪ヒ、後世ノ人ヲ害スルナリ。蓋シソノ禁ズル異説、設是ナラバ、コレ天下ニ是ナル道理ノ現ルル好機会ヲ奪フナリ。ソノ禁ズル新見、設非ナラバ、コレソノ謬誤ト相ヒ触レテ真理マスマス明白ナルヲ得ル大利益ヲ失フナリ。（第19頁）

厳復訳：

盖不佞之意以谓，凡在思想言行之域，以众同而禁一异者，无所往而合

于公理，其权力之所出，无论其为国会，其为政府，用之如是，皆为悖逆。不独专制政府其行此为非，即民主共和行此亦无有是。依于公信，而禁独伸之议者，其为恶浮于违众议而禁公是之言。就是过去来三世之人，所言皆同，而一人独持其异，前之诸同，不得夺其一异而使同，犹后之一异，不得强其诸同以从异也。…义理言论，乃大不然，有或标其一说，而操柄者禁不使宣，将其害周遍于人类，近之其所被者在同世，远之其所被者在后人，与之同者，固所害也，与之异者，被害尤深。其所言为是，则禁之者使天下后世无由得是以救非，其所言为非，則禁之者使天下后世无由得非以明是。盖事理之际，是惟得非，而后其为是愈显，其义乃愈不刊…

比べてみれば分かるように、中村の訳文は基本的には正確で、原著の意味をだいたい伝えていると言えよう。しかし、このような場合でも削除が行われており、「タトイ」の文は“If all mankind minus one, were of one opinion, and only one person were of the contrary opinion, mankind would be no more justified in silencing that one person, than he, if he had the power, would be justified in silencing mankind”という文を十分に再現したとは言いがたいし、最後の文も前半は「蓋シソノ禁ズル異説、設是ナラバ、コレ天下ニ是ナル道理ノ現ルル好機会ヲ奪フナリ。」と訳しただけで、原文の“If the opinion is right, they are deprived of the opportunity of the exchanging error for truth”の意味とは多少食い違いがある。また二番目の文の「極善ノ官府ニテモ、権勢ヲ用フレバ、極悪ノ官府ト称セラルベシ」というところも原文とは異なる。「コノ新説異見ヲ禁圧シ発言スルヲ得セシメザルノ大害ハ…」という文も、原文“still more than those who hold it”の言いたい所は伝えていない。以上見てきたように、中村の翻訳には省略があり、原意を損ねたところもある。“government”を「官府」と訳したのも、異なる体制下の行政機関を混同してしまう嫌いがある。

厳の訳文で評価すべきは後半のほうであるが、前半のほうでも、中村が訳出しなかった原文の意味を、厳は“(前之诸同，不得夺其一异而使同) 犹后之一异，不得强其诸同以从异也”と完訳しているし、中村が完全に伝えられなかった所も、厳は“与之同者，固所害也，与之异者，被害尤深”ときちんと訳している。特に厳の“其所言为是，则禁之者使天下后世无由得是以救非，其所言为非，則禁之者使天下后世无由得非以明是。”という訳文は実に見事な文句で、十数年後に

李大釗がこの名訳を自分の文章に引用したほどである。[48] また、“public opinion”を“公信”、“all mankind”を“过去来三世之人”、“the best government”と“the worst government”をそれぞれ“民主共和”と“专制政府”と訳したのも当を得たものと言わなければならない。ただ、原文の冒頭の部分にある“either by (the people) themselves or by their government”を厳が“无论其为国会，其为政府”と訳しところに、つまり「人民自身」を「国会」と訳したところに問題がある。

中村訳に比べれば、厳訳の方が原文に対する削除が少ないが、解釈的な語句が盛り込まれた個所がよく見られる。第一章第九段落の原文と厳復の訳文を比べてみよう。

原文：

…the sole end for which mankind are warranted, individually or collectively in interfering with the liberty of action of any of their number, is self-protection.(p.15)

厳訳：

今夫人类，所可以己干人者无他，曰吾以保吾之生云耳。其所谓己者，一人可也，一国可也。其所谓人者，一人可也，一国可也。干之云者，使不得为所欲为；而生者，性命财产其最著也　（第10–11頁）

前半では既に原文の意味が訳出されているが、後半はその意味についての解釈である。前の二つの“…者…”は“individually”と“collectively”をぼかして表現したものと見られるが、後の二つの“…者…”は明らかに強調のために付け加えられたもので、権力の制限を重視する厳の態度の現われと考えられよう。

以下は訳語について見てみよう。“liberty”については既に説明したので、ここでは“society”と“individual”を中心に検討することにする。

当時のイギリスはいわば文明先進国と見られ、個人と社会との間にある自由の限界の問題が既に表面化していた。だが、当時の日本と中国ではまだそういう認識がなかったため、個人に対する“society”を翻訳する際に、ぴったりの

---

[48] 李(1959/1978)がこの段落を引用して、“透宗之旨”と賞賛している。第 51 頁を参照。

言葉がなかったはずである。そこで、中村が「人倫交際上」や「仲間連中即チ政府」、「仲間」、「仲間会社」、「仲間会所」、「会社」、「世俗」、「政府」、「国」などさまざまな訳語を当てた、[49] そして、それまでになかった「仲間連中」という言葉の意味を説明するのに数百語からなる注を付けて、それが一国の中の百戸の村全体に似ているとか、即ち「政府」だとか言って、「政府」と訳してしまった場合もある。中村は、個人と対立関係にあり個人の自由を束縛できるものは政府でしかなかったと考えたのであろう。そうすると、“society”と“government”に区別が付かないため、後者が「官府」と訳されることもあった。新しい文化的概念が初めて導入されるときには、恐らくこのような変容は避けられないだろうが、中村が試みた数多くの訳語によって、“society”とは政府と世俗的群体の間に介在する勢力ないし組織のようなものだとイメージが当時の人々に与えられたのであろう。

厳が『群己权界论』を翻訳した時代には、日本では“society”の訳語として「社会」が一般に用いられるようになった。しかし、厳はそれをそのまま受け入れようとはしなかった。厳は自分なりの理念を持っていて、“民生有群。群也者，人道所不能外也。群有数等，社会者，有法之群也。”[50] と考えていた。つまり、“群”は「社会」を含めたもっと広い概念であった。それゆえ、厳は“society”(または“social”)を“群”、“国群”、“群理”、“社会”と訳した。そのうち、“国群”という訳語には問題がある。というのは、“国”とは明らかに組織や法を有する社会のことで、厳における“群”とは違ったものだからである。両者を一語にまとめるのが妥当だとは考えられないであろう。

“individual”については、中村の「独自一個」、「独自一己」という訳語に対して、厳は“小己”、“一己”と訳し、個人の自由のことを“行己自繇”と訳している。中村の訳語は独自性を強調し、個体意識を有するもので、原義に合致するとともに、中村の提唱する自由思想をも表している。それに対し、厳の“小己”のような訳語には独立した個体の意味合いがなく、中村の訳語に比べてみれば、明らかに近代意識を持たないものだということが分かる。個人が“小”

---

[49] 柳父章(1982)によれば、中村が翻訳を始める前の辞書には、“society”の訳語として「仲」、「間」、「組」、「連中」、「社中」などが当てられ、『自由之理』よりも後に出版された『附音挿図英和字彙』(1873)にも「会社」、「連衆」、「交際」と「合同」があるだけで、「社会」という語が載っていないとのことである。また、明治初年に福沢諭吉が“society”を「人間交際」と訳し、中村の「人倫交際」という訳語がこの訳の影響を受けたという。

[50] 严复(1986)，第 125 頁。

であるなら、国や社会が“大”ということになろう。そうすると、“小”が“大”に従うべきではないかと考えられてしまうから、主体思想に訴える自由思想とは矛盾することになる。[51]

Millが挙げた3種類の自由“liberty of conscience”、“liberty of tastes and pursuits”、“liberty of combination among individuals”に、中村がそれぞれ「是非ノ心ノ自由」、「好尚及ビ職業ノ自由」、「聯合交結ノ自由」という訳を当てたが、「是非ノ心ノ自由」が適切でないように思われる。それに対し、厳は“意念自繇”、“行己自繇”と“气类自繇”と訳した。そのうち、“行己自繇”は、“individuality”の訳語“行己自繇”と混同するし、“气类自繇”は文面を見ただけでは、その意味が分からない。また、中村が訳さなかった原文4頁の“political liberty”と“political rights”の2語を、厳復はそれぞれ“自繇国典”、“民直”と訳したが、適切とは言えない。

以上は訳語について検討してきたが、原作に対する二人の訳者の認識といえば、中村の「頭注」と厳の注に反映されていると考えられるから、これについて見てみよう。

*On Liberty*は五つの章から構成されている。次の表は中村訳の頭注と厳訳の注の章ごとの数をまとめたものである。

	厳　　復	中村正直
第一章	16（+3）①	13
第二章	38（+1）	59
第三章	18(−1)②（+6）	49
第四章	18(−2)(+1)	36
第五章	18(−4)(+4)	20
合　計	108(−7)(+15)	177③

①(+n)は段落要旨式の注以外の地名、人名、事件などに関する注の数。

②(−n)は段落要旨式の注を付けていない段落の数。

③筆者が使っている『自由之理』の版本には、Millの観点に賛成しない中村の唯一の重要な頭注が欠けている。それを入れれば、頭注の総数は178になる。

---

51 『群己权界论』第四章に“该一民之生，社会于彼尝有无穷之节制，龆龄以往，弱冠以前，凡以扶植此民养其自治之风力者，社会既全而有之矣。”という文がある。これに対して、厳は“此社会二字兼父师而言”という注を付けた。“社会”が“父师”なら、“小己”の性格が想像できよう。

『自由之理』に付けた頭注の数から見れば、一番多いのは59条の第二章である。第二章は一番長い章で、日本語訳は25頁にも達している。それに対し、第三章はわずか14頁にもかかわらず、頭注が49条もある。実際、この第三章は個性の発達が社会の進歩と人類の幸福に有益だと論述したもので、個性の解放を唱え、人を善に導くという中村が『自由之理』を翻訳する意図と合致するものである。頭注の多さと頭注に盛り込まれた賛美の言葉が中村の気持ちの表れと見てよいであろう。

中村の頭注には２種類のものがあり、一つはいわば賛美の辞や感想で、もう一つは欄外に原文の語句を記し、それを目立たせるようにしたものである。まず前者の例を見てみよう。例はいずれも第三章から取る。

44頁に「自己ヨリ出ル品行アラズシテ、特ニ他人ノ伝説及ビ他人ノ風習ヲ以テ、吾ガ行状ノ規則トスルトコロニテハ、人生福祉ノ基本トナレル原質ハ、缺テ有ラヌ冂ナリ。即チ人民各箇ノ造就上進、及ビ邦国一体ノ造就上進ノ原質ハ、缺テ有ラヌ冂ナリ。」という訳が書かれ、中村がこの説を大いに賞賛し、「絶頂識見」という賛辞を欄外に記した。

55頁に「他人ノ我ニ勝ル冂ヲ知リ、双方ノ進益ヲ合ハシテ、各々今マデニナキ善キ品行ヲ造リ出ス冂ナリ。」とあり、「微妙之論、与ニ庸俗之見正相反」と「東西一徹、古今同嘆」との注を付けた。

第三章の原文の最後の文は“Mankind speedily become unable to conceive diversity, when they have been for some time unaccustomed to see it.”となっているが、中村はこれを「凡ソ人、殊異ナル者ヲ見慣シザル時ニ当リテハ、殊異ナル者ヲ想ヒ像ドル冂能ハザルモノナリ。」と訳して、「作者憂世之意、溢于筆墨」との感想を付け加えた。さらに、これでも物足りないらしく、「カクナラザル以前ニ、独自一己ノ者ヲ振ヒ興サヾルベカラズ」と書き添えた。訳者の世を憂える気持ちが窺われる。

以上は中村訳にある賛美の辞の例であるが、次にもう一種の注を見てみよう。48頁に「今日之危害者、在于人民各箇気力之不足」という中村が取り立てた語句がある。個性の湮滅が社会の進歩にとっては潜在的な弊害だという意味であるが、中村はこの言葉でもって世間を戒めようとしたのであろう。この文と呼応して、中村は49頁に「独一者争進、則世道日進」とまとめた。これも中村の個性を肯定する態度の表れだと言えよう。前の段落に続いて、その趣旨をMillが「欲品行才能之人多出于世、莫若培養人民独自一己者」で締めくくったが、この文も中村は取り立てて注として記した。個性養成の重要性に同調してのこ

とであろう。そのような優れた人材をどう養成するかということも、中村の感心するところである。51頁に、中村が「英才之人、非自由之地不能生」という言葉を記し、優れた人材とその環境である自由との関係を強調している。

以上の例で分かるように、個性の自由を論じる第三章の翻訳において、中村は数多くの注を加えたが、それよりも自分自身の思想と感情をそれらの注に注いで、個性の自由とその社会の進歩に対する重要性を唱えたのである。これは即ち中村がこの*On Liberty*を翻訳する目的と言えよう。

一方、同じ*On Liberty*を翻訳した厳の着眼点はどこにあるのであろう。厳の場合は中村のような頭注は付け加えなかったが、しかし、その段落要旨式の注と*On Liberty*を『群己权界论』と訳した書名からも分かるように、厳が一番関心を持っていたのは“群己権界”の問題であった。

例えば、その訳書の6頁の注の一つに“以下言所以必明群己之权界”とあり、もう一つに“以下言是非无定，故自由之权界难以竟立”とあり、9頁の注に“以下言权界不清，故上下失交”とあって、10頁の注に“以下言标出自由大意，而群己界限自明”とある。[52] さらに81頁に2度も“以下标明权限分界”と注を付けた。こういうふうに頻繁に“权界”のことに注を付けたのは、中村とは対照的だと言えよう。

6頁の“以下言所以必明群己之权界”という注の付けてある段落は、主に個人に対する社会ないし世論の束縛には限度がなければならないこと、さもなければ、個性の発展を妨害することになるということ、即ち“群”の限界だけを述べた個所で、“己”の限界については触れていない。これらの注を見ても分かるように、厳が強調しようとしたのは“群”と“己”の“权界”で、群だけの権限ではない。これに対し、中村が付けたのは「無論君治民治之国、政府之権不可不限」という頭注で、原文の趣旨に合っている。

第四章の初めの２段落について、厳は“标明权限分界”という注を付けた。原文と照らし合わせてみたところ、この“分界”の意味合いが厳によって強調されたことが分かる。“是之分界，固必有其可言者”と“二者权力之分界，亦易明也”の２文が原文にはなく、訳者が強調するために加訳したものである。この２段落については、中村は注を付けていない。

第四章のタイトルは“Of the limits to the authority of society over the individual”となっている。中村はこのタイトルを原意のままに訳したが、厳

---

[52] 厳がこの段落を重視していたのに対し、中村はこれには何一つ評注をつけていない。このことからも二人の関心事の違いが窺われる。

はこれを“论国群小己权限之分界”と訳した。Millの趣旨は個人を社会が制約する場合、その度合が問題で、度を超えてはならないということであるが、厳訳は社会にも個人にも自由の限界があり、新しきを好むものは好き勝手に行動してはならず、古きを守るものは自由の説を洪水猛獣と見なくてもよいことを言っている。イギリスの思想家でさえ自由の限界を論じているのだから、民智のまだ開かぬ中国ではなお更その限界を講じなければならないと考えたのであろう。

厳が西洋の自由思想を紹介したのは、いわば民徳を新しくし、民族の発展を図るためであったが、正確に言えば、厳が自由思想を紹介する第一の目的は“群己权界”を明確にさせるところにある。つまり、権界→自治→自由→国家の富強という図式で、厳の“三民”の主張と合致するものである。

6．終わりに

本稿ではいくつかの視点から中村正直と厳復が西洋の自由思想を導入する際のプロセスと特徴を考察してみた。二人の考え方の相違と文化的使命感の相違、ひいてはめいめいの置かれた社会的環境の相違によって、*On Liberty*の思想を吸収するにあたって、翻訳紹介の目的も重点もおのずと異なってきたのである。中村はMillの個性の自由と思想言論の自由についての急進的な主張に賛成し、その翻訳の目的は、明治維新時代の民衆を封建的制度と旧来の観念の束縛から目覚めさせることであった。それに対し、厳には自由を唱える啓蒙者の意識はあるものの、“利国善群”という考えもあった。自由に関する新しい学説を紹介しながら、自由に制限を与えなければ秩序が乱れるのではないかと心配していたのであろう。それで、厳は折衷的な道を選び、“自由”という概念に最初から厳しい制限を与え、*On Liberty*を『群己权界论』と訳したのだと考えられよう。

参考文献

Mill, John Stuart. (1859/1981) *On Liberty*, in *Three Essays*, Oxford: Oxford University Press

中村正直訳(1872)『自由之理』,『明治文化全集』(二)「自由民権篇」東京：日本評論社 (1927/1967)

严复译(1903/1981)《群己权界论》北京：商务印书馆

石田雄(1976)『日本近代思想史における法と政治』東京：岩波書店
大久保利謙(編)(1967)『明治啓蒙思想集』『明治文学全集3』東京：築摩書房
小野川秀美(1969/1984)『清末政治思想研究』東京：みすず書房
鈴木修次(1981)『日本漢語と中国』東京：中央公論社
高橋昌郎(1966)『中村敬宇』東京：吉川弘文館
芳賀徹(1980/1988)『明治維新と日本人』東京：講談社
萩原隆(1984)『中村敬宇と明治啓蒙思想』東京：早稲田大学出版部
松沢弘陽(1975)「西国立志編と自由之理の世界—幕末儒学・ビクトリア朝急進主義・「文明開化」」『日本における西欧政治思想』日本政治学会年報
松本三之芥(編)(1976)『明治思想集』『近代日本思想大系30』東京：築摩書房
森岡健二(1978/1979)『明治の漢語』文化庁(編)『和語・漢語』東京：大蔵省印刷局
柳父章(1982)『翻訳語成立事情』東京：岩波書店
山下重一(1972)「中村敬宇訳『自由之理』について」『国学院大学栃木短期大学紀要』第六号
山下重一(1973)「明治初期におけるミルの受容」『思想』昭和48年12月号
吉武好孝(1959)『明治・大正翻訳史』東京：研究社

蔡元培(1923)《五十年来中国之哲学》申报馆编《最近之五十年》上海：申报馆
郭嵩焘(1877-79)《伦敦与巴黎日记》钟叔河编，长沙：岳麓书社
贺麟(1925/1984)《严复的翻译》《论严复与严译名著》北京：商务印书馆
近代日本思想史研究会(1983)《近代日本思想史》马采译，北京：商务印书馆
李大钊(1959/1978)《李大钊选集》北京：人民出版社
李泽厚(1979)《中国近代思想史论》北京：人民文学出版社
梁启超(1932)《饮冰室合集》上海：中华书局
鲁迅(1927/1981)《二心集》《鲁迅全集》第四卷，北京：人民文学出版社
马祖毅(1984)《中国翻译简史》北京：中国对外翻译出版公司
商务印书馆(编)(1984)《论严复与严译名著》北京：商务印书馆
石峻、王忍之(编)(1957)《中国近代思想史参考资料简编》北京：三联书店
汤志钧(1957)《戊戌变法史论丛》武汉：湖北人民出版社
王蘧常(1936)《严几道年谱》上海：商务印书馆
王栻(1957/1975)《严复传》上海：上海人民出版社

严复(1986)《严复集》(共5册)王栻主编，北京：中华书局
严璩(1986)《侯官严先生年谱》《严复集》(第5册)王栻主编，北京：中华书局

Huang, Philip C. (1972) *Liang Ch'i-ch'ao and Modern Chinese Liberalism.* Seattle and London: University of Washington Press
Schwartz, Benjamin I. (1964) *In Search of Wealth and Power: Yen Fu and the West.* Cambridge, Mass.: Harvard University Press

中国における『華夷訳語』の研究状況
—1979年以降を中心に—

蒋　垂東

1．はじめに

明、清王朝によって作成された中国語と諸外国並びに周辺民族の言語との対訳集『華夷訳語』は、言語学的資料としては勿論のこと、外交や交通史、そして民族学の資料としても注目を浴び、多くの研究によって取り上げられている。

『華夷訳語』の研究は、1789年、イエスズ会のフランス人宣教師P.Amiotが北京でその一本を得てパリに送り、自らもこれを研究し、2篇の論文を発表したのを以って嚆矢とする。これ以後、19世紀末から今世紀20年代頃まで、J.Klaproth、F.Hirth、E.W.K.Müller、W.Gruber、E.Denison Ross、P.Pelliot、H.Maspero、L.Aurosseauなど、主として西洋人によって研究が進められてきた。日本でも1910年代の後半頃から『華夷訳語』についての研究が活発になり、多くの研究成果が発表されている。書誌学的には、石田幹之助(1931,1944,1954)の寄与が大きく、その甲、乙、丙、丁の4種分類が広く受け入れられている[*1]。また、

[*1]「女真語研究の新資料」(『桑原博士還暦記念東洋史論叢』所收、弘文堂1931年)、「所謂丙種本『華夷訳語』の『韃靼館訳語』」(『北亜細亜学報』第2輯、1944年)、「『華夷訳語』といふ辞書」(『図書』昭和29年2月号)。四分類の概略は以下の通り。

甲種本は最初に出来た『華夷訳語』で、翰林院侍候火源潔らが編集し洪武22年(1389)に刊行された漢語と蒙古語との対訳語彙である。一切蒙古文字を使用せず、全て漢字の音で蒙古語を写している。巻末には文例として12通の漢蒙両文字併記の「来文」がある。乙種本は、永楽5年(1407)に置かれた四夷館(後に四訳館に改名)で編集された10種類の対訳集で、語彙篇「雑字」と文例「来文」からなる。外国・外民族語は漢字音訳の他、当該言語の文字も使用されている。丙種本は明の会同館で編纂された対訳集で、語彙篇のみあって文例がない。外国・外民族語は漢字音訳のみで当該言語の文字を一切使用していない。13館本が完本とされる。成立年代が未詳で、ロンドン本の日本・満刺加館にある1549年校正の識語は手掛りとなるだけである。丁種本はFuchsが北京故宮で発見したもので、1748年四訳館と会同館が会同四訳館合併された以降にそこで編纂された36種の対訳集である。語彙篇のみで、文例がない。

言語学的には 1970 年代から続いている西田龍雄の『華夷訳語研究叢書』[*2] が世界的な注目を集めている。なお、西洋人による研究状況は石田幹之助(1931,1944)、許雲樵(1954)[*3]、聞宥(1979)[*4] に詳しい。1950 年代半ばまでの日本における研究状況は山崎忠(1953,1954)[*5] に詳細な報告があり、それ以降の研究については福島邦道(1993)[*6] に紹介がある。また、欧州と日本における『華夷訳語』の蔵書状態は石田幹之助(1931,1944,1954)に詳しい。

一方、『華夷訳語』が生まれた中国では、商務印書館による『涵芬楼秘笈第四集・華夷訳語』の影印発行をはじめ、羅福成、陳垣、聞宥などの業績が知られているものの、全体的には西洋や日本に比べ、大きな遅れをとっていたといわざるを得えない。長い間中国での『華夷訳語』の蔵書状態とその内容が不明のままになっていたため、西洋や日本で行われた多くの研究は中国のテキストを利用することができなかった。しかし、近年、特に 1980 年代に入ってから中国では『華夷訳語』への関心が高まり、多くの発見と研究成果が報告されるようになった。その結果、これまで不明な点の多かった中国での『華夷訳語』の蔵書状態及びその内容などが次第に明らかになってきた。中にはこれまでの研究の不足を補う重要なものも含まれている。筆者は『日本館訳語』の研究上、中国における『華夷訳語』の研究動向にも注意を払い、その研究成果の蒐集に心掛けてきた。本稿では、管見の範囲で、1979 年以降の約 20 年間を中心に中国における『華夷訳語』の研究成果について紹介するのが目的である。もとより実見できなかったものも多々あるので、切に識者のご教示を仰ぎたい。以下では、発表順に従って紹介を試みることとする。

[*2] Ⅰ.『西番館訳語の研究 —チベット言語学序説—』(1970 年刊)、Ⅱ.『緬甸館訳語の研究 —ビルマ言語学序説—』(1972 年刊)、Ⅲ.『暹羅館訳語の研究 —タイ語比較言語学序説—』(未刊)、Ⅳ.『倮儸訳語の研究 —ロロ語の構造と系統—』(1979 年刊)、Ⅴ.『女真館訳語の研究 —女真語と女真文字—』(未刊)、Ⅵ.『多続訳語の研究 —新言語トス語の構造と系統—』(1973 年刊)、Ⅶ.『白馬訳語の研究 —白馬語の構造と系統—』(1990 年刊、孫宏開と共著)

[*3]「『華夷訳語』伝本攷」(『南洋学報』第 10 巻第 2 輯)

[*4]「国外対『華夷訳語』的収蔵和研究 —兼評西田龍雄的『華夷訳語研究叢書』—」(『外国研究中国』第 2 輯)

[*5]「我が国における華夷訳語研究史」、「同補遺」(『朝鮮学報』第 5、6 輯)

[*6]『日本館訳語攷』笠間書院、1993 年

1979 年、馮蒸は一連の論文と著書の中で外国における『華夷訳語』の研究について紹介している。1964 ～ 1974 年の外国におけるシナ・チベット語族の研究状況を紹介する「近十年来国外漢蔵系語言研究情況簡介(1964-1974)」[*7] では、西田龍雄の「新言語トス語の性格と系統」、荻原弘明の「巴里本華夷訳語・緬甸館訳語についての覚書」、Jeremy H. C. S. Davidson の「A new version of the Chinese-Vietnamese vocabulary of the Ming dynasty- I 」などを取り上げている。また、1963 ～ 1977 年の国外におけるチベット語の研究状況についての「近十五年来国外研究蔵語情況簡介(1)(2)」[*8] では、西田龍雄の『西番館訳語の研究』、「十六世紀における西康省チベット語天全方言について」、『多続訳語の研究』を紹介している。さらに 1949 ～ 1978 年の国外のチベット研究を紹介する著書『国外西蔵研究概況』[*9] でも『多続訳語の研究』について触れ、日本の代表的な研究者の一人に西田龍雄を取り上げ、『華夷訳語』に関するその一連の研究業績を紹介している。同じ年、聞宥は「国外対『華夷訳語』的収蔵和研究 ―兼評西田龍雄的『華夷訳語研究叢書』―」を発表し、国外における『華夷訳語』の研究史を述べつつ、『多続訳語の研究』を中心に西田龍雄の『華夷訳語研究叢書』についてコメントしている。

一方、同じ年台湾では、火源潔譯、第伯符輯の『華夷訳語』が珪庭出版社より影印出版された。何本によったかは不明。巻首に茅伯符が輯したとする茅子蕃の序文があり、序文に続く「華夷訳語目録」には丙種本の、朝鮮、琉球、日本、安南、暹羅、韃靼、畏兀児、満剌加、占城、西番、回回、女直、百夷 13 館の名前が見えるが、実際は朝鮮、琉球、日本、安南、暹羅、韃靼、畏兀児、満剌加の 8 館しかない。表紙の「火源潔訳」は原書になく出版の際につけられたもので、信ずるに足らない。また、「第伯符輯」が「茅伯符輯」の誤りであることは明らかである。その底本を確かめるべく、筆者はかつて出版元に問い合わせたことがあるが、あいにくその出版社はすでに廃業したため、ついに確認することができなかった。この出版社が朝鮮関係の本を多く出していたのを手掛かりに、韓国で調査をしたところソウル大学中央図書館にも同一内容の 1 本が存していることが分かった。筆跡は同じだが、字の書き間違いなどが見ら

[*7] 『外国研究中国』第 2 輯、1979 年

[*8] 『語言学動態』1979 年第 1、2 期

[*9] 中国社会科学出版社、1979 年

れることから、同じ人が写した別本であると考えられる。また、筆者(1996)[10]が指摘したように、両本の館数の存欠状況は稲葉君山旧蔵本と全く同じで、書き方も非常によく類似している。内容面では、筆者が調査した日本館に限って言えば、器用門から人物門にかけて 1 丁分にあたる 23 語が欠落しているなど全く同じである。但し、台湾本とソウル本に見られる訂正や注記と思われる書き込みなどは稲葉本にはない。

1980 年、金光平・金啓孮の『女真語言文字研究』[11]が上梓された。『内蒙古大学学報』(1964 年第 1 期)所載の論文を公刊したもので、「前言」「第一章女真的語言」「第二章女真文字的創製与行使」「第三章女真文字的資料和論著」「第四章女真文字的構造」「第五章女真文字的読音」「第六章女真語語法」「第七章女真文字対史学的貢献」「第八章結論」「付録」からなり、女真語の文字、発音、文法などについて論じている。第三章では、『女真訳語』のテキストについての紹介の中で北京図書館本や翁覃溪旧蔵本を取り上げている。それによると、北京図書館本と翁覃溪旧蔵本はいずれも東洋文庫本の「新増」にあたる部分しかないという。第四章では、『女真館雑字』『女真館来文』の女真文字が女真大字であることを論証している。第五章では、乙種本女真雑字・来文には、漢語の発想に基づいて作られた女真語・文が存在していることを明らかにし、その訂正を試みている。なお、同書については、周有光に「女真語文学的豊碩成果 —紹介金光平・金啓孮『女真語言文字研究』—」[12]との書評がある。

同じ年、額爾登泰・烏雲達賚・阿薩拉図 3 氏は『「蒙古秘史」詞匯選釈』[13]を出版し、その中で『蒙古秘史』の中から現代蒙古語と意味が異なるなどとして 1,018 の言葉を取り上げ、甲種本『華夷訳語』や乙種本の『韃靼館雑字』『高昌館雑字』などを使って注釈している。また、耿世民はウィグル語に関連する文字資料と文献資料を紹介する「古代維吾爾族(回鶻族)文字和文献概述」[14]の中で、『高昌訳語』を取り上げている。この論文は後に林幹編の『突厥與回紇歴史論文選集(1919 ～ 1981)』[15]に収められている。

---

[10]「ロンドン大学本『日本館訳語』の識語をめぐって」(『筑波日本語研究』創刊号)

[11] 文物出版社、1980 年

[12]『内蒙古大学学報』1980 年第 4 期

[13] 内蒙古人民出版社、1980 年

[14]『中国史研究動態』1980 年第 3 期

[15] 中華書局、1987 年

1981 年、胡振華と黄潤華は共著で「明代高昌館来文及其歴史価値初探」[*16]、共編で『明代文献高昌館課』[*17] を発表している。前者は雑誌論文で、高昌館の「来文」について北京図書館本の紹介及び東洋文庫本との比較を行っている。それによると、北京図書館には 3 巻からなる明抄本の『高昌館課』があり、89 通(内 2 通は漢文のみ)の「来文」を収録している。その数は東洋文庫本の 15 通、L.Ligeti(1966 ～ 9)の 41 通を大幅に上回っている。また、ウィグル文字で書かれた「来文」の多くは漢文を逐字に直訳しており、チュルク語の文法に合っていないなどの指摘も見られる。後者は著書で、『高昌館課』の 89 通の「来文」に注釈を施しつつ、ウィグル文字をローマ字で転写している。冒頭には「一部珍貴的明代文献 —『高昌館課』—」という解題がある。

同じ年、蔵書状態について重要な報告があった。馮氏は「“華夷訳語” 調査記」[*18] で、北京地区に現存する 57 種[*19] の『華夷訳語』についての調査結果を発表している。甲、乙、丙、丁種別に各本の書名、門数、収録語数、それに書影を掲載している。具体的には、甲種本は 2 本ある抄本の内の 1 本(17 門、844 語、来文 12 通)を取り上げている。乙種本は、『女真館訳語』(17 門、751 語、続添・新増 112 語)、『韃靼館訳語』(17 門、809 語、続増 17 門、314 語)、『高昌館訳語』(17 門、716 語)、『暹羅館訳語』(18 門、594 語)、『百訳館訳語』(16 門、674 語)、『八百館訳語』(17 門、761 語)、『緬甸館訳語』(16門、660語)、『西番館訳語』(20門、742語)、『西天館訳語』(門別なし、519語)、『回回館訳語』(18門、777語)、と全10館が揃っている。但し、「来文」があるのは女真館(20通)と高昌館(87通)のみで、他は「雑字」しかない。丙種本は、『韃靼訳語』(17 門、961 語)、『委兀児訳語』(17 門、829 語)、『河西訳語』(17 門、255 語)、『回回訳語』(17 門、673 語)の4館のみである。この4館は、『訳語』(清袁氏貞節堂抄本)という 1 冊の抄本に収められ、巻末にはパスパ文字の官印「太尉之印」があり、その上に「太尉之印・宣光元年(1370)十一月日中書礼部造」

[*16] 『西北史地』1981 年第 3 期

[*17] 新疆人民出版社、1981 年

[*18] 『文物』1981 年第 2 期

[*19] これには、(1)各種海外所蔵本の複製本、(2)『涵芬楼秘笈第四集・華夷訳語』、(3)『龍威秘書』所収の『西番訳語』及びこれに基づく各種刊本、(4)『八紘訳史』『訳史紀余』など所収の『訳語』、(5)羅福成校録本、(6)『登壇畢究』『武備志』『事林広記』『盧龍塞略』『薊門防御考』など所収の「訳語」、が含まれていないという。

と漢字で書かれている。丁種本は、全 42 種あり、量・質とも国外の所蔵を圧倒しているという。

この中で、いくつか注目すべき重要な点がある。先ずは『河西訳語』である。同書の存在が報告されたのはこれが初めてである。音訳は原語の文字を一切用いず漢字のみを使用しているなど丙種本と同じ体裁になっている。人事門に「大明国　我喇都」の項目があることから明代以降の成立であることが分かる。『大明会典』巻百九(賓客・会同館・各国通事)の通事定員数に関する記録には、対訳集の存在が知られている朝鮮、日本、琉球、安南、暹羅、占城、満剌加、韃靼、回回、女直、畏兀児、西番、緬甸13館の他、河西などの通事も見られることや『高昌館雑字』の人物門では「韃靼、回回、西番、高昌、女直、百夷、緬甸、西天、八百、河西」の項目があり、訳語が作られている各館と共に河西も並べられているなどから、『河西訳語』も作られていた可能性は否定しがたい。同書の発見によって、丙種本の 13 館完本説は再考する必要性が出てきたと言えよう。また、貞節堂本『訳語』巻末の年代注記は、成立時期が不詳となっている丙種本の成立を知る上で、注目すべき手掛かりである。この注記が事実ならば明代発足(1368 年)直後に丙種本『華夷訳語』(或いはその内の一部)がすでに存在していたということになる。

次に丁種本については、従来その数は Fuchs(1931)[20] に従って、36 種類と考えられてきたが、馮氏の調査で 42 種類あることが明らかになった。Fuchs36 種と馮氏 42 種の違いは、Fuchs には『広西慶遠府属土州県司訳語』と『広西鎮安府属土州県司訳語』を欠き、また 5 種類ある「猓玀訳語」が 1 種類になっているところにあると考えられる。

また西田龍雄は、かつて今西春秋教授の蔵する表紙欠落のため書名不明になっている一種の『華夷訳語』について研究、これを『多続訳語』と命名し、1973 年松香堂より『多続訳語の研究 —新言語トス語の構造と系統—』として出版している。馮氏によると、北京故宮所蔵の丁種本にはこれ(今西本)と同じテキストが完全な状態で存在しており、その名は『西番訳語』で、九種類ある『西番訳語』の内の通称「川八」に該当する。今西本は 2 枚(表紙の他当該言語を使用していた地域と部落を記す序文も)欠落しているという。

さらに、丁種本 42 種の内、『琉球土語』(11 門、282 語)だけが原語の文字を一切用いず漢字のみを使い、他の 41 種は漢字の他、原語の文字も使用されて

[20] Remarks on a new "Hua-I-I-Yü", Bulletin of the Catholic University, Peking, No.8,1931

いるということも明らかになった。『琉球土語』は、琉球方言の研究資料として注目すべき文献であるが、これまで門数と収録語数以外、その具体的な内容は不明のままになっている。筆者は5年前に北京故宮博物院図書館でこの書を調査したことがあり、近くその調査結果を別稿で発表する予定である。

馮氏は、この年の8月に銀川において開かれた西夏研究学術討論会で自ら発見した『河西訳語』について「『河西訳語』初探」を発表している。その中で、同書に記録されている言語を党項語と認定した上、西夏語、チベット語、涼山ロロ語との比較で、その言語は西夏語とは多くの不一致が認められるものの、明らかにシナ・チベット語族に属すると結論付けている。なお、この論文は後に部分修正を経て黄盛璋主編の『亜洲文明論叢』[*21]に収められている。

翌 1982 年、陳乃雄も『河西訳語』についての論考を発表し、「『河西訳語』中的阿爾泰成分」[*22]の中で、甲種本『華夷訳語』や乙種本『高昌館雑字』などとの比較で同書の訳語の中にチュルク語と蒙古語の要素が少なからず見受けられることから、同書によって記録されている言語はアルタイ語族の可能性がより大きいとの見解を提示している。一方、呉天墀も同じ年に出版した『西夏史稿(増訂本)』[*23]の中で、『河西訳語』を取り上げ、その言語系統の帰属について陳乃雄氏の意見を支持する見方を示している。

この年、胡振華・黄潤華は「明代高昌館来文及其歴史価値」[*24]を発表し、再び北京図書館本『高昌館課』の「来文」について論じている。また、女真館についても以下数件の研究が報告されている。先ずは、羅福頤・金啓孮・賈敬顔・黄振華4氏は「女真字奥屯良弼詩刻石初釈」[*25]の中で、山東省で発見された女真文字の石碑に刻まれている奥屯良弼(人名)の詩について、ベルリン本『女真訳語』の推定音に基づいて解読している。次に和希格は「近百年国内外『女真訳語』研究概況」[*26]の中で、国外における『女真訳語』の蔵書状態及び W.Gruber (1896)、渡辺薫太郎(1933)、石田幹之助(1940)、山路広明(1953,1967)、金光

[*21] 四川人民出版社、1986 年

[*22] 『中国語言学報』第 1 期。なお、呉天墀(1982)pp.405 ～ 406 によると、陳氏の同じ題目の論文は 1981 年 9 月にすでに謄写版で出ているという。

[*23] 四川人民出版社、1982 年

[*24] 『中央民族学院学報』1982 年第 1 期

[*25] 『民族語文』1982 年第 2 期

[*26] 『内蒙古社会科学』1982 年第 3 期

平・金啓孮(1964=1980)、清瀬義三郎則府(1973)、李学政(1976)などの研究を取り上げて紹介している。また、楊暘・袁閭琨・傅朗雲3氏は共著『明代奴児幹都司及其衛所研究』[27]の中に、羅福成『女真訳語二編』所収女真語来文についての注釈を収めている。女真館来文の記述内容には『明実録』などの記録に一致する点が多く、信憑性が高いとしている。

1983年にも高昌館と女真館に関する研究報告があった。胡振華・黄潤華は「明代漢文回鶻文分類詞匯集『高昌館雑字』」[28]を発表し、北京図書館所蔵の『高昌館雑字』について紹介する他、同書のウィグル文字に見られる特徴を挙げている。その紹介によると、北京図書館には、乙種本で明抄本『華夷訳語・高昌館雑字』、清刊本『高昌館訳書』、清抄本『高昌館雑字』の3本が蔵されており、3本とも716語を収録しているが、明抄本には「続増」10葉78語、増補にあたる「華夷訳語」19葉148語もあり、総語数は942語に達しているという。また、東洋文庫本は僅か208語しかないが、その中の62語は北京図書館本にないものと指摘している。

この年の『内蒙古大学学報』増刊号に、道爾吉の「女真語音初探」(241頁)と和希格の「『女真館雑字・来文』研究」(197頁)という2篇の長大な論文が発表されている。前者は、第一章緒論、第二章『女真訳語』注音漢字的音値、第三章女真語音系統、第四章『女真館雑字』的読音構擬、第五章女真字的音値、第六章結論、という構成で、『女真館雑字』などの資料を駆使して、明代女真語音の再構を試みている。後者は、第一章緒論、第二章女真館雑字研究、第三章女真館来文研究、第四章『雑字』和『来文』関係的探討、第五章『女真館雑字・来文』的歴史価値、第六章結束語という内容で、北京図書館本も含め『女真館雑字』と同「来文」の知られているあらゆるテキストについて校訂を行いつつ、『女真館雑字』の成立年代及び「来文」との関係について考察している。成立時代については、『女真館雑字』の複合語を除く本体の部分は金代、本体の複合語及びその「続添」「新増」の部分は明代(1407年以降)、そして「来文」は明永樂末年(1142)～嘉靖初年(1522)、と推定している。

前年に続いて1984年も高昌館に関する研究があった。先ずは、胡振華・黄潤華共編による『高昌館雑字』が民族出版社より上梓された。北京図書館本の716語に、「続増」78語、「増補」148語、それに東洋文庫本の一部(北京図書

---

[27] 中州古籍出版社、1982年

[28] 『民族語文』1983年第3期

館本未収のもの)を合わせた延べ 1 千語を収録し、注釈を行っている。「『高昌館雑字』及有関資料介紹」という詳細な解題の他、「東洋文庫本勘誤表」と北京図書館本明抄本『高昌館雑字』の写真 16 枚、同清刊本『高昌館訳書』の写真 2 枚も掲載している。同書については、傅庭訓に「一本明代漢文回鶻文分類詞匯集 —評介『高昌館雑字』—」との書評[29]がある。次に、田衛疆が「明『高昌館課』諸函文年代考釈」[30]を発表し、『明実録』などの文献に基づいて、『高昌館課』の 89 通の「来文」について年代考証を行っている。

この年、高昌館の他、黄有福による丙種本『朝鮮館訳語』の研究もあった。黄氏はその「介紹一種古代朝鮮語資料 —『朝鮮館訳語』—」[31]で、漢字で音訳されている朝鮮語の解読を試みている。また、元代高麗語の痕跡があることや、『鶏林類事』の宋代高麗語に共通する訳語が見られることなどから、『朝鮮館訳語』の成立年代について 15 世紀初めと推定している。なお、筆者は実見していないが、同じ著者には謄写版の『「華夷訳語・朝鮮館訳語」初探、解読』もあるといわれている[32]。

1985 年には、金啓孮の『女真文辞典』(『女真文鑑』)が文物出版社により刊行された。『女真館雑字・来文』や碑文などに見られる全ての女真文字を部首別に計五類、三十八部、十一附に分類している。女真文字を部首別に分類するのは世界初の試みだという。また、付録一に女真語の語法辞一覧表、付録二に引用資料略称表、付録三に女真語の資料と研究目録を掲載し、巻末にはアルファベット順による索引をつけている。

翌 1986 年にも、女真館に関する発表があった。傅朗雲は「明代『女真館来文』研究概述」[33]で、W.Gruber(1896)から始まり、渡辺薫太郎(1933)、金光平・金啓孮(1964)、清瀬義三郎則府(1973)、和希格(1983)に至るまでの『女真館来文』に関する研究を紹介している。また、滕紹箴は「明清両代満語満文使用情況考」[34]の中で、『女真訳語』を資料に明代の女真語と女真文字の使用状況について論じ、女真文字は嘉靖末年(1566 年)に散逸するまで明代でも約 200

---

[29]『突厥語研究通訊』1984年第3, 4期

[30]『西北史地』1984 年第 4 期

[31]『中国民族古代文字研究』所收、中国社会科学出版社、1984 年

[32]和希格(1983) p.249

[33]『北方文物』1986 年第 1 期

[34]『民族語文』1986 年第 2 期

年間にわたって使用されていたと指摘している。

1987 年、哈斯額爾敦はその「『華夷訳語』(漢蒙訳語) 研究」[35] の中で、北京図書館の甲種本『華夷訳語』の所蔵状況について紹介している。それによると、北京図書館には 2 種類の甲種本『華夷訳語』が蔵されており、前者は 17 門で 838 語を収録している。後者は四巻からなる抄本である。四巻本の第一巻は前者と同じ内容。第二巻と第四巻の半分(第二巻の後に付されている)は『畏兀児訳語』。第三巻と第四巻の一部は甲種本『華夷訳語』で、内、第三巻は 17 門、314 語で、第四巻の一部は 13 門、402 語となっている。なお、第四巻には『女真訳語』もあるという。哈斯額爾敦は前者を使って、現代蒙古語との比較を行い、末尾に同本の 8 枚の写真を掲載している。同じ年、王雄は「明朝的四夷館及其対訳字生的培養」[36] を発表し、乙種本の編集機関である四夷館の建制及び同館で実施されていた外国語教育について考察している。また、覚洛・徳林は満州語の研究状況を紹介する『国内外満語研究簡介』[37] を発表し、12 世紀初めに創られた女真文字は早くも 15 世紀半ばに滅び、僅かに『女真館雑字』と『女真館来文』それに一部の碑文に残っているのみと指摘している。

1988 年、『北京図書館古籍珎本叢刊』[38] の刊行が始まり、その第 6 冊(経部)に、『華夷訳語』(明抄本)、『増定華夷訳語』(明刊本。西天・韃靼両館のみ存する)、『高昌館課』(明抄本)、『高昌館訳書』(清初刊本)、『高昌館雑字』(清初同文堂抄本)、『回回館雑字』(清初同文堂抄本)、『回回館訳語』(清初刊本)、『訳語』(清袁氏貞節堂抄本)、『百訳館訳語』(清初同文堂抄本)、『西天館訳語』(清初刊本)、『西番館訳語』(清初刊本)、『暹羅館訳語』(清初抄本)、『八館館考』(清初同文堂抄本)が影印で収められている。内、『華夷訳語』『訳語』『八館館考』3 本を除き他はいずれも乙種本である。なお、『華夷訳語』は甲種本であり、『訳語』には丙種本の『韃靼訳語』『委兀児訳語』『河西訳語』『回回訳語』が含まれている。『八館館考』は、回回、西番、高昌、暹羅、緬甸、百訳、西天、八百の八館についての解題である。

この年、ウィグル語とウィグル語文献の研究状況について紹介する「我国回

---

[35] 『内蒙古師大学報(漢文哲学社会科学版)』1987 年第 1 期

[36] 『民族研究』1987 年第 2 期

[37] 『新疆社会科学』1987 年第 3 期

[38] 北京図書館古籍出版編輯組編、書目文献出版社発行。全 120 冊、『四部叢刊』未収の宋元金明清各代の古籍 473 種、8 千巻近くを収録。

鶻文及其文献研究概述」[39] を発表した張鉄山は、翌 1989 年の「我国収蔵刊布的回鶻文文献及其研究」[40] の中でも、北京図書館に蔵する 3 種類の『高昌館雑字』と「来文」『高昌館課』を取り上げている。

1989 年から 1990 年にかけて、回回館に関する劉迎勝の研究があった。劉氏はその「『回回館雑字』与『回回館訳語』研究」[41] で、本田実信(1963)が利用し得なかったとして北京図書館に蔵する乙種本の『回回館雑字』と『回回館訳語』を比較し、両書の訳語を 882 項目に整理した上、ペルシャ語順に並べ替えている。

1990 年には、西田龍雄・孫宏開共著による『白馬訳語の研究 —白馬語の構造と系統—』が松香堂より上梓された。研究対象の『白馬訳語』は丁種本の 9 種類ある『西番訳語』の一つで、通称「川四」に該当し、同書によって記録されている白馬語を未知の言語としている。その中で、孫氏は『龍威秘書』所収の「西番訳語」を丁種本『西番訳語』に含むべきで、「川十」としている。その上で、現地での調査結果を踏まえて、「川一」から「川十」までの言語系統について、川一、川二、川六、川七、川九、川十がチベット語、川五、川八はアルス語、川三がギャロン語、川四が白馬語であるとしている。また『白馬訳語』については、そのチベット文字をローマ字で転写し、これに最も近いとされる四川省平武県白馬郷で話されている現代白馬語の発音を添えている。

この年、賈敬顔・朱風共編の『蒙古訳語　女真訳語匯編』が天津古籍出版社より出版された。『蒙古訳語』と『女真訳語』の関連資料集で、『蒙古訳語』部分の内容は以下のようになっている。(1)乙種本について、石田幹之助校訂本『至元訳語』を底本に、北京図書館本『韃靼訳語』、建安椿書院刊本『事林広記』所収の『(蒙古)訳語』を使って校合。(2)丙種本について、石田幹之助校訂本『韃靼訳語』(静嘉堂本)を底本に、前記北京図書館の貞節堂本『訳語』所収『韃靼訳語』と台湾珪庭出版社本を使って校合、貞節堂本の状態が最も良く、台湾本が最も悪く、静嘉堂本が両者の中間だという。(3)『登壇畢究』『武備志』『盧龍塞略』『薊門防御考』4 書所収『(蒙古)訳語』の校訂。(4)漢語・蒙古語・満州語 3 語対訳の『新刻校正売買蒙古同文雑字』(清道光年間成立か)を掲載し、満州文字と蒙古文字をローマ字で転写している。一方、『女真訳語』

---

[39] 『喀什師範学院学報』1988 年第 2 期

[40] 『新疆社会科学』1989 年第 4 期

[41] 南京大学『元史及北方民族史研究集刊』第 12、13 期、1989、1990 年

の部分では、(1)静嘉堂文庫本『女直訳語』の校訂。(2)『女直訳語』に見られる蒙古語に共通する語彙の整理。(3)山本守(1951)「阿波国文庫本女真訳語」の転載、となっている。なお、付録には、「所謂丙種本 『華夷訳語』の『韃靼館訳語』」「女真語研究の新資料」など、石田幹之助の『華夷訳語』に関する6篇の論文の中国語訳が付されている。

同じ年、那順烏日図は「中世紀蒙古語 a-、bü-及其演変」[*42] を発表し、甲種本『華夷訳語』などを使って、中世蒙古語における特殊動詞 a-と bü-の意味的違いについて考察している。

1991年には、劉迎勝は「13～18世紀回回世俗文化綜考」[*43] と「明代中国官辦波斯語言学教学教材源流研究」[*44] という2篇の論文を発表している。前者は、明代のペルシャ語教育を官と民に分け、官の代表が四夷館の『回回館雑字』と会同館の『回回館訳語』であるとしている。後者は、明代ペルシャ語教育における官の代表である『回回館雑字』と『回回館訳語』の研究史について論評しつつ、国外の先行研究が利用し得なかった北京図書館所蔵の乙種本と丙種本について紹介し、前記貞節堂本『訳語』所収の丙種本『回回訳語』は乙種本『回回館雑字』よりも古く、元代の成立と推定している。

劉氏は1992年にも、回回館についての論文「『回回館雑字』与『回回館訳語』"天文門"至"時令門"校釈与研究」[*45] を発表し、北京図書館所蔵の乙種本『回回館訳語』を底本に、天文、地理、時令3門について本田実信(1963)所収の『回回館雑字続篇』と丙種本『回回館訳語』を使って校釈している。その中で、ペルシャ語の G は、乙種本では正確に写されているのに対し、丙種本では K に写されていると指摘している。また、これらの対訳集で記録されているペルシャ語は現在のイラン語よりも、むしろアフガニスタンのダリ語とタジキスタンのタジク語、即ちペルシャ語の中央アジア方言に近いとも述べている。なお、この年邱樹森主編の『中国回族大辞典』[*46] が出版され、『回回館訳語』と『回回館雑字』の項目も収められている。

この他、黄潤華は北京図書館少数民族語文献の所蔵状況について紹介する「北

[*42] 『民族語文』1990年第4期

[*43] 『中国回族研究』1991年第1輯

[*44] 『南京大学学報(哲学・人文・社会科学)』1991年第3期

[*45] 『中国回族研究』第2輯、寧夏人民出版社1992年

[*46] 江蘇古籍出版社、1992年

京図書館民族語文組及其蔵書簡介」[*47]を発表し、その中で、明抄本の『高昌館課』と『高昌館雑字』を取り上げている。なお、林慶勲は台湾で1992年と1993年に、丙種本の『日本館訳語』について「試論『日本館訳語』的韻母対音」[*48]と「試論『日本館訳語』的声母対音」[*49]を発表し、日本語の音訳に用いられる漢字に基づいて『日本館訳語』成立当時の中国語音について推定している。

1993年には、黄宗鑒は「『華夷訳語』的蒙古語詞首h」[*50]を発表し、原始アルタイ語のpは、甲種本『華夷訳語』ではh、16世紀末の『登壇畢究』所収の「(蒙古)訳語」ではf、19世紀前半の『蒙古訳語』ではθ、というふうに異なった頭子音をもつ漢字で写されていることは、p＞Φ＞h～f＞θという蒙古語の音韻変化の推定を裏付けるもので、甲種本『華夷訳語』の音訳に用いられた声母hはこの変化の第三段階を示すものと推論している。

1994年にも甲種本『華夷訳語』についての研究があり、包力高の「蒙古文的擦音h和零声母」[*51]がそれである。その中で包氏は、甲種本『華夷訳語』などに基づいて、ウィグル式蒙古文に見られる語頭（’）及び長母音音節の中の子音χ～g、b、m、yはいずれもhとゼロ子音の各種allophoneを示すものと推定している。

この年、女真館に関する金啓孮・烏拉熙春、和希格、穆鴻利、汪玉明4件の報告があった。金啓孮・烏拉熙春は女真語と満州語との関係を論ずる「女真語與満語関係浅議」[*52]で、女真語を金代、明代初期、明代中期の3つに時代区分し、明代初期と明代中期の代表的な資料として、乙種本『女真館雑字』と丙種本『女真訳語』を挙げている。和希格は「日本女真語文研究50年述評」[*53]で、日本における女真語研究、特に乙種本『女真館雑字』と丙種本『女真館訳語』についての石田幹之助(1931,1940)、渡辺薫太郎(1933)、外山軍治(1938)、斎藤武一(1941)、長田夏樹(1949)、山本守(1951)、山路広明(1952)、西田龍雄(1970)、田村実造(1976)などの研究を紹介している。また、穆鴻利は「女真文

[*47]『民族語文』1992年第5期

[*48]『高雄師大学報』1992年第3期

[*49]『高雄師大学報』1993年第4期

[*50]『民族語文』1993年第4期

[*51]『民族語文』1994年第3期

[*52]『民族語文』1994年第1期

[*53]『北方文物』1994年第3期

研究中不能回避的問題」[54]の中で、乙種本『女真訳語』や碑文に見られる女真文字は女真大字かそれとも女真小字かの問題について論じ、女真大字説を支持する見方を提示している。さらに、汪玉明は「『女真館雑字』研究新探」[55]で、前述の道爾吉(1983)の「『女真館雑字』的読音構擬表」の約20の女真語の推定音について新しい見方を提示している。

同じ年、上記の他丁種本『白馬訳語』についての張済川の研究があった。張氏はその「白馬話世蔵語(上)(下)」[56]の中で、白馬語の帰属問題を取り上げ、チベット語との音韻、語彙、文法の比較によって、白馬語は未知の新言語ではなくチベット語の一方言であるとの結論に至った。

なお、この年、筆者は丙種本『日本館訳語』について、「『日本館訳語』の「漢製和語」について」[57]を発表し、同書の訳語の中に中国人によって人為的に作られた日本語に実在しない訳語が存在している事実を明らかにした上、その成立過程について検討している。

1995年、胡振華は回回館についての研究を発表し、「珍貴的回族文献『回回館訳語』」[58]の中で、北京における『回回館訳語』の蔵書状態について紹介している。それによると、乙種本は、北京図書館に清初刊本の『回回館訳語』と清初抄本の『回回館雑字』が各1本存している。前者の収録語数は775項目で、後者は2語多く777項目となっており、いずれも語彙篇のみで「来文」がない。また、北京の雍和宮にも『回回館雑字』が1本蔵されているらしいという。丙種本については、貞節堂本『訳語』所収の『回回訳語』を取り上げ、阿波国文庫本『回回館訳語』と音訳漢字に違いが見られると指摘している。

同じ年、丁鋒の『琉漢対音與明代官話音研究』が中国社会科学出版社より刊行された。上巻：正文篇は第一章琉漢対音資料及其性質、第二章琉漢対音研究的原理和方法、第三章琉漢対音参照系考察：明代官話音研究、第四章声母的琉漢対音、第五章韻母的琉漢対音、下巻：資料篇という構成になっている。正文篇では、明代官話資料として、歴代琉球冊封使の『使琉球録』に見られる「夷語」「夷字」をはじめ、『音韻字海』の「夷語音釈」「夷字音釈」、『篇海類編』

---

[54]『北方文物』1994年第3期

[55]『民族語文』1994年第5期

[56]『民族語文』1994年2,3期

[57]『森野宗明教授退官記念論集言語・文学・国語教育』三省堂、1994年

[58]『中央民族大学学報』1995年第2期

の「外夷語音之殊」、『中山伝信録』、『琉球入学見聞録』の「土音」「字母」、『琉球訳』などと共に丙種本の『琉球館訳語』を取り上げている。その中で、『琉球館訳語』の成立年代について陳侃『使琉球録』(1535 年)より古いとの見方を示している。また、資料篇の資料一では、ロンドン本に基づいて解読を行っている。資料五では、ロンドン本を底本に阿波国本、稲葉本、台湾本の校異を行っている。

翌 1996 年にも『琉球館訳語』に関する丁氏の研究があり、「『琉球館訳語』解読文(1)」[*59] で天文門から花木門まで 137 項の訳語について解読している。同じ年、黄明光は「明代訳字教育述議」[*60] を発表し、四夷館設置の背景をはじめ、外国語教育の開始時期、訳字生及び教師のソース・定員・条件・待遇などについて考察している。その中で、公的な外国語教育の歴史は、四夷館設置以前に遡ることができると指摘している。この他、包力高は「蒙古文字母[G]的古代読音及其演変」[*61] を発表し、甲種本『華夷訳語』、乙種本『高昌館課』『高昌館雑字』などの資料を使って、現代蒙古語(書き言葉)の子音[G]の変遷について検討し、『高昌館課』『高昌館雑字』など 15 世紀以降のウィグル文字文献に現されたのは q と я であったのに対し、『蒙古秘史』と甲種本『華夷訳語』など13～16世紀の蒙古語文献によって現されたのは q と h であったとしている。また、哈斯額爾敦は「蒙古語歴史発展過程中的減音現象 —兼談語言簡化規律—」[*62] を発表し、甲種本『華夷訳語』などを資料に、蒙古語における母音脱落のメカニズムについて考察している。

この年、筆者は丙種本の『日本館訳語』について「『日本館訳語』の基礎音系 —疑母、微母とゼロ声母との関係を中心に—」[*63] と「ロンドン大学本『日本館訳語』の識語をめぐって」[*64] を発表している。前者は、『中原音韻』以降の中国北方方言で起きた音韻変化を踏まえることによって、未解明や誤読の訳語の多くは解明できることを明らかにし、音訳に用いられた漢字の音価推定には『日本館訳語』の成立年代により近い音韻資料に基づくべきと主張している。

[*59] 法政大学沖縄文化研究所『琉球の方言』第 20 号

[*60] 『民族研究』1996 年第 1 期

[*61] 『民族語文』1996 年第 2 期

[*62] 『中央民族大学学報』1996 年第 3 期

[*63] 『国語学』184 集、1996 年

[*64] 『筑波日本語研究』創刊号、1996 年

後者は、『大明会典』や『策彦和尚再渡集』など日中双方の文献から、現存諸本の内唯一ロンドン本に見られる「嘉靖二十八年十一月望通事序班胡涝　褚效良　楊宗仲校正」という識語の信憑性が極めて高いと論じている。

以上、1979 ～ 1996 年の約 20 年間を中心に、中国人が日本で行った一部の研究も含めて中国における『華夷訳語』の研究状況について紹介をしてきたが、1997 年以降のものについては、実見できなかったものが多いため、本稿では筆者が日本で発表した「『日本館訳語』の「エ」をめぐって」(1997)[65]、「ロンドン大学本『日本館訳語』に見る独自の用字法をめぐって」(1998)[66]、「『日本館訳語』と中国近世音 ―声類篇―」(1999)[67] の 3 件を取り上げるに止めたい。「『日本館訳語』の「エ」をめぐって」(1997)は、『日本館訳語』では日本語の「エ」が従来[je]を写したものと推定されていることに対し、音訳漢字の用法に対する再検討を経て、[-iɛ]をもつ音訳漢字はエ以外のエ列音節の音訳にも広く用いられていること、日本館訳語の基礎音系に[e]を写すべき[ɛ]が存在しなかったと考えられることを理由に、「エ」が[je]であったことの積極的な証拠資料とならないことを述べている。「ロンドン大学本『日本館訳語』に見る独自の用字法をめぐって」(1998)は、ロンドン本、静嘉堂本、阿波国本、稲葉本、台湾本、ソウル本の校異を行い、ロンドン本のみに見られる独自の用字法について分析し、その用法の多くは音訳をより正確にするためになされたものとしている。「『日本館訳語』と中国近世音 ―声類篇―」(1999)は、『日本館訳語』の成立年代により近い中国北方方言を反映する音韻資料に基づいて、全音訳漢字の声類について考察している。

なお、1979 年以前にも注目すべき研究があることを付け加えておきたい。以下に述べる陳荊和と李学智の研究がそれである。

1953 年に台湾で「安南譯語考釈(上・下)」[68] を発表した陳荊和は、1966 年から 1968 年にかけて、慶應大学に提出する学位論文「安南訳語の研究(一)～(六)」[69] を発表している。前者は、丙種本の『安南訳語』のハノイ本、静嘉堂

---

[65]『筑波日本語研究』第 2 号、1997 年

[66]『筑波日本語研究』第 3 号、1998 年

[67]『駿河台大学論叢』第 18 号、1999 年

[68]『国立台湾大学文史哲学報』第 5,6 期

[69]『史学』第 39 巻第 3、4 号、第 40 巻第 1 号、第 41 巻第 1、2、3 号

本、阿波国本、内藤本、近藤本の5本を校合している。後者は、上記5本の他新たにロンドン本と玄覧堂本を加えている。特に著者自ら発見した玄覧堂本に対する書誌学的考証によって『安南訳語』が15世紀末か16世紀初めのものであり、16世紀中葉までにはすでに校訂本が出現したと推定している。

また、李学智は1976年に台湾で「女真訳語証誤挙隅」[*70]を発表し、『女真訳語』の複合語の多くはアルタイ語の語順になっておらず、漢語的語順になっていると指摘し、このような杜撰な編集方法をとる四夷館の外国語教育の姿勢に疑問を向けていると同時に、こうした文献を資料として用いる際、鵜呑みは禁物で、細心な注意が必要と警鐘を鳴らしている。

追記：

丙種本『朝鮮館訳語』については韓国人研究者による研究成果が多い。筆者と安平鎬氏との共同調査で、主なものとして以下14件を確認している。

1. 辛兌鉉(1940)「『華夷訳語朝鮮館訳語』略攷」(『朝光』1940年7月号)
2. 〃 (1959)「『華夷訳語』写音漢字考」(『高鳳』第3巻第2号)
3. 李基文(1957)「『朝鮮館訳語』の編纂年代」(『ソウル大文理大学報』第5巻第1号)
4. 〃 (1968)「『朝鮮館訳語』の総合的検討」(『ソウル大論文集』(人文・社会科学)第14号)
5. 金敏洙(1957)「『朝鮮館訳語』攷」(『一石李熙昇先生頌寿紀念論叢』所収)
6. 金明坤(1966)「『朝鮮館訳語』の「餒必」について」(『国語国文学』第33号)
7. 文璇奎(1962)「『鶏林類事』と『朝鮮館訳語』における"*l*"表記法についての考察」(『国語国文学』第22号)
8. 〃 (1962a)「朝鮮館訳語の中国音韻体系小考」(『歴史学報』第17･18号)
9. 〃 (1962b)「『朝鮮館訳語』攷論」(『亜細亜研究』第5巻第2号)
10. 〃 (1972)『朝鮮館訳語研究』景仁文化社
11. 金喆憲(1963)「『朝鮮館訳語』研究」(『国語国文学』第26号)
12. 方鍾鉉(1963)「『朝鮮館訳語』<その解読を巡って>」(『一蓑国語学論集』所収)
13. 姜信沆(1995)『朝鮮館訳語研究』成均館大学校出版部
14. 権仁瀚(1998)『朝鮮館訳語の音韻論的研究』(国語学叢書29)太学社

[*70]『辺政年報』1976年第7期

《型世言》における北方方言と創作

——明末白話の“咱”“这咱”“己(=给)”“怪（副詞)”など——

伊原大策

1、

《型世言》各回の冒頭には銭塘陸人龍の署名があり、これにより陳1992は“全書爲陸人龍的作品，由是可確定”と述べる[1]。氏は署名に付けられている“编”“辑”“演”などはいずれも“作”の意味だとするが、全編が陸人龍によって同じ創作姿勢に基づいて書かれたことを確かめるすべはない。

《型世言》の各故事の由来については、その原型になった材料が指摘されているものの[2]、陸人龍がそれにどのように筆を加えることで《型世言》をまとめあげたかは知られるところがない。

陸人龍という人物に関しては、明末の著名な出版者である陸雲龍の弟であることが確認できるのみで、生卒年や経歴については不明のままである。しかしその貫籍及び兄の出版活動に拠って見れば、揚子江下流域の方言地区と深い関係を持ったであろうと推測することは合理的である。

ところが《型世言》を読むと、山東系作品を特徴づける語彙・語法が特定の箇所に集中して現れることに気づく。おそらくは下江官話の環境下で育ったであろう陸人龍が、なぜ特定の箇所でいきなり山東訛りの口ぶりに変わるのであろうか。

小論はこの疑問点より出発し、《型世言》における北方方言の偏在が有意の偏りであることを示しつつ、こうした現象が生じた背景について、作者の創作意識と方言という視点から探ることを試みる。

2、

《型世言》第12回には、公務のために郷里を離れる夫に向かって、北京の路地裏に住む新妻が次のように述べる場面がある。

1,“哥，你去了叫咱独自的怎生过？”（《型世言》12）（「おまえさん、おまえさんが行ってしまったら私は一人でどのように暮らせばいいの」）

この文に対し、石隠なる人物が評を付けて、次のように読者に注意を促す。

2,忽作北音，入情入趣，看官勿得草草。（《型世言》12）（いきなり北方の口ぶりになる。これは大いに情趣にかなうものであり、読者の皆さん方はこの部分をなおざりに読まないように）

ここで指摘されている“北音”とは“咱”を指すものと考えられる。試みに《型世言》全体における人称代名詞としての“咱”の用法を見ると、この語が大量に（10例以上）使用されるのは第5、9、22回に限られる。そこで、これらの回の内容をあらためて確認するといずれも北方の話柄であり、第5回は河北省宛平県が、第9回は山東省青州府が、第22回は河南省滑県が舞台になっている。

さらに、第14回では浙江省銭塘出身の女性が河北省灤州に流浪する場面があり、北方と南方との生活習慣の異なることが強調して描かれる。この場面で“咱”を口にするのはすべて灤州人であり、それ以外の人物は決して“咱”を発しようとしない。

“咱”を特異な語として扱う態度は、《型世言》にのみ認められるものではない。実際の北京の俚語を記した万暦時代の記録には、次のような記述がある。

3,称我曰咱。（《燕山叢録》〈長安里語〉〈通用〉）（自分のことを「咱」と言う）

江蘇省常熟県の徐昌祚によって書かれたこの書は、“日耳于市廛间语，得其可笑及与南音异者辄录之”（《燕山叢録》〈長安里語〉冒頭）（日々、街の言葉を聞いて面白い例や南方音と異なる例があればそれを書き留めた）という過程で成ったものであるから、徐昌祚にとって、“咱”が十分に注目に値する言葉であったことが知られる。つまり、明代後期下江官話地域の知識人に対して、“咱”が北方特有のものであるという印象を生み出すだけの客観的言語事実が存在したのである。

以上の諸点から、この作品の作者は“咱”をことさら採用することにより、北方人の口ぶりを意識的に描き分けようとしているのだと考えられる。

《型世言》には評者として多くの人物が現われるが、陳1992はそれらの大部分は陸雲龍の手になるものであるとする[3]。石隠という人物も陸雲龍の化身であるとすれば、例文2の評語は、いよいよ重い意味を持つ。

したがって、石隠なる評者は例文1の読み方を説いて次のように主張してい

ると理解できる。すなわち、北方に住む下級官吏の若妻が自らを“咱”と呼ぶ点に、この文の妙味が隠されているのであり、読者はこのお国訛りを通して、不安に揺れる若妻の心細さに共感すべきである。

おそらく“咱”は、現代日本の小説や芝居における「ズーズー弁」と同様に、北方の下層階級を連想させるものとしての印象を、読者に与えることが可能であったのであろう。

《型世言》の作者は、人称代名詞“咱”が持つこうした特性に注目し、これを効果的に使用することで、文学作品としての描写性を高めるという技巧を積極的に用いたと考えられる。また石隠という評者が取り立ててこの技巧に注意を促すことを読者に求める評語から、こうした方言的差違を受け入れるだけの素地が明末下江官話作品の読者層に既に成立していたこと、及び方言によって人物を描き分ける手法は、当時なおまだ十分に普遍的なものではなく、注目に値するものであったということの二点を、読み取ることができる。

3、

ところで“咱”は人称代名詞としての機能の他に、時間を示す指示詞の一部を構成することもある。例えば“这咱”（今）、“那咱”（あの時）、“多咱”（いつ）などである。これらはそれぞれ“这早晩”“那早晩”“多早晩”の異表記であるが、“这早晩”“那早晩”“多早晩”が白話作品の標準的表記の地位を確保しているのに対し、“这咱”“那咱”“多咱”は、代表的な白話作品を対象にする限りでは、まとまった数量が出現するのは《金瓶梅》と《醒世姻縁伝》など北方系作品に限られる[4]。したがってこれらの語は、明清白話において、北方地域に偏る方言であったと考えられる。

明清白話小説におけるこれらの語の分布を見ると以下のようになる。

明清白話小説における“这咱”“那咱”“多咱”の分布

	这咱，那咱，多咱
《金瓶梅》	94例
《初刻拍案驚奇》	0
《醒世姻縁伝》	64
《儒林外史》	1

このように、非北方系作品において“～咱”型時間指示詞は好まれない。ここで調査が及んだ対象に基づく限りでは、例外は《儒林外史》であり、1例の

“那咱”を持つ。ところがその用法を観察すると、興味深い事実に気づく。

4,“那咱你在这里上学时还小哩，头上扎着抓角儿。”（《儒林外史》7）（「あの頃、あなたがここで勉強なさっていた時はまだ小さくて、髪は髷を結っておいででした」）

この場面の舞台は山東省汶上県であり、この言葉を発したのはその土地に住む和尚である。清代下江官話系作品である《儒林外史》において、“～咱”型時間指示詞が使用されるのは、この場面の1例のみである。したがってこれは、作者が意図的にこの語法を採用し、山東の田舎和尚の語り口をそのまま再現しようとした結果であるに違いない。そのため、清代の読者層においては、“这咱”“那咱”は典型的な山東方言であるという共通認識が成立していたと見てよいことになる。

おそらくこうした認識の発生には、《金瓶梅》（山東省清河県が主な舞台）や《醒世姻縁伝》（主人公の晁家は山東省武城県にある）などの先行の山東系作品が少なからぬ効果を発揮したことであろう。上の表に示したように、これらの作品には多量の“～咱”型時間指示詞が使用されているからである。これらの作品にこれほど多くの例が見い出されるからには、現在に残らない北方系（または山東系）白話作品にも“这咱”“那咱”が多用されたであろうことは想像に難くない。当時の読者はそうした環境の下で、“这咱”“那咱”が北方に偏る方言であるという認識を、自然に身につけることが可能であった。

しかし実はこの語に関するこうした認識が生じたのは、清代に至ってのことではないと考えられる。《型世言》の作者は明末において早くもこの語の特殊性を利用し、第9回で次のような描写を行なう。

5,“这咱不在里边的。”（《型世言》9）（飢饉の救済金を受け取るにあたって、先ず極貧のグループが呼ばれた時、男が思うには「今はこのグループの中に〔自分は〕入っていないだろう」）

これは山東省青州府の農民が、救済金受け取りの場面で思わず呟いた言葉である。“～咱”型時間指示詞は、《型世言》全編においてこの1例しか使用されない。この事実、及び“这咱”が山東系作品に頻出するのは明代中期（《金瓶梅》）に先例があるという事実から、次の二点を知ることができる。すなわち、①“～咱”型時間指示詞が北方地方（または山東地方）の典型的方言であるとする認識が、明末の一般読者に受け入れ可能な状態になっていたこと。②

《型世言》の作者は、読者のそうした共通認識を承知の上で、登場人物にこの方言を語らせるという技巧を意識的に採用したこと。

人称代名詞“咱”にしろ、時間指示詞“这咱”にしろ、《型世言》の作者は方言の使い分けに熱心であり、石隠なる評者は作者の文章のこうした特徴について、読者に注意を促したのである。

4、

《型世言》に認められる北方方言は、“咱”や“这咱”だけではない。その他にもいくつか指摘することができる。例えば副詞として機能する“怪”はその例の一つである。

近世漢語において“怪”は多用な機能を持つ語である。動詞や形容詞としての用法の他に、程度の高いことを示す副詞としても使用される（「怪＋Adj（形容詞）」及び「怪＋V（動詞）」）。しかしこの副詞用法を歴史的に見た場合、さほど古い時代にまで遡ることのできないことが既に知られており[5]、その地域性についても、北方系作品に目立つ事実が指摘されている[6]。そこで、代表的な明清白話小説を対象にして、程度を示す副詞“怪”の用例数を調査すると以下のようになる[7]。

明清白話小説における副詞“怪”の分布

	“怪”＋形容詞	“怪＋”動詞
《金瓶梅》	4例	10例
《初刻拍案驚奇》	0	0
《醒世姻縁伝》	5	36
《儒林外史》	0	0

このように、副詞“怪”は北方系作品に偏在する。この語は南北方言の混淆が顕著になるまでは、北方の口語としての性格を明瞭に持っていたと考えられる。

ところが浙江銭塘出身の陸人龍の手になるはずの《型世言》には、複数の副詞“怪”が使用される。例えば、

6,“甚黄黄，这等怪丑的。”（《型世言》12）（〔性具を指して〕「すごいね、こんなにひどい格好しているなんて」）

これは、北京の路地裏に住む新妻が、夫との長期の別離に耐えながら街を見

物している時、偶然にも性具が売られているのを目にして思わず発する言葉である。独り寝の若妻の心境を暗示するものとしての道具立てが、作者によってここで意識的に行なわれているのであろう。《型世言》の作者はこの点でも、用意周到に物語を構成しているものと思われる。

作者は作品における重要な場面で伏線を準備しながら、言語表現においても工夫を怠らない。すなわち、北京の女性に北方方言の“怪”をここで用いさせることで、さらに作品としての描写性を高めようとしているのである。

こうした例は第5回にも認められる。

7,“汗邪哩，这等怪叫唤。”（《型世言》5）（「熱に浮かされているのね、こんなに大声でわめくなんて」）

これは河北省宛平県の女性が浮気の現場を押さえられそうになった際、言い訳がましく夫に浴びせる言葉である。副詞“怪”を使用して夫をなじる口ぶりは、典型的な北方の口語として、明末白話小説の読者層に受け入れられるものであったろう。

5、

こうして見ると、《型世言》の作者とされる陸人龍は、少なくとも“咱”“这咱”“怪”については、その地域的偏在を十分に見抜いていたことになる。北方方言に関する陸人龍の豊富な知識もしくは語感の鋭敏さは、相当に高度なものであったと言えよう。とすればこの作者は、他にも北方方言を駆使することで、作品の描写性を高めようとする技巧を凝らしているのではなかろうか。

そこで他の語にも目を配ると、《金瓶梅》と共通性を持ち、南方系作品とは異質な語をさらに見い出すことができる。例えば“汗邪”がそれである。再び例文7と同じ部分を引用すると、

8,“汗邪哩，这等怪叫唤。”（《型世言》5）（「熱に浮かされているのね、こんなに大声でわめくなんて」）

“汗邪”という語は、本来、病人が発熱した際にうわごとを言うことを指すものであるが、引伸義として大声を上げたり、戯言を話したりする場合にも用いられる。この語は《金瓶梅》では高い頻度で使用されるものである（例えば第14,19,21,23,32回など数多い）にもかかわらず、他の白話小説から見い出すことは困難である。わずかに《醒世姻縁伝》（第81,87回）[8]や《続金瓶梅》

（第32,36回）及び《醉醒石》（第15回）[9]における用例に気づくばかりである。

周知のように、《醒世姻縁伝》は山東方言まじりの北方語による作品であることが知られており、《続金瓶梅》の作者丁耀亢は山東諸城の出身である。また《醉醒石》の作者は不明のままだが、作品には「東魯古狂生」の署名がある。つまり、代表的な明清白話小説を調査の対象にする限り、“汗邪”は山東地方（または北方）という方言性を明瞭に示すのである。したがって宛平県の女性が話すこの短い会話には、“汗邪”と“怪”という二つの北方方言が濃密に凝縮されていると言える。

《型世言》の作者は、浮気を発見されそうになったこの女性の慌てぶりを、北方の口語を活用することによって生き生きと描写しようと意図しているのである。北方方言に関する作者のこれ程の熟知ぶりに、驚きを越えたものを感じるのは、私一人であろうか。

6、

同様に、

9,“扯鸟淡，教咱只道是贼，吓得一跳。怪攮刀子的！”（《型世言》5）
（「つべこべお言いだこと。おかげで私は〔おまえさんのことを〕泥棒だと思って飛び上がって驚いたじゃないか。このろくでなし！」）

この例は、例文7の女性が再び浮気を知られそうになった際、夫に向けて発した言葉である。ここでは“怪攮刀子”という罵語が用いられているが、これも北方に偏る方言であると考えられる。しかもこの語は二重の意味で方言性を持っている。すなわち、一つは罵語における“怪＋N”句型であり、もう一つは“攮刀子”という語そのものである。

副詞の“怪”については既に述べたが、罵語において“怪”が後置の名詞を修飾する形容詞としての用法も、《金瓶梅》に極めて多く認められるものである（第10回“怪行货”、第11回“怪小淫妇儿”、第13回“怪小油嘴、第20回“怪臭肉”、第32回“怪狗才东西”など多数）。ところがこうした句型を南方系作品から見い出すことは容易でない。そのためこの句型は、北方方言と密接な関係を持つものと考えられる。

“攮刀子”自体について見ても、これは《金瓶梅》に特徴的に認められる語であり、《燕山叢録》にも“骂畜类曰攮刀的”（《燕山叢録》〈長安里語〉

〈罵言〉）とある。このことから、この語も北方系の方言であったと推測できる。

したがって例文9には、わずか十数字の表現に、“咱”“怪＋N”“攮刀子”という三要素が北方方言としてみごとに組み込まれていることになる。方言を駆使することで文の描写性を高めようとするこれほど明確な意志の痕跡を、同時代の白話小説から見い出すことは難しい。そのため、作者はよほど強い創作意識に支えられて《型世言》をまとめあげたか、推測困難な別の理由によりこうした現象が生じたかのいずれかであると考えられる。

7、

興味深いことに、北方を特徴づけるこれらの方言が、実は地の文にまで採用されている。例えば、

10,一日晚了，正送耿埴出门，不曾开门，只听得董文怪唱来了。（《型世言》5）（ある日遅くなってしまったので〔間男の〕耿埴を送り出そうとしたちょうどその時、まだ戸を開けないうちに〔夫の〕董文が大声で歌を歌いながら帰ってきた）

11,那掌鞭的豁上一声响鞭，那驴子扑剌剌怪跑，却似风送云一般，颠得一个王奶奶几乎坠下驴来。（《型世言》12）（馬子が鞭をさっと振ると、驢馬はヒューと風を切ってとても早く走り、それはまるで風が雲を吹き飛ばすかのようであり、揺れたおかげで王奥様はあやうく驢馬から落ちるところだった）

一般に、方言は会話文で使用されてこそ、表現効果が発揮される。お国訛りは地域特有の話し言葉である以上、地の文で使用されても意味はない。したがって、“北音”（評者石隠の言葉）を模写することで作品世界の描写性を高めようとする意図がここに隠されているなら、副詞の“怪”は会話文で使用されるべきであり、地の文に用いられるべきでない。ところがこれらの例では、“怪唱”“怪跑”が地の文にまで用いられている。現代人の合理性に基づけば、この背後には作者によって選択された表現技巧以外の要素が潜んでいると考えなくてはならない。

8、

北方特有の語が会話文と地の文との両方で使用される例は、他にも存在する。すなわち“己”がそれである。

12,“有什钱！崔科囚攮的得了咱钱，又不己咱造册。咱与他角了口，他要寻什差使摆布咱哩！”（《型世言》9）（飢饉の救済金を受け取ることのできなかった男が妻に対して「金なんぞあるものか。催科のゲス野郎ときたら、俺の〔賄賂の〕金を受け取っておきながら、俺を救済人名簿に載せてくれなかったんだ。だから俺はあいつと言い争ったところ、あいつは役人なんかを使って俺を痛い目に遭わせるって言うんだぜ」）

これは例文5と同じく、山東省青州府を舞台にした故事の一場面であり、怒りのあまり我を忘れた山東農民の様子を描いたものである。

ここには標準的な白話小説としては珍しい表記が採用されており、一見読みづらい。しかしこれが山東地方を描いたものであることに思い至ると容易に理解できる。すなわち“不己咱造册”の“己”は“给”の機能を持った“己”であることに気づく。

こうした“己”の用法については太田1958が夙に注目しているが[10]、この語の由来を系統的に追跡し、“给”の歴史の解明を試みたのは志村1984である。氏に拠ると、山東地方に残った“gěi”相当語が先ず“己”の表記を与えられて山東系作品《醒世姻縁伝》で使用され、その後清代中期に至って北方から“给”の使用が始まったとされる[11]。

したがって、氏の見解に基づけば、“给”の機能を有する“己”を使用するのは明末清初の山東地方または北方の特徴と考えてよいことになる。事実、こうした“己”が南方系作品で使用される例はこれまで確認されていない。上で指摘した例文12の例は、志村1984が指摘する“己”とほぼ同時代かもしくはそれよりわずかに早く、“己”の歴史を考察する上で新資料としての価値をも持つ。

既に見たように、《型世言》の作者は作品を書くにあたって方言の使い分けに熱心であり、登場人物に方言を語らせることで描写性を高めようとする。そのため、例文12の“己”は、作者によって表現技巧として採用されたものであると推測できそうではある。

こうした“己”の用法は他にも存在する。例えば、

13,“罢，只得随着你。只是海南有好珠子，须得顶大的，寻百十夥〔＝颗〕稍〔＝捎〕来己咱。”（《型世言》12）（「いいわ、あなたの言うとおりにして〔あなたを旅に行かせて〕あげましょう。だけど海南島には美しい真珠があ

りますから、うんと大きいのを百個ばかり私に持ってきてちょうだいね」）

これは、南方へ旅立つ夫に対して、北京に住む若妻が述べた言葉である（例文1の後にこの言葉が続く）。“北音”をおろそかにせずに文章を味わうべきであるとする石隠の評語を当てはめるなら、ここにも北方のお国訛りが巧みに配置されているということになる。ところが、“给”を示す“己”の用例は会話文のみにとどまらない。地の文においても使用されるのである。

14,余姥姥叫勤儿己了他钱，两个在灯市上闲玩。（《型世言》12）（余奥さんが下男の勤児に命じて馬子に代金を与え、二人の婦人は灯篭見物を楽しんだ）

この例では、地の文において“己”が用いられている。これは“怪唱”（例文10）や“怪跑”（例文11）が地の文で用いられているのと同様に、不可解な現象と言わなければならない。

そもそも、“北音”を取り入れることにより描写性を高めようとする技巧が有効に機能するためには、採用されている語彙・語法に関して北方訛りであるとする共通の認識が、作者と読者との間に広く存在していることが前提となる。その点で、“咱”“这咱”などはその条件を満たしている。

ところが“己”については、明代末期にこの表記の存在とその方言性が普遍的に知られていたとは考えにくい。少なくとも現在に残る明末白話小説に頼る限り、“给”の機能を担う“己”を探し出すことは極めて困難である。また、清代における“己”の用法を見ても、《醒世姻縁伝》の石印本はしばしば“己”を“送”“与”“要”に改める[12]。これは“己”の表記が清代以降に至ってもなお一般的でなかったことを示している。“己”も“这咱”も共に山東方言（または北方方言）を反映するものではあるが、前者は後者と異なり、先例が極めて乏しいのである。これでは作者が意図する表現効果を期待できるはずがない。

したがって、陸人龍が創作を行なう際、単に作家としての選択的意図によって“己”を採用して方言を記述したとする推測は、十分な説得性を持ち得ない。

9、

こうして見ると、《型世言》には多くの北方方言が現われるものの、当時の南方の読者にとって北方方言であると広く認識されたであろうと推測できるものは、“咱”“这咱”“怪”などであり、“汗邪”や“攮刀子”は（現在に残

る白話小説に基づく限りでは）《金瓶梅》の読書経験のある文人以外にとっては理解しがたいものであった。小論注8及び注9で示したように、テキストによっては“汗邪”がしばしば“污邪”と書き誤られるのも、この語が明清白話小説の出版関係者に広く理解される語ではなかったことを示している。ましてや、“给”の機能を持つ“己”が、北方を連想させる語として選択されるべき表現技巧であったとは考えにくい。

上に指摘した語の分布をここでまとめると以下のようになる。

《型世言》における 人称代名詞“咱”の分布

	人称代名詞“咱”
使用される舞台となる地域	山東、河北、河南などを舞台にした故事での会話文における選択的使用が目立つ

《型世言》における“这咱”“己”“怪”“汗邪”“攮刀子”の分布

	第5回		第9回		第12回	
	会話文	地の文	会話文	地の文	会話文	地の文
这咱	0例	0例	1例	0例	0例	0例
己(=给)	0	0	1	0	1	1
怪(副詞)	1	2	0	0	1	1
汗邪	1	0	0	0	0	0
攮刀子	1	0	0	0	0	0

このように、北方系作品で特徴的に用いられる語に注目して《型世言》の言語を調査すると、これらの語が《型世言》第5、9、12回に集中していることを知る。この事実は、これら三つの故事において、作者がより積極的に北方方言を採用したことを示すが、なぜそれがこの三故事に限られるのかについて疑問が残る。さらに、“怪”や“己”が、第5回と12回の地の文においてまで使用されていること、及び当時おそらく一般的な表記でなかったであろう“己”（＝给）が、第9回と12回において採用されている点にも、不可解さを覚えないわけにはいかない。これをどのように理解すべきであろうか。

これらの表に、《型世言》の作者とされる陸人龍が、北方方言の記述を表現上の技巧として意識的に作品に採用した、という以上のことを語らせることは難しい。しかし“己”や“怪”が地の文にまで使用されるという事実に、現代人の合理主義を適用すれば、これらの故事には、北方方言を多量に含む藍本が

かつて存在し、陸人龍は編纂・改作の過程で北方方言を残留させた、とする可能性を想定することができないわけではない。

１０、

小論は《型世言》に認められる北方方言に注目し、明末作家及び読者層における方言に対する理解の姿について分析を試みた。その結果、以下のことが知られた。

①明末の下江官話系白話小説の読者層には、特定の語彙・語法が地域的偏在を持つものであるとする共通認識を受け入れるだけの状況が、広く成立していた。例えば“咱”“这咱”が北方を暗示するものであるという観念が、既に存在していた。その他、副詞用法の“怪”もそれに準じる。

②《型世言》の作者は北方方言について詳しい知識を持っており、それを技巧として作品に導入することで、登場人物に関する描写力を高めることを明確に意図していた。

③作者のこうした手法は、明末白話小説において、卓越した手法として評者に認定されるものであった。

あと一点を強いて付け加えるとすれば、

④作者が《型世言》をまとめあげる際、少なくとも一部の故事では、北方方言を反映した作品を藍本として使用した疑いがある。

注：

１）陳1992、p6。

２）覃1993や関1996。

３）陳1992、p40。

４）拙論1997、p2で既に指摘した。以下の表は拙論をもとにさらに補ったものである。なお、この表で示す“这咱”“那咱”“多咱”には、それぞれ“这昝”“那昝“多昝”などの異表記を含む。

５）太田1958、p270。

６）香坂1983、p38。

７）副詞“怪”は程度の高さを示すが、この用法は「怪しい・尋常でない」の意を示す形容詞から派生したと考えられるだけに、必ずしも「とても・ひどく」

の意味を単純に示すわけではない。例えば、“惹的他恁怪哭”（《金瓶梅》76）はその直前に“大哭不止”という表現があるから、この“怪”は「ひどく・大いに」という義を持つに違いない。しかし一方、同回に“只是有些怪疼”（《金瓶梅》76）という用法があり、ここでは「（少しばかり）変な具合に」という意味が表わされているに過ぎないと考えられる。本表の計数にあたっては、後者の例は算入しなかったが、本文理解の仕方によっては異なった数値が得られる。なお、後に引用する例文11の“怪跑”について、この語を修飾する“扑刺刺”は風が吹く様子を示す擬声語として用いられ（《西遊記》第37回）、また馬を急いで走らせる際の描写にも選ばれる（《水滸伝》第34回）。そのため、この“怪跑”は「〔風を切って〕極めて早く走る」の意味であり、「変な具合に走る」の意味ではあり得ない。

８）《醒世姻縁伝》の例のうち第81回の“汗邪”について、同徳堂本（文学古籍刊行社影印）は“污邪了胡说的什么”に作るが、“胡说”と共に用いられているから、この“污邪”は“汗邪”が正しいと見る。なおこの他、第49回には“汗鏊”の表記でも使用される。

９）中国芸術研究院所蔵本（古本小説集成影印）に拠った。このテキストは第15回が第5回の位置にはめ込まれている。なお誦芬室重刊本（筑波大学蔵中国古典戯曲小説資料コレクション）は“汗邪”を“污邪”に作る。

１０）太田1958、p237及びp256。

１１）志村1984、pp352-373。

１２）志村1984、p372。

参考文献

伊原大策1997　「明・清北方語の系譜」　『地域研究』15

太田辰夫1958　『中国語歴史文法』　江南書院

関尚智1996　『《型世言》本事考述』『大陸雑誌』93-5

香坂順一1983　『白話語彙の研究』　光生館

志村良治1984　『「与」「饋」「給」』『中国中世語法史研究』所収　三冬社

覃君1993　『《型世言》故事源流』　《型世言》所収付録　中華書局

陳慶浩1992　「《型世言》導言」『型世言』所収　中央研究院中国文哲研究所

韓国語接辞使役の構造*

鷲尾龍一

1. はじめに

仮説や分析が穏当なものであり，直観的にも妥当であると思われる場合，それらを支持する経験的な議論が提出されても驚くにはあたらないので，敢えて反論を試みる必要も感じない．多くの研究者に同じような意識が働けば，問題の仮説や分析は経験的な裏づけを得たものとして認知され，別の仮説や分析を組み立てる際の基礎として機能しはじめることになるが，そのようにして組み立てられた仮説や分析にはかなり危ういものもあり，その妥当性の根拠を求めていくと，結局は当初の穏当な仮説に辿り着くことがある．そこでこの仮説の根拠とされていた経験的な議論を改めて検討してみると，実はそれ自体がかなり危うい事実認定に依拠していたことが明らかになることもある．だからと言って，直ちに当初の仮説を放棄する必要はないのだが，現象の本質を我々が見誤っている可能性も否定できない以上，研究者の常識的な期待Ｅが言語事実Ｆと合致しないという事態は，Ｅ，Ｆそれぞれについてさらに詳しく検討してみるよい機会となる．

本稿では，韓国語の使役動詞に関して提案されている一つの仮説を取り上げ，その経験的な根拠とされている言語事実を日本語との対比などを通して検討し，直観的には妥当であると思われるこの仮説が，実はそれほど強力な基盤に立脚しているわけではないことを明らかにする．論旨の性質上，以下の記述はＦに力点を置いたものとなる．

---

* 本稿の内容に関わる諸問題について，高麗大学の이기용教授，최재웅教授，강명윤教授，이한섭教授，ソウル大学の이정민教授，홍재성教授など，多くの先生方と有益な意見交換をする機会を得た．また，金榮敏，金熹成，金珉秀，金英淑，吳珠熙，安平鎬の諸氏をはじめ，筑波大学の友人たちからは日常的に貴重な情報を提供して戴いている．金榮敏氏には草稿に目を通して戴いた．ここ記して感謝の意を表わしたい．

本稿の基になった基礎的研究は，『東西言語文化の類型論』以外に次に掲げる研究プロジェクトからの助成も受けている．(1)『先端的言語理論の構築とその多角的検証』(神田外語大学大学院ＣＯＥ，研究リーダー：井上和子)，(2)『言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究』(国立国語研究所特別推進研究，研究代表：井上優)，(3)『東アジア諸語におけるカテゴリー化と文法化に関する対照研究』(文部省科学研究費基盤研究(Ｂ)，東京大学，研究代表：生越直樹)．

2. 韓国語における接辞使役の問題

日本語と同様に，韓国語にも《動詞語幹＋接尾辞》という形式の使役動詞が存在するが，両者はその生産性において根本的に異なる．日本語の場合，いわゆる使役の助動詞「せる・させる」は動詞語幹に関して非選択的であり，一定の意味的条件を満たす動詞であれば，およそどのような動詞とも結合する.[1] これに対して，韓国語の使役接尾辞は結合できる動詞語幹が固定されており，その数もさほど多くはないので，使役接尾辞を伴うすべての複合動詞を列挙することも可能である.[2] 事実，これは韓国語の辞書が普通に採用している方式であり，生産的な使役形を挙げはじめたらきりがない日本語と対照的である．

韓国語の辞書は，例えば“웃기다”(wus-ki-ta) のような見出し語を挙げ，これが“웃다”（笑う）という動詞の使役形である旨の説明に続けて，その意味として“웃게 하다”(wus-key ha-ta) というパラフレーズを挙げるのが普通である.[3] 後者も使役表現であるから，韓国語には，似たような意味を表わす二種類の使役形式が存在することになる．例文の形で挙げるなら，例えば次のようである．

(1) a. 형이 동생을 웃겼다.
　　b. 형이 동생을 웃게 하였다.

前後の文脈などにもよるが，これらはいずれも「兄が弟を笑わせた」と訳すことのできる表現である．(1a)の動詞部分は，自動詞語幹“wus-”(笑う)に使役の形態素“-ki-”が付いた複合動詞であり，少なくとも形式面では，日本語の「笑わせた」に似ている．

韓国語における生産的な使役形式は(1b)に代表される形である．これは，動詞語幹が“-key”という形態素を伴い，それに「する」という意味の動詞“ha-”が続いた形であり，分析的に直訳すれば「笑うようにする」ほどの表現になる．この「～ように」の部分が，一応“-key”に対応している．日本語の感覚では，「兄が弟を笑うようにした」という表現は過度に迂言的であるが，韓国語ではそれほどでもなく，特に，動詞語幹が接尾辞による使役化を許さない場合には，これが無標の使役表現となるため，日本語では「～させる」と訳

---

1. 意味条件については井上(1976)などを参照．
2. 一般に「이，히，리，기，우，구，추」(-i, -hi, -li, -ki, -wu, -kwu, -chwu) の７つが使役接尾辞として挙げられる．以下，個別の事例を論じる場合以外は「히」を代表形として用いる．
3. 例えば手元にある『메이트 국어사전』（두산동아，1996）という小型の辞書でもそのような記載になっている．

すのが適切である場合も多い．したがって，形態素「させ」を用いた日本語の使役文は，生産性の面では(1b)の形式と類似していることになり，韓国語における二つの形式のいずれか一方が日本語の使役構文に対応し，他方は韓国語に固有の構文である，という単純な対応関係は成立しない．

(1a)のような《用言の語幹＋接尾辞》という構成の使役動詞（あるいはその動詞を含む使役文全体）は，短形使役，語彙的使役，形態的使役，接辞使役などと呼ばれ，《用言の語幹＋key》に動詞“ha-”が続き，全体として使役表現が構成される(1b)のような構文は，長形使役，迂言的使役，統語的使役，分析的使役などと呼ばれる．

使役接尾辞の付加は生産性を欠くため，韓国語において語彙的使役動詞（短形使役）の数が増えることはない．使役形式の歴史的な変化を調査したクォン・ジェイル（권재일，1994）などの研究によれば，変化の方向は形態的な派生方法から統語的な方法へと向っているので，語彙的使役動詞の数は，長期的に見れば減少傾向にある．[4]

以上のようなことから，韓国語話者のレキシコンにおいては《語幹＋使役接尾辞》全体が，いわば固定された単位として，通常の他動詞と同等の資格で存在していると考えるのは自然である．これに対して日本語の《語幹＋させる》という形式は，何らかの規則的なプロセスによって導かれるものと考えられるため，仮に「させ」を独立の動詞と分析するなら，韓国語と日本語の《接辞使役》に関して次のような立場を採ることも可能となる．

(2)　日本語の使役構文は，一つの文の下にもう一つの文が埋め込まれた複合的な構造になっているのに対して，朝鮮語の使役構文は，一つの文しか存在しない．　——塚本(1997，194)

これによれば，例えば「先生が学生に本を読ませる」という意味の使役文は，日本語と韓国語ではそれぞれ次のように分析されることになる．

(3) a.　$[_{S_1}$ 先生(が) $[_{S_2}$ $[_{VP}$ 学生(が) 本(を) $[_V$ 読む]] させ(る)]]]
　　b.　$[_{S_1}$ 선생님(이) $[_{VP}$ 학생(에게)　책(을) $[_V$ 읽 - 히(다)]]]

(3)は塚本(1997)が樹形図で表わしている構造と等価の表示であるが，このような考え方の歴史は古く，すでに Shibatani (1973b)の先駆的な研究に同様の分析が見られる．そしてこの種の分析を支持するとされる経験的な議論も，現在ではよく知られたものとなっており，この Shibatani (1973b)以来の議論をさ

---

4. 고영근 (1997)，김형배 (1997)，류성기 (1992)，李周行 (1993)，권재일 (1994, 1998)なども参照．

らに発展させることにより，塚本(1994)は改めて(2)の妥当性を主張している.[5)]

(2)を支持すると言われる議論のうち，再帰代名詞や副詞の意味解釈に基づく議論は特に有名であり，塚本(1994, 192)も次のような例によってこの議論を採録している.

(4) a. 太郎は花子に自分の部屋で本を読ませた.
b. 다로오는 하나꼬에게 자기의 방에서 책을 읽혔다.

塚本(1994)によれば，(4a)の再帰代名詞「自分」は「太郎」を指すことも「花子」を指すこともできるが，「自分」に対応すると言われる韓国語の再帰代名詞 자기 (caki) は主語の「太郎」しか指すことができない. 「自分」や 자기 は一般に《主語》を先行詞とすると言われているので，(4a, b)いずれにおいても「太郎」が先行詞として機能するのは当然であるが，(3a)の分析によれば，日本語では使役行為の対象も補文の主語として表示されているため，これも潜在的には再帰代名詞の先行詞となりうる. 一方，(3b)に示された分析によれば，韓国語の使役文は補文構造を含まないので，統語的な意味における《主語》は主文の主語一つだけとなる. したがって，再帰代名詞が主文主語以外の名詞句を先行詞とする可能性は排除される.

(3a)のような補文構造においては，「読む」という行為とそれを「させる」行為とが独立の統語領域を構成するので，それぞれが副詞などによる修飾の対象となりうるが，(3b)のような単純な構造においては，「読ませる」という使役行為全体が単一の領域を構成しているだけであるから，これのみが修飾の対象となる. 塚本(1994)によれば，(5a)の副詞表現（「一生懸命に」）は教師の行為を修飾しているとも学生の行為を修飾しているとも解釈できるが，同じ意味を表わす(5b)の 열심히 (yelsimhi) には前者の解釈しかない.

(5) a. 先生が学生に一生懸命に本を読ませた.
b. 선생님이 학생에게 열심히 책을 읽혔다.

これも(3)に示された分析からの帰結として，再帰代名詞に基づくパラダイムと共に(2)のような考え方を支持する根拠とされている.

韓国語における《接辞使役》の代表例として(4)と(5)に挙げられているのは，《読む》という意味の他動詞 읽다 に基づく 읽히다 という使役形である. 一方，Shibatani (1973b) が組み立てた同様の議論において最も印象的であったのは，《着る》という意味の他動詞 입다 に基づく接辞使役（입히다）と迂言的使役（

---

5. もちろん塚本(1994)は従来の研究を踏襲しているだけではなく，新たな議論を付け加えることにより(2)をさらに強力に支持している（第3節参照）.

입게 하다）の対立であった．읽히다 にせよ 입히다 にせよ，《語幹＋使役接尾辞》という構成は同じであるから，具体例としてどのような語彙を選んでも議論の本筋には影響を与えないと思われるかも知れないが，事実は必ずしもそうではない．この点は，日本語との単純な比較からも明らかとなる．

日本語の「着る」という他動詞は，「着させる」という生産的な形式での使役化を許す一方で，「着せる」という形式への展開も許す．後者は，普通の国語辞典には《他動詞》として記載されており，これは母語話者の素朴な印象とも合致するものであるが，再帰代名詞の解釈に関する次のような観察は，「着せる」を単純な他動詞とみなす伝統的な記述を裏づける証拠となる．

(6) a.　母親$_1$が子供$_2$に自分$_{\{1/*2\}}$の服を着せた．
　　b.　母親$_1$が子供$_2$に自分$_{\{1/2\}}$の服を着させた．

そして Shibatani (1973b) が強調したのは，(6)と同じパターンを韓国語でも再現できるという点であり，これを具体的に示したのが次の有名な対立である．

(7) a.　어머니$_1$가 아이$_2$에게 자기$_{\{1/*2\}}$의 옷을 입혔다．（短形）
　　b.　어머니$_1$가 아이$_2$에게 자기$_{\{1/2\}}$의 옷을 입게 하였다．（長形）

Shibatani (1973b) によれば，短形使役における《被使役者》(causee) は動作主性を欠き，自分では行為を行なわない．したがって，短形の使役動詞を含む文全体が表わすのは，使役者（母親，어머니）が対象（子供，아이）に直接作用する「直接使役」であるが，長形使役の場合，被使役者は動作主性を保持しており，使役者による何らかの働きかけによって，結局は自分で行動する．この意味において，長形使役が表わすのは「間接使役」の状況であると言える．[6]

つまり Shibatani (1973b) が想定していたのは(8)のような対応関係であり，韓国語における接辞使役とは要するに「着せる」のような性質を備えた他動詞である，というのが Shibatani (1973b) の最終的な結論であった．

(8)		基本形	他動詞	使役形
a.	日本語	着る	着せる	着させる
b.	韓国語	입다	입히다	입게 하다

このような対応は日本語の話者にとっても理解しやすいものであるが，ここで

6. (6)/(7)の「子供」を「生後三ヶ月の赤ん坊」に換えてみると，(a)が記述するのが普通の出来事であるのに対し，長形の(b)は，生後三ヶ月の赤ん坊が服を着たという奇跡的な出来事を報告することになると Shibatani (1973b: 284) は述べている．なお Shibatani (1975) などにおいては，「直接使役」と「間接使役」の区別が整理し直されており，「操作使役」「指示使役」という概念が導入されている．

注意すべきなのは，仮に(8)が妥当であるとしても，同じ分析を他のすべての接辞使役に適用できる保証はないという点である．なぜなら，例えば(9)に見られるように，基本形と使役形の間に他動詞を語彙化するという選択は，すべての動詞に許されたオプションではないからである．

(9)		基本形	他動詞	使役形
a.	日本語	読む	?	読ませる
b.	韓国語	읽다	읽히다	읽게 하다

日本語には「読む」と「読ませる」の間に語彙化された他動詞は存在しないと思われるが，[7] このような場合でも，韓国語には읽히다という短形使役（語彙的使役）が存在するのであるから，(8)/(9)の枠組みでは，「着せる」に対応する機能を읽히다に求めざるを得ない．そしてその機能とは，Shibatani (1973b) に従えば《直接使役》あるいは《操作使役》でなければならないが，実際には，읽히다は「読ませる」という《間接使役》あるいは《指示使役》の状況を記述することができる．

《間接使役》の状況を記述できるということは，被使役者が自立した動作主性を有するということであるから，韓国語の입히다（着せる）と읽히다（読ませる）の間には，日本語の「着せる」と「読ませる」の違いに平行する違いが存在することになる．そして日本語の場合，「太郎は花子に自分の本を読ませた」における再帰代名詞の解釈は曖昧であり，「着せる」の場合とは振る舞いが異なると言われる．

このように考えてくると，韓国語の입히다が日本語の「着せる」と似た振る舞いを示すのは理解できるが，同じ接辞使役であるからと言って，읽히다（読ませる）にも同様の振る舞いを期待する必然的な理由はないと思われる．

換言すれば，입히다に基づく Shibatani (1973b) の観察が正しいとしても，읽히다については同じ一般化が成り立たないという事態も容易に想像できるわけである．したがって，(4b)や(5b)に見られる塚本(1994)の事実観察は，なお慎重に検討してみる価値がある．

筆者が折に触れて行なってきた調査によれば，韓国語の接辞使役における再帰形や副詞類の意味解釈は，塚本(1994)で示唆されているほどすっきりとしたものではない．

---

7. 「読む」と「読ませる」の間に「読ます」を想定する可能性については Washio (2000)に若干の考察がある．

3. 接辞使役における自立的被使役者の可能性

韓国語の接辞使役が一律に입히다（ip-hi-ta，着せる）のように振舞うわけではないという事実は，すでに K.-D. Lee (1975) などで指摘されている．Lee (1975，21-22) は，与格で現れる被使役者が行為者であるか否かを主な基準として短形使役を二種類に分け，行為者でないものを「第1類」(Pattern 1)，行為者であるものを「第2類」(Pattern 2) と呼び，後者の例として次のような他動詞を挙げている．

(10) a. 들리다 (tul-li-ta，持たせる)
b. 읽히다 (ilk-hi-ta，読ませる)
c. 갈리다 (kal-li-ta，耕させる)
d. 누이다 (nwu-i-ta，（小便を）させる)
e. 감기다 (kam-ki-ta，巻かせる)
f. 씻기다 (ssis-ki-ta，洗わせる)
g. 빨리다 (ppal-li-ta，洗わせる)
h. 쓰이다 (ssu-i-ta，書かせる)
i. 불리다 (pwul-li-ta，吹かせる)

これらの使役動詞は，それぞれ「笛を吹く，作文を書く，荷物を持つ，本を読む，畑を耕す，毛糸を巻く，小便をする，服を洗う，皿を洗う」などのように使う他動詞から派生されたものであるが，このような行為を人にさせる，という使役の状況を(10)の短形使役は記述することができる．すなわち，「～に笛を吹かせる，作文を書かせる，荷物を持たせる，本を読ませる，畑を耕させる，毛糸を巻かせる，小便をさせる，服を洗わせる，皿を洗わせる」などの状況である．このような使役の状況における被使役者は，操作使役の状況における被使役者とは本質的に異なるものであるから，K.-D. Lee (1975) がこれを [+Agentive] と特徴づけ，Shibatani (1973b) に対する反論の根拠としたのはよく理解できる．(10)に挙げられている使役形は，上で取り上げた읽히다（ilk-hi-ta，読ませる）の場合と同様に，短形使役が必ずしも操作使役を表わすための形式ではないことを示しているからである．

しかし，(10)のような例を論じる際に，K.-D. Lee (1975) はもっぱら被使役者の行為者性だけを問題にしており，再帰形자기や副詞の修飾関係などについては考察を加えていないため，(10)に挙げられている動詞がこれらの現象に関してどのように振る舞うのかは，独立に調査しなければならない．実際に調査を行なってみると，接辞使役自体の適格性に関する個人差など，かなり複雑な問題が生じてくるのだが，(10)のような動詞形が接辞使役として許容される限りにおいて，それらは一般に Shibatani (1973b)や塚本(1994)の予測と矛盾する振る舞いを示す．

まず，塚本(1994)が挙げている읽히다であるが，例えば次のような例においては，主語の순자（スンジャ）だけでなく被使役者동생（弟）も再帰形の先行詞となり得るとの判断が一般的である．

(11)　순자가 동생에게 자기 책을 읽혔다.
　　スンジャが弟に自分の本を読ませた．

もちろん，統語的に主語と表示されているスンジャを先行詞とする解釈の方が優勢であり，何の説明も加えずにこの文を提示すれば，母語話者は例外なく《자기＝순자》と理解する．しかし状況を説明したり文脈を与えたりして確認すると，《자기＝동생》の解釈も可能であると答える話者は多い．例えば次のように，(11)を命令文にして主語を表面から消してしまうと，《자기＝동생》の解釈はかなり出やすくなる．[8)]

(12)　동생에게(는) 자기 책을 읽혀라!
　　弟に(は)自分の本を読ませろ！

また，次のような工夫をすることもできる．日本語の「自分」とは異なり，韓国語の자기は三人称の名詞句を先行詞とするのが原則であり，一人称名詞句の先行詞はかなり厳しく制限されている．[9)] したがって，一人称代名詞を主語とする次のような例は，《자기＝동생》の解釈が許されなければ非文となるはずであるが，この文を非文と判断する話者は少ない．[10)]

(13)　나는 동생에게 자기 책을 읽혔다.
　　僕は弟に自分の本を読ませた．

様々な副詞の修飾可能性によってテストしてみても同じ結果が得られる．「3回」、「ゆっくり」「5分間」などの副詞表現を(11)に挿入してみると，次のように，いずれも「弟が本を読む」という出来事を修飾することができる．

(14)　순자가 동생에게 {세 번, 천천히, 오 분 동안} 책을 읽혔다.
　　スンジャが弟に｛3回，ゆっくり，5分間｝本を読ませた．

---

8. 金榮敏氏の指摘による．多くの話者がこの判断に同意する．

9. 再帰形に関する最もまとまった研究の一つである任洪彬(1987，123-128)には，「再帰詞자기の先行詞として最適の対象は三人称であるが，一人称や二人称が不可能であるわけではない．一人称が자기の先行詞となるのは，自分が自分に対して他者視点を導入したり，他者視点自体が観察者の視点として導入される場合である」という趣旨の記述が見られる．

10. I.-S. Yang (1974，105) には입히다に基づく同様の議論が見られる．

これらの副詞表現はスンジャによる使役行為を修飾することもできるので，(14)はいずれも二つの解釈を許すことになるが，韓国語の接辞使役がこの種の二義性を示すことはあり得ないというのが，まさに塚本(1994)の主張していることであるから，こうした判断を下す話者が決して少なくないという観察は，塚本(1994)の理論の根幹に関わる重大な意味を持つことになる．

(14)に類する事実は従来の文献でも指摘されている．例えばS.-C.Song (1980, 193)は次のような例を挙げ，副詞「厳粛に」は母親の行為も子供の行為も修飾することができると述べている．[11]

(15) 어머니가 아이에게 엄숙하게 책을 읽혔다.
母親が子供に厳粛に本を読ませた．

Patterson (1974, 25)も(15)の「厳粛に」の代わりに빨리 (ppalli, 速く) を用いた例を挙げ，様態副詞は二通りに解釈できると述べている．Patterson はまた任意の副詞が使役者の行為と被使役者の行為のどちらを修飾しやすいかは，その副詞の種類によって決まると指摘し，例えば천천히 (chenchenhi, ゆっくり) のような副詞は，むしろ被使役者による行為を修飾しやすいと述べている．

したがって，(14)のような例が二通りの解釈を許すという判断は，筆者のインフォーマントだけでなく韓国語を母語とする言語学者の判断でもあり，韓国語という文法体系の一つの側面が表出したものと捉えなければならない．

以上，읽히다を例にして事実関係を整理したが，K.-D. Lee (1975) の「第2類」に属する動詞は，一般に읽히다と同様の振る舞いを示す．以下，(10)のリストに挙げた動詞を具体的に検討し，この点を確認しておく．

まず，(10a)の들리다を含む使役文としては次のような例が考えられる．[12]

(16) 철수는 영이에게 무거운 가방을 들렸다.
チョルスはヨンイに重い鞄を持たせた．

この文の直接目的語「重い鞄」を「自分の鞄」に置き換えたのが(17a)であり，「3回」という副詞表現を挿入したのが(17b)であるが，再帰形を伴う“자기 가방”は「ヨンイの鞄」と解釈することができ，“세 번”はヨンイの行為を修

---

11. 再帰形자기に基づく議論については，자기自体の性質がよく理解されていないため証拠としては使えない，という立場を S.-C. Song (1980, 199)は採っている．

12. 類例は多くの辞書類に見られるが，これは송복승 (1995, 94) の用例．ただし，들리다という使役形自体を嫌う話者もいるので，本稿で問題にしているような現象を調査する際には，インフォーマントの選択に注意しなければならない．筆者は，接辞使役の許容度に関する個人差についてかなりの規模の調査をしたことがあるが，調査結果の一部は Washio (2000)にまとめてある．

飾することができる.

(17) a. 철수는 영이에게 자기 가방을 들렸다.
チョルスはヨンイに自分の鞄を持たせた.
b. 철수는 영이에게 세 번 가방을 들렸다.
チョルスはヨンイに3回鞄を持たせた.

(10b)の읽히다についてはすでに用例を挙げたので，ここでは繰り返さない.
(10c)の갈리다に基づく使役文としては次のようなものが考えられる.[13]

(18) 그는 머슴에게 밭을 갈렸다.
彼は作男に畑を耕させた.

この場合にも，再帰形は被使役者を先行詞とすることができ，副詞表現は被使役者の行為を修飾することができる.

(19) a. 그는 머슴에게 자기 괭이로 밭을 갈렸다.
彼は作男に自分の鍬で畑を耕させた.
b. 그는 머슴에게 종일 밭을 갈렸다.
彼は作男に一日中畑を耕させた.

(10d)の누이다には次のような用例がある.[14]

(20) 곤히 자는 아이를 깨워 오줌을 누였다.
ぐっすり寝ている子供を起こしておしっこをさせる.

このような例を見ると，子供を抱えておしっこをさせるという操作使役的な場面が想像されるかも知れないが，次のように，母親が子供に命じて子供が一人で行為を行なうという状況も누이다で記述することができる.[15]

(21) 어머니가 아이에게 혼자서 오줌을 누였다.
母親が子供に一人でおしっこをさせた.

この例は，副詞혼자서が被使役者の行為を修飾し得ることを示すものでもある

---

13. 類例については『그랜드 국어사전』などを参照．数はさほど多くないと思われるが，갈리다という使役形自体を嫌う話者もいる．脚注12参照.

14. 『참 국어사전』などの国語辞典に出ている用例であるが，動詞は見出し語の形を過去形に換えた．누이다についても脚注13のコメントが当てはまる.

15. 完璧な文ではないが決して不可能ではない，というのが母語話者の判断である．次の(22)の適格性も同じような位置づけになる.

が，この被使役者は，次のように再帰形の先行詞としても機能することができる．

(22)　어머니가 아이에게 자기 방에서 오줌을 누였다.
　　母親が子供に自分の部屋でおしっこをさせた．

(10e)の감기다は，語幹の動詞감다（kam-ta，閉じる，巻く，洗う）の同音異義性を反映して，いくつかの異なる意味を表わす．K.-D. Lee (1975)は「巻く」に対応する「巻かせる」という意味を想定しているが，Patterson (1974, 28)は「洗う」という意味の語幹に対応する감기다を取り上げ，これに基づく使役文も자기の二義的な解釈を許容すると指摘している．

(23)　어머니가 아이에게 자기의 머리를 감겼다.
　　母親が子供に自分の髪を洗わせた．

「巻かせる」という意味での감기다については，Watanabe (1978, 173) が次のような例を挙げている．

(24) a.　어머니는 영자한테 자기 털실을 감겼다.
　　母親はヨンジャに自分の毛糸を巻かせた．
　　b.　어머니는 영자한테 한시에 털실을 감겼다.
　　母親はヨンジャに1時に毛糸を巻かせた．

これらの例文においても，被使役者「ヨンジャ」を자기の先行詞と解釈することができ，時間副詞「1時」もヨンジャが行為を行なった時間を特定していると解釈することができる．Watanabe (1978, 173) にはまた，上で論じた(17)に類する例や，(10f)の씻기다を含む次のような例も見られる．[16]

(25) a.　철수는 영희한테 자기 시험관을 씻겼다.
　　チョルスはヨンヒに自分の試験管を洗わせた．
　　b.　철수는 영희한테 마지막으로 시험관을 씻겼다.
　　チョルスはヨンヒに最後に試験管を洗わせた．

ここでも同じ現象が観察される．(a)は“자기＝영희”の解釈を許容し，(b)の마지막으로は「ヨンヒが行なう一連の仕事の最後の仕事として」と解釈することができる．

(10g)の빨리다には次のような用例がある．[17]

(26)　파출부에게 옷을 빨리다.
　　派出婦に服を洗わせる．

---

16. 例文には若干の修正を加えてあるが，文の基本的な構造は保持されている．

次のような例文を作って確かめてみると，この場合にも再帰形は被使役者を先行詞とすることができ，副詞表現は被使役者の行為を修飾することができるとの判断が得られる．

(27) a. 어머니는 아이들에게 (각자) 자기 옷을 빨렸다.
母親は子供たちに（それぞれ）自分の服を洗わせた．
b. 어머니는 아이들에게 (각자) 세 번 옷을 빨렸다.
母親は子供たちに（それぞれ）3回服を洗わせた．

(10h)の쓰이다については，Patterson (1974, 28)と S.-C. Song (1980, 193)に次のような例が見られる．

(28) a. 선생이 학생에게 자기의 멋대로 작문을 쓰였다.
先生が学生に自分の流儀で作文を書かせた．
b. 어머니가 아이에게 글씨를 천천히 씌우었다.
母親が子供に字をゆっくり書かせた．

この場合にも，再帰形자기は統語的な主語（先生）だけでなく与格の被使役者（学生）をも先行詞とすることができ，副詞「ゆっくり」は「子供がゆっくり書く」と解釈する方が自然であるとの記述になっている．こうした観察は基本的に正しいと思われるが，実際に調査してみると，쓰이다（ssu-i-ta）という形式を쓰다（ssu-ta，書く）の短形使役として使うことに抵抗を感じる話者もいるため，そのような話者にとっては，(28a)は再帰形の解釈とは無関係に不自然な文となる．[18]

同じことは(10i)の불리다についても言える．『국어대사전』など多くの辞書は，불다（pwul-ta，吹く）の使役形として불리다を挙げ「楽器を吹かせる」の意味であると解説している．例としては“나팔을 불리다”（ラッパを吹かせる）などが挙げられているが，불리다をこのように使うことに抵抗を感じる話者もいる．しかしこの使役形を許容する話者にとっては，불리다は上の諸例と同じように振る舞う．

(29) a. 그는 동생에게 자기 피리를 불렸다.
彼は弟に自分のラッパを吹かせた．

---

17. 国語辞典『그랜드 국어사전』から引用したため，動詞は見出し語形のままになっている．このように韓国語辞典類には見出し語として記載されていても，実際に調査すると빨리다という使役形は使わないと判断する話者もいる．上で先行研究から引用した감기다や씻기다についても同じことが言える．

18. 接辞使役の許容度に関する個人差については，脚注12で挙げた文献を参照．

b. 그는 동생에게 종일 피리를 불렸다.
彼は弟に一日中ラッパを吹かせた.

以上，被使役者を行為者と解釈することができる短形使役の例として，K.-D. Lee (1975)の「第2類」に属する使役動詞を検討し，これらが再帰形や副詞要素の解釈に関して Shibatani (1973b)や塚本(1994)の予測に反する振る舞いを示すことを確認した．データの適格性あるいは可能な解釈の可能性は，すべて複数の母語話者に確認した上で提示したものであるが，これは I.-S. Yang (1974)，Betty Soon Ju Patterson (1974)，K.-Y. Kim Watanabe (1978)，S.-C. Song (1980) などの先行研究で示されている判断が，韓国語の話者の一般的な判断を反映していることを裏づけるものである．また，再帰形や副詞要素を含む例文こそ挙げていないが，S.-C. Song (1967)，K.-D. Lee (1975)，손호민 (1978)，李周行 (1993)，양정석 (1995)など多くの研究者による記述の示唆するところも，本稿での観察と矛盾するものではない．

3. その他の議論

日本語と韓国語の使役文がその統語構造において根本的に異なるという主張をさらに裏づけるために，塚本(1994, 193)は次のような現象を考察している．

(30) a. 太郎が花子を座らせた．そして，次郎もそうした．
b. 다로오가 하나꼬를 앉혔다. 그리고 지로오도 그렇게 했다.

塚本(1994)によれば，(30a)の「そうした」は「座らせた」とも「座った」とも解釈できる．前者の場合，次郎は使役の主体であり，実際に座ったのは次郎以外の人物（おそらくは花子）であるが，後者の場合には次郎自身が座ったことになる．日本語の使役文にこのような曖昧性が生じることは，すでに Shibatani (1973a) などで指摘されているが，(30a)の直訳と言える(30b)においては，次郎は使役の主体としか解釈できず，次郎自身が座ったという解釈はあり得ないと塚本(1994)は指摘する．この観察は，日本語の使役文に複文構造を設定し，韓国語の使役文には単文構造を設定するという(2)/(3)に示した分析と合致するものである．

この種の現象についても筆者は調査をしてきているが，ここでもまた，事実関係は塚本(1994)の言うほど明確ではない．

まず，(30a)に類する日本語の例文が二義的であるのは間違いないが，そもそも「次郎が座った」という事態を記述する文として(30a)はかなり不自然である．特に「そして」という接続詞で何が意図されているのかが明確でないため，(30a)を「次郎が座った」という意味で解釈しても，結局どのような状況を記述しているのか釈然としない．この意味でなら，「そして」を「すると」に換え

た次の文の方がより自然であろう.

(31)　太郎が花子を座らせた. すると, 次郎もそうした.

韓国語についても, 実は同じことが言える. いま問題にしている意味では, (30b)は確かに不可能であるが, 그리고 (そして) を그러자 (すると) にすれば許容度は若干上がると報告する話者もいる. 筑波大学の金榮敏氏は, 그것을 보고 (それを見て) を使えば許容度はさらに上がると指摘してくれたが, 他の話者もこれには同意している. 例えば(32a)の "그렇게 했다" は, 「ヨンヒが (誰かを) 座らせた」という解釈が最も自然であるが, 5名の話者のうち2名は「ヨンヒが座った」とも解釈できると判断した.

(32) a.　선생님이 철수를 앉혔다. 그것을 보고 영희도 그렇게 했다.
　　 b.　先生がチョルスを座らせた. それを見て, ヨンヒもそうした.

しかし, 一般的に言えば, 先行文脈の使役文を "그렇게 하다" で受けて "Caused Event" を指す解釈は, 次のように他動詞に基づく使役文の方が, 앉히다のような自動詞に基づく使役文の場合よりも許容度が上がる傾向にある.

(33) a.　선생님이 철수에게 책을 읽혔다. 그것을 보고 영희도 그렇게 했다.
　　 b.　先生がチョルスに本を読ませた. それを見て, ヨンイもそうした.

(34) a.　엄마가 첫째에게 옷을 빨렸다. 그것을 보고 둘째도 그렇게 했다.
　　 b.　お母さんが長男に服を洗わせた. それを見て, 次男もそうした.

これらの例については, "Caused Event" の解釈はないと判断する話者が2人, あると判断する話者が3人であった.

したがって, 塚本(1994)の論理を適用するなら, 少なくともこれら3人に代表されるタイプの話者については, 읽히다や빨리다を日本語の「読ませる」や「洗わせる」と区別する根拠はなくなることになり, ここでもまた, 日本語の使役文に補文構造を仮定するなら韓国語の읽히다や빨리다についても同様の分析を仮定せざるを得ないという結論が導き出される.[19]

4. 結　論

韓国語と日本語の使役文が統語構造の複雑性において異なるという塚本(1994)の主張が正しければ, 本稿での観察は, 再帰形や副詞類の意味解釈, 述部の代用形の意味解釈などは, 統語構造の複雑性を測る基準にはならないということを意味する. 一方これらの現象が, 塚本(1994)の主張するように統語構造の複雑性を測る基準であるなら, 本稿での観察は, 塚本(1994)の理論的な提案に疑いを抱かせるものとなる.

もちろん，塚本(1994)の主張と本稿での観察を両立させること自体は，さほど難しいことではない．例えば，韓国語の接辞使役は統語レベルでは単一の節しか含まないが，概念構造のレベルでは複数の出来事を表示し，再帰形や副詞類の解釈は概念構造レベルで行なわれる，と仮定すれば，本稿で指摘した事実の多くは記述することができる．しかし，複雑な統語構造を複雑な概念構造に移し替えただけでは，問題の解決にはならない．統語構造と概念構造が独立したレベルとして存在するなら，それぞれの複雑性を測る何らかの基準がなければならない．

決定的な結論を導き出すために欠けているものは何かと言えば，様々な言語

---

19. 日本語と韓国語の「そうする」構文には，実はもう一つ別の違いがある．これは従来の文献には指摘が見られないので，ここで簡単に解説しておく．本文でも述べたように，次のような例に関して従来問題とされてきたのは，「ヨンヒもそうした」という代用表現が“Causing Event”を表わすのか“Caused Event”を表わすのかという点であった．

(i) 先生がチョルスを座らせた．そして，ヨンイもそうした．
(ii) 선생님이 철수를 앉혔다．그리고 영희도 그렇게 했다.

日本語の場合「ヨンヒも（誰かを）座らせた」という解釈も「ヨンヒも座った」という解釈も可能であるとされるが，筆者の判断では(i)を「先生がヨンヒも座らせた」と解釈するのはかなり困難である．ところが韓国語の(ii)は，この第三の解釈を容易に許すようである．日本語でこの意味を表わすには，例えば(i)のヨンヒを与格で表示して(iii)のような表現にする方法が考えられる（若干の不自然さを伴うが不可能ではないと思われる）．韓国語でも(iv)は可能である．

(iii) 先生がチョルスを座らせた．そして，ヨンヒにもそうした．
(iv) 선생님이 철수를 앉혔다．그리고 영희에게도 그렇게 했다.

したがって，韓国語では(iv)の意味を(ii)で表わすことができるが，筆者の判断に従えば，日本語では(iii)の意味を(i)で表わすことはできない（少なくともかなり困難である）という違いがあることになる．ただし(i)が(iii)の意味を表わし得ると判断する日本語の話者もいるようなので，この点はさらに調査する必要がある．

日本語では，(iii)よりも(v)の方が自然であり，(v)を韓国語に直訳すると(vi)が得られる．

(v) 先生がチョルスを座らせた．そして，ヨンヒにもそうさせた．
(vi) 선생님이 철수를 앉혔다．그리고 영희에게도 그렇게 시켰다.

少々不自然であるとは言え(iii)も不可能ではないので，この種の構文では「ヨンヒにもそうした」と「ヨンヒにもそうさせた」がほぼ同じ意味を表わし得ることになる．これら二つの形式がどのような関係にあるのかは興味深い問題であるが，本稿における議論の本筋からは外れるので，ここでは事実観察を提示するだけに留める．

現象がどの記述レベルに関わるものであるのかを決定する基準である．しかしこれ自体が経験的な議論の積み重ねによってのみ決められるものであるから，結局すべては，妥当な記述レベルの設定およびレベル間の役割分担という古典的な問題に帰着することになる．韓国語の使役表現が提起するのは究極的にはこうした問題であり，塚本(1994)のような理論的研究と本稿のような記述的研究が補完し合うことで，解決案は徐々に洗練され，その精度も高まっていくのではないかと期待される．

参考文献

井上和子（1976）『変形文法と日本語（上･下）』大修館．

塚本秀樹（1997）「語彙的な語形成と統語的な語形成――日本語と朝鮮語の対照研究」『日本語と外国語との対照研究Ⅳ：日本語と朝鮮語』下．国立国語研究所．

Lee, Keedong (1975) Lexical Causatives in Korean, *Language Research* 11, 17-24.

Patterson, Betty Soon Ju (1974) *A Study of Korean Causatives*. M.A. Thesis, University of Hawaii.

Shibatani, Masayoshi (1973a) *A Linguistic Study of Causative Constructions*. Doctoral Dissertation, Indiana University., University of California, Berkeley. [Reproduced by IULC, 1975.]

Shibatani, Masayoshi (1973b) Lexical versus Periphrastic Causatives in Korean, *Journal of Linguistics* 9, 209-383.

Shibatani, Masayoshi (1975) On the Nature of Synonymy in Causative Expressions, *Language Research* 11, 267-274.

Song, Seok Choong (1967) *Some Transformational Rules in Korean*. Doctoral Dissertation, Indiana University.

Song, Seok Choong (1977) Causes of Confusion in Descriptions of Korean Causatives, in Chin.-W. Kim, ed., *Papers in Korean Linguistics*. Hornbeam Press, Columbia.

Song, Seok Choong (1980) Perception or Reality? Korean Causatives Reexiamined, *Korean Linguistics* 2, 33-65.

Washio, Ryuichi (2000) Homonymic Clash and Short Causatives in Korean, ms., University of Tsukuba.

Watanabe, Kilyong Kim (1978) Causative Constructions in Korean, *Descriptive and Applied Linguistics* XI, 171-188.

Yang, In-Seok (1972) *Korean Syntax: Case Markers, Delimiters, Compleme-*

natation and Relativization. Paekhap Publishing Co., Seoul.
Yang, In-Seok (1974) Two Causative Forms in Korean, *Language Research* 10, 83-117.
Yang, In-Seok (1976) Semantics of Korean Causation, *Foundations of Language* 14, 55-87.
고 영근 (1997) 『표준 중세 국어문법론 (개정판)』 집문당.
권 재일 (1991) 「사동법 실현 방법의 역사」 『한글』 221, 99-124.
권 재일 (1992) 『한국어 통사론』 민음사.
권 재일 (1994) 『한국어 문법의 연구』 서광학술자료사.
김 형배 (1997) 『국어의 사동사 연구』 박이정.
류 성기 (1992) 「사동사 사동법의 변화와 사동사 소멸」 『國語學』 22, 237-258.
서 정수 (1996) 『국어문법』 한양대학교 출판원.
손 호민 (1978) 「긴 形과 짧은 形」 『어학연구』 14, 141-151.
송 복승 (1996) 『국어의 논항구조 연구』 보고사.
양 정석 (1995) 『국어 동사의 의미 분석과 연결이론』 박이정출판사.
李 周行 (1993) 「後期中世國語의 使動法에 대한 硏究」 『國語學』 23, 239-254.
任 洪彬 (1987) 『國語의 再歸詞 硏究』 신구문화사.

(辞 書)
『그랜드 국어사전』 (금성출판사, 1992)
『메이트 한일사전』 (동아출판사, 1996)
『참 한일사전』 (동아출판사, 1995)
『국어대사전』 (민중서림, 1982)

韓・日両言語の格助詞省略に関する対照研究

洪　思 満

<目　　次>

1. 省略と非実現
2. 展叙性と格標識の省略
3. 自発的省略
4. 他律的省略
5. 終わり

1. 省略と非実現

本稿は、韓・日両言語における格標識の省略に関する問題について比較対照することを目的とする。現代韓国語と日本語は、ほぼ同一の格範疇と格標識をもつと言われている。本稿では、特に韓・日両言語における格助詞の省略という現象に見られる特徴及びその原因について言語普遍性に即して究明すると同時に、この問題をめぐって先行研究で議論の焦点となった、「省略の現象を助詞の省略として扱うべきか非実現の現象として扱うべきか」という問題についても考察を加える。

韓国語に関しては、格標識が実現されない現象をめぐって以下のような二つの記述が行われている。一つは、格標識を一つの単語として認定する文法観に従い、これを省略の現象と見る立場であり、もう一つは、単純な省略ではなく、これを曲用(declension)の一つとし、その固有の価値を認めようする立場である。一般的に、省略とは単語以上の文法単位に起こる現象である。従って助詞を単語として認定せず単なる格語尾として扱う文法観では、これを省略ではなく非実現と見做すのである。結果的に、この考え方は、省略される助詞の標識として零標識(φ)を別に設定することになる。このような考え方によると、韓国語の主格助詞には{이/가(i/ka)}[1]と{φ}の二つがあり、対格助詞にも{을/를(ul/lul)}と{φ}の二つがあることになる。{φ}を別に認定する理由としては、格標識の文と零標識の文の間には厳然たる意味の差があるからである。韓

1　本稿における韓國語に關するローマ字表記は、Yale式ローマ字表を用いる。

国語では、主として有標格は主(客)体の明示及び強調指示の状況を表わし、無標格は主(客)体の単純指示の状況を表わすものとして知られている。

80年代には、韓国では格助詞の省略に関する多くの論考が発表されている。金光海(1981)、李基東(1981)、申鉉淑(1982)、閔賢植(1982)、柳東錫(1984)、李南淳(1988, 1998)、洪思満(1989)等の論文では、格標識の非実現形の分布とその語用論的意味が探索されており、これらの議論では、大体省略より非実現とみる傾向を示している。特に李南淳(1998)では、不定格の範疇に入る主格、対格、属格助詞の省略という現象については非実現とし、処格、造格、共同格助詞の省略については省略の現象として区分している。

筆者(1989)は、韓・日語の特殊(副)助詞を対照した学位論文の中で、両者を区別せずに、包括的な立場から省略と非実現(φ)を兼用する態度を取っている。筆者の立場は、零標識(φ)を曲用表の中に設定せず、それを格標識の省略の過程で生じた産物として見なすことであり、その省略の痕迹である{φ}にも格表示機能があると認定しようとする試みである。つまり、零標識は格助詞の省略された産物であるため、別に格標識として設定する必要がないという考え方である。省略と非実現の考え方による格標識の外延を表示すれば、次のようになる。

省略:	主格助詞	{이/가(i/ka)}
	対格助詞	{을/를(ul/lul)}
非実現:	主格助詞	{이/가(i/ka)}、{φ}
	対格助詞	{을/를(ul/lul)}、{φ}

多くの格標識の中でも、特に主格と対格と属格を中心として非実現に関する論議が行われるのは、これらの格が特殊性を持っているからだと言える。これらの格は、統辞的な統合関係だけで格表示が可能である。言い換えれば、構文的な論理関係に依って格の意味が露出する形態であり、語彙性の欠如がその特徴である。従って、これらの格こそ、最も純粋な文法的(統辞的)機能を果たす助詞であると思われる。

格標識の実現形と非実現形との意味が同一なのかどうかの問題は、省略の問題とは別個の問題である。二つの文の意味が異なるとすれば、実現形から非実現形に省略されたという仮定は成立しないからである。例えば、

(1) a. 술φ 마십니까?

swul masipnikka?

お酒ϕ 飲みますか。

b. 술을 마십니까?

swul-ul masipnikka?

お酒を 飲みますか。

(1)aと(1)bは指示的意味は同一であるが、その状況的意味は同じでないと思われる。閔賢植(1982)が韓国語の助詞類を状況指示標識として取り扱ったのは、こういう理由である。(1)aは単純に飲酒の如何を聞く文であるが、(1)bには次の様々な話し手と聴き手の間の立場と語用論的状況が介在している。

(2) a. 話し手は、相手がお酒が飲める人であるという事実を知らなかった。

b. その飲酒の事実が意外だと思われる。

c. お酒が強調されている。

もし、(1)bから(1)aができたとすれば、これは省略であり、(1)aから(1)bができたとすれば、これは附加である。

非実現とみる考え方は、助詞の非実現文は助詞の省略文でなく、また両文は異なる意味機能を果たしているという主張である。

韓国語の格助詞の省略を歴史的に考えて見ると、この現象は現代語になってから活発となった。本来主格助詞と対格助詞は、確かに主格と対格を表示する標識であった。その後、両標識は主格と対格の格としての特殊性(強展叙性)によって、省略して用いられた。言葉において、省略とは努力経済の原則と関連があり、ある語か文法要素が省略されても文の意味には何の変化も生じなければ、どの場面でも起り得るのである。これは、話し手と聴き手に共知された古い情報が省略される現象と同じである。話題語の省略がそうであり、同一名詞句と同一叙述句が省略されるという現象も、情報伝達機能(communicative dynamism, CD)の低い既知の事実から起こる現象なのである。さらに、慣用的な表現では省略が頻繁に起こる。その結果、実現形と非実現形(省略形)は共に用いられることになり、次第に両方の弁別的な機能が派生したと思われる。その弁別的な機能は、実現形に状況指示の意味が附加されたと考えられる。この状況指示の機能には、共に強調の機能が含まれることになった。

現代韓国語で、主格助詞{이/가(i/ka)}と対格助詞{을/를(ul/lul)}が強調的添意

機能を持つという事実は、これらが格標識から遥かに離れて、単純な添辞の範疇に入ったという印象を与えている。次の例文で分布された韓国語の{이/가(i/ka)}と{을/를(ul/lul)}は、格とはまったく関係のないものであろう。

(3) a. 예쁘지**가** 않다.
yeyppuci-ka anhta.
きれいでない。
b. 도대체**가** 알 수 없다.
totaychey-ka al swu eps-ta.
どうしても わからない。

(4) a. 약속을 믿어를 보겠다.
yaksok-ul mit-e-lul po-keyss-ta.
約束を 信じてみる。
b. 도무지 먹지를 않는다.
tomwuci mekci-lul anh-nun-ta.
何にも 食べない。
c. 잘을 모른다.
cal-ul molu-n-ta.
よく 知らない。

助詞{이/가(i/ka)}、{을/를(ul/lul)}が用言にも、副詞の下にも附くという分布上の特殊性を考えれば、これらの文法範疇は格助詞ではなく、むしろ特殊助詞に近いという印象が強い(洪思満1995:97-98)。このような分布上の推移現象は、現代韓国語の対話体の中でよく確認することができる。これに対し、日本語では該当例は存在しない。

特に、主格助詞{이/가(i/ka)}が新しい情報を表わす場合、その被接語は焦点(focus)となる。焦点とは文意の核となるので、情報伝達力が高く、ここに強調が置かれる。助詞{이/가(i/ka)}の被接語が焦点になる場合、その標識は省略できない。

(5) a. 한국에서는 쌀**이** 주산물이다.
hankwuk-eyse-nun ssal-i cwusanmul-ita.
韓国では お米**が** 主産物である。

b. 서울은 철수**가** 태어난 곳이다.
seul-un chelswu-ka thayena-n kok-ita.
ソウルは 哲洙**が** 生まれた ところである。

上の例文(5)で、主格助詞{이(i)/가(ka)}の省略は不可である。それが附いている被接語が焦点となるからである。文(5)に対応する原因文を想定すれば次の文になる。

(6) a. 한국에서는 무엇이 주산물이냐?
hankwuk-eysenun mwues-i cwusanmwul-i-nya?
韓国では 何が 主産物なのか。
b. 서울은 누구가 태어난 곳이냐?
seul-un nwukwu-ka thayena-n kok-i-nya?
ソウルは 誰が 生まれた ところなのか。

原因文で、疑問詞の置かれるところが焦点となり、それは新しい情報の所在と一致する。なお、{이/가(i/ka)}が総記の機能を持つ場合も、その省略は不可である。

(7) a. 오빠**가** 학교에 갔니?
oppa-ka hakkyo-ey kass-ni?
お兄ちゃん**が** 学校に 行ったのか。
b. 이 사과**가** 더 맛있어.
i sakwa-ka te masiss-e.
この りんご**が** より おいしいよ。

(7)aと(7)bでは、{가(ka)}の被接語に“他の人でなくお兄ちゃん”と“他のりんごでなくこのりんご”という総記(exhaustive listing)の意味があるので、{이/가(i/ka)}の省略は不可である。もし省略したら総記の意味がなくなってしまう。この際、総記の意味を表す被接語に強勢が置かれる。

格助詞の実現文と非実現文では、多少文の表す意味に差が生じることもあるが、その実現から非実現の過程を考えて見ると、やはり省略であると認めるべきである。その理由は、次のいくつかの事実から確認できる。

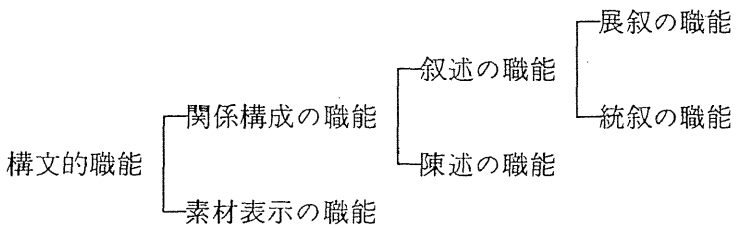
1. 通時的に見れば、助詞の省略は現代語になってから活発になり、それも対

話体を中心に起こる。

2. この現象が強展叙性の助詞に限られる。展叙性による省略の度合があるということは、省略の過程を暗示してくれる。
3. 状況指示機能の有無が韓国語で認められるが、日本語では実現形と非実現形との意味がまったく同じである場合が多い。
4. 特に対格助詞においては、韓国語の場合あたかも特殊助詞と同じ分布をなしているように思われるが、このような特殊用法として推察される現象が日本語{を}にはまったく見られない。
5. 両国の言語主体の文法的な直観によって、格助詞が省略されたということが分かる。

2. 展叙性と格標識の省略

渡辺実(1971:67)は、文における構文的職能を次のように分類している。



叙述とは、一つの思想や事柄の内容を外形化して整えようとする言語主体の表現活動であり、その内容を整えまとめるために働く種々の関係構成の職能のことを言う(渡辺実 1971:67から引用)。

叙述の職能はさらに展叙の職能と統叙の職能に分けられる。「展叙」とは叙述を展開するという意味であり、「統叙」とは叙述を統一・完了するという意味で命名された。このような術語は、従来の橋本文法等の文節文法で用いられた「係る・続く」と「承ける」とあまり違わない。

従って、 展叙の職能を託される内面的意義は、素材と素材の間に認定された関係概念であり、統叙の職能を託される内面的意義は、言語主体の精神の統合作用である(渡辺実 1971:67から引用)。北原文法では、このような関係概念を補充機能と統括機能として発展させている。

とにかく、渡辺氏は連用助詞を二分し，強展叙の{が}、{を}、{に}と弱展叙の{と}、{へ}、{から}、{で}に分けている。

強展叙とは、展叙が統叙成分の具有する統叙に向かって叙述を展開していく度合が強いことを言う。これは、連用展叙素材が統叙素材から分析・抽出したものであることが自明と意識される、即ち論理的に統叙素材と密接するため、補充と統括関係が確然と保証されることを意味する。補充=統括の結合が強いということは、相対的に格助詞の具有する標識的な機能が弱く、任意的であってもいいということに通ずる。従って、強展叙の助詞{が}、{を}、{に}が省略しやすいのは、強展叙性と共に弱標識性を意味する。

正に、{が}、{を}は語彙的意味の弱い構文的助詞に過ぎず、これは英語などにその対応語がない事実からも理解できる。

従って、強展叙とは文の成分間に構文的な統合関係だけで格標識が確然であることを言う。即ち、格助詞がなくてもその成分の格が明確になる場合である。 主格と対格は統辞的な格であり、このような関係から格が自然に露出する。しかし、連用修飾格の中にいわゆる副詞格助詞は語彙的機能を持つ語彙格助詞で、これらの標識が有標的に現われなければ統辞的に格の判断が難しい。処格は語辞環境によって多少強展叙的性格を帯びる。

(8) a. 여기 ϕ 비가 온다.
yeki pi-ka onta.
?ここ ϕ 雨が 降る。
b. 여기에 비가 온다.
yeki-ey pi-ka onta.
ここに 雨が 降る。

(8)では、雨が降る場所が「ここ(여기:yeki)」であるということは、処格助詞が附いていなくても厳然に現れる。これは、その被接語自体が場所を明示してくれる語であるからである。このように、文脈は自然に顕現され、(処格助詞が附いていなくても)「ここ(여기:yeki)」という成分は雨の降っている場所の意味であることになり、他の余地は全くなくなるわけである。結局、格の判断が困難な格の場合は、省略されないのである。格の判断が困難であるということは、格標識がない時, 二つ以上の格意味の解釈が可能であるということを言う。このような曖昧性を克服するため格標識が実現されるのである。これは、言語自体が自律的な安全装置を備えているということとしても解釈できる。これが弱展叙性の助詞類である。

弱展叙性の助詞類(副詞格助詞)の中で、処格助詞が一番省略しやすい。李南淳(1998:243-244)は、これを格成分の位置と叙述動詞との近接度の度合で説明しようとした。格成分が叙述動詞から近ければ近いほど格助詞の省略は自由であると説明している。結論的には、省略の度合は処格→造格→共同格の順序になると主張している。

又, 文の長さによって格助詞の省略の可否が定められる場合がある。格成分が叙述語から遠くなると格意味の安定性が弱くなるため、格助詞は必ず実現されるのである。格成分と叙述語の中に挟まれている様々な成分が格の判断を曖昧にし、強展叙性を妨害するからである。従って、一つの文が長くなって多くの成分が文中に含まれている場合は、格助詞は必ず実現され、格助詞の格表示の機能負担量を増やすような安全装置が働くと考えられる。

補充成分と統括成分との関係構成の面から考えてみた場合、いわゆる同族目的語(cognate object)形式と、形式動詞「する」を同伴する目的語形式のような特殊な例がある。

(9) a. 踊りを 踊る。　춤을 춘다.(chwum-ul chwun-ta.)
　　b. 絵を えがく。　그림을 그린다.(kulim-ul kulin-ta.)
　　c. 歌を 唄う。　노래를 부른다.(nolay-lul pwulun-ta.)

(10) a. 勉強を する。　공부를 한다.(kongpwu-lul han-ta.)
　　b. 実験を する。　실험을 한다.(silhem-ul han-ta.)
　　c. 運動を する。　운동을 한다.(wuntong-ul han-ta.)

例文(9)は、統括成分の統括機能が補充成分の補充機能より強い場合である。統括成分の中には補充成分の素材概念を内蔵している。厳密に言えば、これは補充=統括の関係とは言えず、統括成分に補充成分が含まれている例である。従って、(9)a、(9)b、(9)cのように文の二つの成分は一つに統合され「踊りを踊る」→「踊る」「絵を えがく」→「えがく」「歌を 唄う」→「唄う」になり得る。

韓国語では、動詞に、先行する目的語の素材概念が完全には含まれないが、やはり二つの成分が統合され一つの語を成し得る(춤φ춘다、그림φ그린다、노래φ부른다)。この際、合成は対格助詞{을/를(ul/lul)}の省略という手段によって起こる。

例文(10)は、形式動詞「する」の実質概念が稀薄であることによって、正常

な補充=統括関係を形成しない例である。これは、逆に補充成分の補充機能が統括成分の統括機能より強いため、「する」はあたかも接尾辞のように補充成分に連結し得る。(10)a、(10)b、(10)cの二つの成分も一つに統合され、「勉強をする」→「勉強する」、「実験をする」→「実験する」、「運動をする」→「運動する」になり得る。

(10)における韓国語の例に対しても同様な説明が可能である。二つの成分が一つの動詞に統合されるのには、やはり助詞{을/를(ul/lul)}が省略される過程を経る。「-하다(hata)」は実質動詞としての機能を喪失し、接辞のように名詞の語基に附くことになる。

すべての体言(補充成分)は本源的に格を持っている。従って、ある特定の格標識によって格が顕示されるか無形化されるかにかかわらず、その格機能はそのまま潜在していると見るのが正しい。つまり、強展叙性を帯びる助詞{が}、{を}、{に}が無形化されても、その格表示の職能は残っているのである。それ故、強展叙性の助詞は標識としては随意的な傾向を示す反面、弱展叙性の助詞は必須的な傾向を示す結果になる。統辞構造の有機的な結束関係が弱ければ弱いほど、標識によって明示化されるのは当然なことである。弱展叙性の助詞{へ}、{と}、{から}、{で}が、英語の「to」、「with」、「from」、「in, at」などの具体的な前置詞に対応するのは、興味深い事実である。

3. 自発的省略

自発的省略とは、格助詞自体の省略性(deletability)に依って省略されることを指す。自発的といっても厳密に言えば、前章で述べた統辞的な統合関係、即ち強展叙性という外在的な環境が随伴される。しかし、これは主格助詞と対格助詞が自ら語彙的要件を具備せず、構文的助詞の特徴を示すことから起こる省略であるため、自発的省略として扱う。

このような省略は大体随意的であるが、時にはその省略が不可能な場合もある。又、省略されなければむしろぎごちない場合もある。そればかりでなく、省略されて用いられるが、省略形と実現形との間に文意の差があって、省略という意義がなくなる場合もある。この場合は、状況指示的な機能が添加されることによって、話し手と聴き手の間の談話的環境と語用論的立場が前提されるのが普通である。

格助詞の省略は、典型的な文でなく、対話体の短い文で多く発生する。これ

は、主格助詞と対格助詞が語彙的機能より状況指示的機能が著しい助詞であるからだと思われる。

(11) a. 너ϕ, 어디 아프니?(ne eti aphu-ni?)　君ϕ、どこか具合悪いの。
　　b. 아니, 괜찮아.(ani, kwaynchanh-a.)　いや、大丈夫。

(12) a. 너ϕ, 춥니?(ne chwup-ni?)　君ϕ、寒いの。
　　b. 그래, 추워.(kulay chwu-wue.)　うん、寒い。

(11)と(12)に対し、主格助詞の実現文である「너**가** 어디 아프니?(ne-**ka** eti aphu-ni?):君**が**どこか具合悪いの。」とか「너**가** 춥니?(ne-**ka** chwup-ni?):君**が**寒いの。」のような疑問文は考えられない。又、その答えにおいても同じである。

(13) a. 아니, 내**가** 괜찮아.
　　ani, nay-ka kwaynchanh-a.
　　いや、僕**が** 大丈夫。
　　b. 아니, 나**는** 괜찮아.
　　ani, na-nun kwaynchanh-a.
　　いや、僕**は** 大丈夫。
　　c. 아니, 나ϕ 괜찮아.
　　ani, na kwaynchanh-a.
　　いや、僕ϕ 大丈夫。
　　d. 아니, 괜찮아.
　　ani, kwaynchanh-a.
　　いや、大丈夫。

いかなる場合でも、(13)aのような答えは成立しない。(13)bの助詞{는(nun)}は、対照(contrast)と旧情報(old information)の機能と関連するので成立する。一般的に正しい答えとしては、(13)cのような主格助詞の非実現形と、(13)dのような文の主語全体が省略された文が挙げられる。

格助詞の省略の統辞的環境とその条件は、両言語間において類似している。

影山太郎(1997:56-57)は、口語体で動詞の直前にある名詞句の助詞が脱落しやすく、非対称自動詞の主語{が}が自然に省略できると述べながら、次の例文を挙げている。

(14) a. 子供達が 本φ 読むのを見たことない。

b. この女性φ 知ってるのは 誰ですか?

(15) a. 交通事故φ 起こるところ 見たことある?

b. 田中さんφ 亡くなったの 知らなかった。

例文(14)は他動詞文、(15)は自動詞文であり、動詞の前にある格助詞{を}と{が}が省略されている。

(16) a. 기분φ 좋은 소식이다.

kipwun coh-un sosik-ita.

b. 달φ 밝은 밤에는 산보라도 한다.

tal palk-un pam-eynun sanpo-lato han-ta.

c. 말φ 많은 사람과는 사귀지 말라.

mal manh-un salam-kwanun sakwi-ci mal-la.

(17) a. 기분**이** 좋은 소식이다.

kipwun-i coh-un sosik-ita.

気分**の** いい 便りだ。

b. 달**이** 밝은 밤에는 산보라도 한다.

tal-i palk-un pam-eynun sanpo-lato han-ta.

月**が(の)** 明るい 夜には 散歩でも する。

c. 말**이** 많은 사람과는 사귀지 말라.

mal-i manh-un salam-kwanun sakwi-ci mal-la.

口数**が(の)** 多い 人とは 付き合うな。

(16)、(17)は冠形化(連体化)された文であり、主格助詞{이(i)}の実現形(17)も成立するが、非実現形(16)のほうがより自然である。これは、慣用化することにより、言い換えれば、どのぐらい話し慣れているかによって当該の文の文法性が決まる可能性を示す。韓国語では、次の対格助詞{을(ul)}の文(18)、(19)においても、同様な傾向が見られる。

(18) a. 꽃에 물φ 주는 사람은 내다.

kkoch-ey mwul cwu-nun salam-un nay-ta.

b. 값φ 올린 물건이 어느것이냐?

kaps olli-n mwulken-i enukes-inya.

c. 손ϕ 씻고 밥 먹어라.

son ssis-ko pap mek-ela.

(19) a. 꽃에 물을 주는 사람은 내다.

kkoch-ey mwul-ul cwunun salam-un nay-ta.

花に 水を やる 人は 私だ。

b. 값을 올린 물건은 어느것이냐?

kaps-ul olli-n mwulken-un enukes-inya?

値段を 上げた 品物は どれなのか。

c. 손을 씻고 밥을 먹어라.

son-ul ssis-ko pap-ul mek-ela.

手を 洗って ご飯を 食べなさい。

主格標識と対格標識の省略は、前述したように主として対話体で多く現れる。これは、対話体自体が話し手と聴き手の間に語用論的な共有認知の場を設定しているからである。この点で対話体の文は文語体の典型的な文型とは異なる。この現象は日本語の場合にも同じである。

(20) a.*今日 雨ϕ 降る。

b. あ、今日 雨ϕ 降ってるね。

c. あ、今日 雨ϕ 降るらしいね。

(21) a. *バスϕ 来た。

b. あ、バスϕ 来たよ。

c. あ、バスϕ 来ました?

(22) a. *雪子は 髪ϕ 長い。

b. 雪子は 髪ϕ 長いね。

c. 雪子は 髪ϕ 長いよね。

(23) a. *本ϕ 読む。

b. 本ϕ 読んでるよ。

c. 本ϕ 読みなさい。

d. 本ϕ 読んでください。

(24) a. *太郎は ご飯φ 食べる。
b. 太郎は ご飯φ 食べる?
c. 太郎は ご飯φ 食べた?
d. 太郎は ご飯φ 食べたい。

(25) a. *次郎は 海で 魚φ 釣る。
b. 次郎は 海で 魚φ 釣ったよ。
c. 次郎は 海で 魚φ 釣った?

(20)(21)(22)は主格助詞{が}の省略文であり、(23)(24)(25)は対格助詞{を}の省略文である。各々の文のaを見ればはっきり分かるように、主格助詞{が}と対格助詞{を}が省略されれば、非常にぎごちない非文となってしまう。しかし、b、c、dの対話体の文の場合は助詞が省略されても自然な文である。

両言語を比較すれば、各々の文のaに関するぎごちなさの度合は、韓国語の場合は、日本語に比べれば許容度が上がる。この事実から考えると、韓国語の主格助詞と対格助詞の省略性は、日本語のそれより高いという結論になる。日本語において各々文aに対応する次のような韓国語文(26)は大体許容される文である。

(26) a. 비φ 온다.
pi on-ta.
b. 버스φ 왔다.
pesu wass-ta.
c. ?유끼고는 머리φ 길다.
yukkiko-nun meli kil-ta.
d. 책φ 읽는다.
chayk ilk-nun-ta.
e. 철수는 밥φ 먹는다.
chelswu-nun pap mek-nun-ta.
f. 영수는 바다에서 고기φ 잡는다.
yengswu-nun pata-eyse koki cap-nun-ta.

4. 他律的省略

渡辺実(1971:187)は、次の例文を取りあげて強展叙性を持つ格助詞{が}、{を}、{に}の省略(無形化)に関する度合をチェックしている。

(27) a. 桜の花**が**ばかりさいている。
b. フランス語の本**を**ばかり読んでいる。
c. 富士山**に**ばかり登りたがる。

強展叙性の度合は{が}、{を}、{に}の順で、これは無形化する度合の順と一致する。主格{が}に副助詞が後接できないのは{が}の強展叙性のためであり、{に}は{が}より弱展叙性を持っているので副助詞の後接が可能であり、{を}は{が}と{に}の中間者である。

結果的に、格助詞の後に副助詞が連結するか否かは、先行する格助詞の省略性如何と関係し、その省略されるか否かは展叙の強弱に依存すると言える。

しかし、副助詞の前での格助詞の省略は、主格助詞の場合は必須的であるので、{を}、{に}のような随意的な場合とは異なる。前章で述べた格助詞の自発的省略の場合は、実現と非実現が随意的であるが、{が}のような必須的である場合は、自発的省略とは異なって、後行する副助詞の影響によるという他律的省略として考えるのが妥当であろう。韓国語の場合は、主格助詞ばかりでなく対格助詞においても、特殊助詞の前での省略は必須的である。即ち、韓国語助詞の承接関係を考えて見ると、対格助詞{을/를(ul/lul)}の後には何の特殊助詞も連結できないということは特異である。助詞{을/를(ul/lul)}の強展叙性の度合は、日本語のように主格助詞{이/가(i/ka)}と処格助詞{에(ey)}の中間者ではなく、{이/가(i/ka)}と対等なレベルになる。日・韓両言語の強展叙性の対応助詞を、渡辺の立論によって対比・分類すれば、次のようになる。

連用展叙 ＼ 現象	強展叙					
	日本語			韓国語		
	が	を	に	이/가 (i/ka)	을/를 (ul/lul)	에 (ey)
無形化	○	○	○	○	○	○
有形無実化	×	×	×	×	×	×
係助詞下位承接	×	×	○	×	×	○
副助詞下位承接	×	○	○	×	×	○

上の表で明らかに示したように、強展叙性格助詞の無形化・有形無実化・係助詞(A類副助詞)下位承接に関しては、両国語の対応語が大体同じ傾向を見せているが、副助詞(B類副助詞)下位承接に関しては異質的であることが分かる。

この図は、日本語の強展叙性助詞どうしの近親性が「(が)/(を、に)」のようになっているが、韓国語では「(이、을)/(에):(i,ul)/(ey)」となっているということを示している。即ち、日本語の対格助詞{を}は、連用修飾格助詞{に}、{と}、{から}、{へ}、{で}と同じ範疇に属する性格を持っているのに対して、韓国語の対格助詞{을/를(ul/lul)}は{에(ey)}、{에게(eykey)}、{로(lo)}、{와/과(wa/kwa)}などの助詞とは異質的な性格を有しており、異質的な助詞として処理すべきであることを示している。

実際、韓国語の伝統文法の枠組みを見ると、文を形成する成分の中には主語と叙述語がある。叙述語が他動詞である場合は、目的語が主成分の要素となり、叙述語が不完全動詞である場合は、補語が主成分となる。一方、冠形語(連体語)と副詞語(連用語)は修飾成分である補助成分となる。このような枠組みでは、格形態も主格助詞と対格助詞と補格助詞は主要格助詞として扱われ、冠形格(連体格)と副詞格(連用格)助詞は補助格助詞として扱われる。従って、対格助詞と副詞格助詞とは同一の範疇にはならない。常に対格助詞は主格助詞と同等なレベルに置かれるべき格標識として認識される。

連用修飾格とは、連体修飾格に対する術語である。主格や対格も結局は叙述語の統括機能に関与する補充修飾格であるが、叙述語に対して必須的な成分になるという点で他の連用修飾格とは区別される。

つまり、対格助詞{을/를(ul/lul)}は、他の連用修飾格(副詞格)助詞とは異なる機能語であり、主格助詞と同じ枠に属する助詞である。対格助詞は語彙的な格助詞でないという点と、構文的な論理性だけを表わす格助詞であるという点で、他の副詞格助詞とは異なる。

(28) a. 새**가** 날아간다.(say-ka nalaka-n-ta.)
b. *새가만 날아간다.(*say-ka-man nalaka-n-ta.)
c. 새만 날아간다.(say-man nalaka-n-ta.)
d. 새만**이** 날아간다.(say-man-i nalakan-ta.)

(29) a. 빵**을** 먹는다.(ppang-ul mek-nun-ta.)

b. *빵을만 먹는다.(*ppang-ul-man mek-nun-ta.)

c. 빵만 먹는다.(ppang-man mek-nun-ta.)

d. 빵만을 먹는다.(ppang-man-ul mek-nun-ta.)

(29)の対格助詞{을/를(ul/lul)}は、分布上から見ると、(28)の主格助詞{이/가(i/ka)}の場合とまったく同じである。各々の文におけるaは、格助詞の実現文である。各々の文aに対し、bはその後に特殊助詞が来る場合であるが、必須的に省略されなければならないので非文となる、つまりbから格助詞が削除された文cは成立する。各々の文のおけるdは、特殊助詞{만(man)}の準体言的な前接機能によって格助詞と位置転換した文である。

もし後行する特殊助詞が前接機能の低いA類であるとすれば、前述した{만(man)}の場合とはその振る舞いが異なる。A類特殊助詞{도(to)}({も})の場合を考えてみよう。

(30) a. 새가 날아간다.(say-ka nalaka-n-ta.)

b. *새가도 날아간다.(*say-ka-to nalaka-n-ta.)

c. 새도 날아간다.(say-to nalaka-n-ta.)

d. *새도가 날아간다.(*say-to-ka nalaka-n-ta.)

(31) a. 빵을 먹는다.(ppang-ul mek-nun-ta.)

b. *빵을도 먹는다.(*ppang-ul-to mek-nun-ta.)

c. 빵도 먹는다.(ppang-to mek-nun-ta.)

d. *빵도를 먹는다.(*ppang-to-lul mek-nun-ta.)

(30)と(31)のdが成立しないのは、特殊助詞{도(to)}が前接機能を持っていないからである。次に示す例は、前述した韓国語の(28)、(29)に対する日本語の例である。日本語では、主格助詞{が}が対格助詞{を}とは違う振る舞いを示していることがよく分かる。

(32) a. 鳥が飛んで行く。

b. *鳥がだけ飛んで行く。

c. 鳥だけ飛んで行く。

d. 鳥だけが飛んで行く。

(33) a. パンを食べる。

b. ?パンをだけ食べる。

c. パンだけ食べる。

d. パンだけを食べる。

(33)の{を}の場合は、(33)bの{が}とは異なる分布を見せる。即ち、副助詞の前で{を}が実現され得るのである。しかし、(33)bと(33)cで見たように、その省略は随意的である。又、準体的機能の強い{だけ}と位置転換した(33)dも成立する。(33)bと(33)dが完全な同意文なのかという問題が提起されるが、形態的な面で(33)dが成立するのは確かに{だけ}の準体言的機能のためであると思われる。準体的機能のない係助詞(A類副助詞){は}や{でも}の後では、{を}が実現されないからである。次の(34)cは成立しない。

(34) a. *パンをは(でも)食べる。

b. パンは(でも)食べる。

c. *パンは(でも)を食べる。

一般的に韓国語の副詞格助詞は、いかなる特殊助詞が後行しても省略されない傾向がある。副詞格助詞は固有の語彙的意味を持っているため、もし省略されてしまうと、その格意味が曖昧になるおそれがあるからである。ただ、文脈か語辞環境によってその格意味が明確に露出する場合は、一部の副詞格助詞に限って随意的な削除が可能である。処格助詞{에(ey)}の例がそうである。

(35) a. 여기에 비가 온다.

yeki-ey pi-ka on-ta.

ここに 雨が 降る。

b. 여기에{는, 도, 만} 비가 온다.

yeki-ey{nun, to, man} pi-ka on-ta.

ここに{は、も、だけ} 雨が 降る。

c. 여기 ϕ {는, 도, 만} 비가 온다.

yeki {nun, to, man} pi-ka on-ta.

?ここ ϕ {は、も、だけ} 雨が 降る。

d. *여기{는, 도, 만}에 비가 온다.

*yeki{nun, to, man}ey pi-ka on-ta.

ここ{*は、*も、だけ}に 雨が 降る。

例文(35)bは、特殊助詞の前に格助詞が実現された文であり、(35)cは格助詞の非実現文である。(35)cが可能になる理由は、その被接語の{여기(yeki)(ここ)}が明確な場所を表わす語であるからである。しかし、格助詞が後行する(35)dは成立しない。このような事実からも、処格助詞{에(ey)}と主格助詞{이/가(i/ka)}や対格助詞{을/를(ul/lul)}との違いがはっきり分かる。

元来、体言の格標識化は、意味限定より優先視される要素であるため、格助詞が特殊助詞に前置するのが正順である(洪思満 1989:258)。但し、前接性の高いB類副助詞の前置が可能であるということは、その副助詞の特殊な機能として認定しなければならない。

次に示す例のように、手段を表わす助詞{で}は、副助詞{だけ}の前と後の両方に分布する。

(36) a. 注射で<u>だけ</u> なおせる。
　　 b. 注射<u>だけ</u>で なおせる。

前後の両方が可能であるなら、両者を区別するための機能の相異点が派生するはずである。(36)aの意味は、"注射以外ではなおせない"と解義されるが、(36)bはその意味と共に"注射以外の手段を使ってもなおせるが、注射で十分なおせる"という意味が含まれている。根本的には、格助詞の前置文(36)aが正常であるが、{だけ}の前接機能による倒置形態の(36)bが派生することによって、その意味も微細な語用論的意味が附加されたと思われる。何故なら、このような同一例が、前接機能のないA類副助詞(係助詞)の場合には予想されないからである。次のような格助詞の後置文(37)bは成立しない。

(37) a. 注射で{は、も、でも} なおせる。
　　 b. *注射{は、も、でも}で なおせる。

さて、前述した(35)のように、格助詞{에}の非実現形である(35)cが成立する例もあるが、あくまでも格助詞の実現文(35)bが正常的で明確な意味を露呈すると考えられる。

(38) a.	학교로<u>만</u> 간다	hakkyo-lo-man kan-ta.	学校へ<u>だけ</u> 行く。
b.	?학교<u>만</u> 간다.	?hakkyo-man kan-ta.	?学校<u>だけ</u> 行く。
c.	*학교<u>만</u>으로 간다.	*hakkyo-man-ulo kan-ta.	学校<u>だけ</u>へ 行く。

(39) a. 나에게만 말한다.　na-eykey-man mal-han-ta.　私にだけ 話す。
b *나만 말한다.　*na-man mal-han-ta.　*私だけ 話す。
c *나만에게 말한다.　*na-man-eykey mal-han-ta.　私だけに 話す。

(40) a. 집에서만 논다.　cip-eyse-man non-ta.　家でだけ 遊ぶ。
b. *집만 논다.　*cip-man non-ta.　*家だけ 遊ぶ。
c. *집만에서 논다.　*cip-man-eyse non-ta.　家だけで 遊ぶ。

(38)(39)(40)における副詞格(連用修飾格)助詞を省略した各々のbは、大体非文法的な文であるか、曖昧な意味の文になってしまう。(39)、(40)の各bが両国語で共に非文となるのは、後行する動詞だけで判断すれば、前の成分が主語になってしまい、与格と処格の格意味が読みとれなくなってしまうからである。結局副詞格標識は、その実現によって文の格意味を明確にする役割を担うと言える。

(38)(39)(40)における両言語の違いは、各々のcの成立の可否である。韓国語の場合、{만(man)}には準体的な前接機能があり、格助詞の種類によっては{만}が格助詞に前置可能なケースがある。しかし(38)(39)(40)に示したように{에서(eyse)}に前置した例は成立しない。一方、日本語では、各々のcに見られるように問題なく成立しており、韓国語とは対照的である。この事実から考えてみると、韓国語の主格と対格は、副詞格(連用修飾格)とは遥かに遠い距離に存立する格形態であるのがよく分かる。

つまり、副詞格助詞の随意的省略は、副詞格助詞が省略されても文の成分においては如何なる変化も起らない場合にだけ、その省略が可能になるということである。

弱展叙性の助詞{로(lo)}と{와/과(wa/kwa)}については、格助詞の非実現は全く成立しない。

(41) a. 나무로 책상 만든다.
namu-lo chayksang mantu-n-ta.
木で 机を 作る。
b. *나무φ 책상 만든다.
*namu chayksang mantu-n-ta.
*木φ 机を 作る。

c. 나무로{는, 도, 만} 책상 만든다.
namu-lo{nun, to, man} chayksang mantu-n-ta.
木で{は、も、だけ} 机を 作る。

d. *나무{는, 도, 만} 책상 만든다.
*namu{nun, to, man} chayksang mantu-n-ta.
*木{は、も、だけ} 机を 作る。

e. 나무{*는, *도, 만}(으)로 책상 만든다.
namu{*nun, *to, man}(u)lo chayksang mantu-n-ta.
木{*は、*も、だけ}で 机を 作る。

(42) a. 개가 고양이와 싸운다.
kay-ka koyangi-wa ssawu-n-ta.
犬が 猫と 争う。

b. *개가 고양이 ϕ 싸운다.
*kay-ka koyangi ssawu-n-ta.
*犬が 猫 ϕ 争う。

c. 개가 고양이와{는, 도, 만} 싸운다.
kay-ka koyangi-wa{nun, to, man} ssawu-n-ta.
犬が 猫と{は、も、だけ} 争う。

d. 개가 고양이{*는, *도, 만}와(과) 싸운다.
kay-ka koyangi{*nun, *to, man}wa(kwa) ssawu-n-ta.
犬が 猫{*は、*も、だけ}と 争う。

(41)(42)の各bとdのような文では、造格助詞{로(lo)}と共同格助詞{와/과(wa/kwa)}の省略は絶対に起こらない。(41)dの格助詞の非実現文では、両国語共に「나무(namwu)(木)」が文の主語の位置に置かれることになって、{는, 도, 만}が省略されれば、格意味に混乱が生ずるので省略が不可となる。又、韓国語の場合、(41)e、(42)dのように格助詞が特殊助詞に後行する形態も、特殊助詞の種類によって非受容的な文となる。

総合的にまとめてみると、韓国語の格助詞と、後行する特殊助詞との複合関係で惹起する格助詞の省略(非実現)の可否は、格助詞の種類によって次の三つの部類に分けられる。

$$\alpha + \begin{cases} \text{이/가(i/ka)} \\ \text{을/를(ul/lul)} \end{cases} + \text{del} \rightarrow 1 + \phi + 3 \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (\text{I})$$

$$\alpha + \begin{cases} \text{에(ey)} \\ \text{에게(eykey)} \end{cases} + \text{del} \rightarrow 1 + 2(\phi) + 3 \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (\text{II})$$

$$\alpha + \begin{cases} \text{로(lo)} \\ \text{에서(eyse)} \\ \text{와/과(wa/kwa)} \end{cases} + \text{del} \rightarrow 1 + 2 + 3 \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots (\text{III})$$

1　　2　　3

先ず、類型(Ⅰ)は、特殊助詞の前で、主格と対格の格助詞が義務的に省略される場合であり、これらの格は他の格とは格の性格が異なる。主格と対格は、具体的な格の意味が欠如している格であり、その標識が省略されても文意の伝達においては何の支障も起こさない。これらの標識については、具体的な格意味を優先視する格助詞の領域とは区別し、一種の構文助詞である「主語助詞」「目的語助詞」とする。

次は、原則的には格助詞が実現するが、その省略が随意的に行なわれる類型(Ⅱ)と、全く省略されない類型(Ⅲ)が挙げられる。類型ⅡとⅢに属する格には、従来の先行研究でいわゆる副詞格として分類されてきた、具体的な意味を持つ内面格がある。類型(Ⅱ)は、実現と省略の両方が可能である。しかし、格助詞の実現した文のほうが省略された文より意味的に明確で自然な文であり、省略文も非文ではないが、何かぎごちない文となる。なお、類型(Ⅲ)は、格助詞の省略されると非文になる類型である。

日本語の格助詞の非実現形においては、対格助詞{を}が韓国語の場合とは異なる。

$$\alpha + \text{が} + \text{del} \rightarrow 1 + \phi + 3 \cdots\cdots\cdots\cdots (\text{I})$$

$$\alpha + \begin{cases} \text{を} \\ \text{に} \end{cases} + \text{del} \rightarrow 1 + 2(\phi) + 3 \cdots\cdots\cdots\cdots (\text{II})$$

$$\alpha + \begin{bmatrix} で \\ と \\ から \end{bmatrix} + \text{del} \rightarrow 1 + 2 + 3 \quad \cdots\cdots\cdots\cdots \quad (\text{III})$$

1　　2　　3

類型(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)に対する説明は、韓国語の場合と同じであるが、対格助詞{を}が類型(Ⅰ)でなく類型(Ⅱ)に属しているのが韓国語とは異なる。この他にも、格助詞が特殊助詞(副助詞)との複合形態を同伴する際、両国語間には大きな違いが見られる。

次の表は、韓国語の格助詞が特殊助詞に先行又は後行し得る分布を表わしたものである。

	A類特殊助詞	B類特殊助詞
이/가(i/ka)	-/-	-/+
을/를(ul/lul)	-/-	-/+
에(ey)	+/-	+/-
에게(eykey)	+/-	+/-(+)
에서(eyse)	+/-	+/-
로(lo)	+/-	+/-(+)
와/과(wa/kwa)	+/-	+/-

＊ 格助詞先行/格助詞後行

表で、+は複合可能、-は複合不可を表示しているが、各欄が示す記号の組み合わせは四つに分けられる。-/-、-/+、+/-、+/+がそれである。特に、右端、即ち格標識の後行する場合であるが、体言的な特性を示すB類特殊助詞の複合、可能の表示(+)が多く見られている。

格助詞と特殊(副)助詞との複合可否は、結果的に格助詞の省略と結び付けられるのである。両者の複合で、特殊(副)助詞の方は具体的な意味を持つ形態素であるため省略されない。従って、複合不可は、格助詞の方の省略として考えるべきである。これに比べて、日本語の格助詞の場合は次のようである。

	A類副助詞	B類副助詞
が	−/−	−/+
を	−(+)/−	+/+
に	+/−	+/+
へ	+/−	+/+
で	+/−	+/+
と	+/−	+/+

格助詞の省略に関する限り、韓国語では主格助詞と対格助詞が一つの枠にある。しかし、日本語では、対格助詞{を}が他の連用修飾格助詞と同じ様態を見せているという差異がある。なお、B類副助詞の後にあらゆる格助詞が複合できるという事実は、韓国語との大きな相違点として挙げられる。

5. 終わり

格助詞の省略は、韓・日両言語において同一の格範疇と同一の文法的環境条件で起こる。一般的に省略が起こる傾向としては、話し手と聴き手が共知している既知の事実から起こりやすいが、格助詞の省略においても同じ傾向を示す。省略は、格標識が無標化しても文意には何の影響も及ぼさない範囲で行なわれる。なお、両言語で省略され得る格標識には、主格助詞と対格助詞、そして処格助詞がある。これらは、渡辺(1971)の説明に依れば、強展叙性を持つ助詞であり、構文的な統合関係で格意味が自動的に露出する部類である。強展叙性を持つ助詞の共通的な特徴としては、語彙性の欠如と共に構文的な論理性が強いという事実が挙げられる。渡辺(1971)の強展叙性とは、弱語彙性と弱標識性のことを意味する。語彙性の強い弱展叙性助詞は絶対に省略できない。これは、相対的に強標識性を持つことによって、標識が必ず実現されて文意の曖昧性を克服するからである。

韓国語で、このような現象が助詞の省略なのか非実現なのかという問題については、筆者は省略として扱うべきであり、また零標識はその省略の結果物として処理すべきであると考えている。従って、曲用表に別個の零標識(ϕ)の欄を設定する必要はなく、標識が省略(零化)されても、その機能までがなくなるということはない。このように考える論拠は、日本語にも格助詞の省略の現象があるが、その省略の度合は韓国語より弱く、また省略文と実現文との文意の

差も韓国語ほど明瞭でないという事実が挙げられる。

韓国語における格助詞の実現文と非実現文との文意の違いは、その状況指示の機能の面で著しく現れる。しかし、このような意味差は、もともと両言語の弁別的な要素として存在しているのではなく、その省略の過程で派生したものと考えられる。従って、格標識と零標識とを異なる機能語として考えず、零標識は格標識の省略の産物として処理すべきである。

韓・日両言語における主格助詞と対格助詞は、その分布の面において大きな違いが見られる。現代韓国語の主格助詞{이/가(i/ka)}と対格助詞{을/를(ul/lul)}は格標識の範疇から離れて、あたかも特殊助詞か添辞の領域に近い印象が強い。その分布状況を見れば、体言に対する格標識としての本来の職能から離れて、用言の語尾や副詞の下にも直接附く場合が多い。このような現象は、格助詞の過度な推移によってその格表示機能が変容してしまったことから起こると思われる。このような説明が妥当なのは、言語普遍性という観点から見て、同様な現象が日本語にはほとんど現れなくことからも確認できる。

格助詞の省略は自発的省略と他律的省略に分けられる。自発的省略とは、格標識自体の特性に依る省略である。即ち、格助詞の備えている強展叙性と発話局面の既知の情報に依る省略である。韓・日両言語で格助詞が頻繁に省略されるのは典型的な文語体でなく対話体である。これは、話し手と聴き手の間に既知の情報場が形成されているからである。つまり、格助詞の省略も既知の古い情報要素が削除されるに過ぎない。

一方、他律的省略とは他の文法要素に依って省略される現象のことを指す。主として副(特殊)助詞との複合形態で格助詞が省略される場合である。副(特殊)助詞は固有な意味を持っており、それが省略されてしまう文意の変化が起こるため、格助詞の方が省略されるしかないのである。副(特殊)助詞の前で格助詞が省略される場合について韓・日両言語を比較してみると、韓国語では主格助詞{이/가(i/ka)}と対格助詞{을/를(ul/lul)}が必須的に省略されるのに対し、日本語では対格助詞{を}が随意的に省略されるという点で両言語は異なる。両言語の対格助詞は様々な側面で相異な性格を持っている。韓国語の対格助詞は主格助詞と共に骨格的な格体系を形成するのに対し、日本語の対格助詞は主格助詞より連用修飾格との近親性を示している。結果的に、強展叙性の三助詞どうしの近親度は、韓国語では「主格・対格/処格」の傾向を示すが、日本語では「主格/対格・処格」の傾向を示す。

特殊(副)助詞が副詞格(連用修飾格)助詞と複合する際、格助詞が先行するのが原則である。これは、体言の格機能が意味限定機能より優先視されることを意味する。しかし、日本語のB類副助詞(だけ、ばかり、くらい、まで等)の大部分は、{が}以外の連用修飾格助詞の前か後のどこにも配列できる可能性がある。B類副助詞が格助詞の前に配列可能になる理由は、B類副助詞の持つ強力な前接的機能により、格助詞に前置して化石化したことに過ぎないと思われる。B類副助詞とは対照的に前接機能の低いA類副助詞(は、も、でも等)には、格助詞の前に配列する形態が存在しないことからも確認することができる。

意味の面から見た前後両用形の機能差は、格関係概念をも含めた素材概念を限定するか、体言の素材概念だけを限定するか、という限定範囲の差である。しかし、両用形に生じる微細な意味差は、両用形ができたことによって派生・附加された状況的な意味によるものと考えられる。これに反して、韓国語の副詞格助詞は特殊助詞の前には配列できるが、後には配列できない。

参考文献

高永根(1968), "주격조사의 한 종류에 대하여", 남기심 외 편(1975)

_____(1983), 国語文法의 研究, 塔出版社.

金光海(1981), "'의'의 意味", 서울大大学院 教育学碩士学位論文.

김민수(1970), "국어의 격에 대하여", 「국어국문학」 49・50.

김승곤(1972), "국어조사의 직능고", 「국어국문학」 58-60.

_____(1992), 국어 토씨 연구, 서광학술자료사.

김영희(1991), "무표격의 조건", 「언어논총」 9, 계명대 언어연구소.

김완진(1970), "문접속의 '와' 와 구접속의 '와'", 남기심 외 편(1975).

김용석(1979), "목적어 조사 '을/를'에 관하여", 「말」 4, 연세대.

김일웅(1986), "생략의 유형", 「국어학신연구」, 탑출판사.

김한곤(1967), "A Semantic Analysis of the Topic Particles", 「어학연구」 3-2.

김홍수(1982), "원인의 '에'와 '로'에 대하여", 「국어문학」 22, 전북대.

남기심・고영근・이익섭(편)(1975), 현대국어문법, 계명대학 출판부.

마르띤 프로스트(1981), "조사 생략 문제에 관하여", 「한글」 171.

閔賢植(1982), "現代国語의 格에 대한 研究", 「国語研究」 49, 서울대.

박양규(1972), "국어 처격에 대한 연구", 「국어연구」 27, 서울대.

_____(1980), "주어의 생략에 대하여", 「국어학」 9.

송석중(1982), "조사 '과', '를', '에'의 의미분석", 「말」 7, 연세대.

신익성(1968), "격에 관하여", 「한글」 141.

_____(역)(1975), "격의 일반론", 「한글」 156.
신창순(1976), "국어 조사의 연구", 「국어국문학」 71.
申鉉淑(1982), "목적격 표지 '-를'의 의미연구", 「언어」 7-1.
安秉禧(1966), "不定格(Casus Indefinitus)의 定立을 위하여", 남기심 외 편(1975).
柳東碩(1984), "様態助詞의 通報機能에 대한 研究, -'이', '을', '은'을 중심으로-", 「国語研究」 60, 서울대.
_____(1988), "시간어에 대한 量化論的 解釈과 助詞 '에' : ϕ ", 「周時経学報」 1.
_____(1990), "조사생략", 「국어연구 어디까지 왔나」, 동아출판사.
李基東(1981), "언어와 의식", 「말」 6, 연세대 어학당.
李南淳(1988), 国語의 不定格과 格標識 省略, 塔出版社.
_____(1998), 格과 格標識, 月印.
李翊燮・任洪彬(1983), 国語文法論, 学研社.
李弼永(1982), "助詞 '가/이'의 意味分析", 「而凡 崔学根教授 華甲紀念論叢」.
洪思満(1975), "国語 Postposition의 格에 対한 無標性 研究", 「語文学」 33, 韓国語文学会.
_____(1989), 現代韓国語の特殊助詞の研究, -日本語の副助詞との対比を中心に-, 慶北大 出版部.
_____(1995), 한・일어대조어학/논고, 塔出版社.
奥津敬一郎 外(1984), いわゆる日本語助詞の研究, にほんごの凡人社.
影山太郎(1997), 文法と語形成, ひつじ書房.
北原保雄(1981), 日本語助動詞研究, 大修館.
_____外(編)(1981), 日本文法事典, 有精堂.
_____(1984a), 日本語文法の焦点, 教育出版.
_____(1984b), 文法的に考える -日本語の表現と文法-, 大修館.
久野暲(1973), 日本文法研究, 大修館.
_____(1978), 談話の文法, 大修館.
_____(1983), 新日本文法研究, 大修館.
黒田成行(1965), "「ガ」「ヲ」および「ニ」について", 「国語学」 63, 国語学会.
渡辺実(1971), 国語構文論, 塙書房.
Ramstedt(1937), *A Korean Grammar*, Helsinki: Suomalais-Ugrilainen (歴代文法大系 2-18), 塔出版社.

「ある/いる」と「iss-ta(있다)」
—日韓対照の観点から—

安　平鎬

0. 概観

本稿は、日本語の「ある/いる」と韓国語の「iss-ta(있다)」について比較対照することを目的とする[*1]。以下では、日本語の「ある/いる」と韓国語の「iss-ta(있다)」を述語とする文について考察を加え、「両言語間には具体的にどのような違いがあるか」という問題について詳しく論ずる。所有の意味を表す場合については、考察の対象としない。

先行研究では、「ある/いる」と「iss-ta」について、一般的に二つの意味を表すと説明している。具体的には、「ある/いる」と「iss-ta」は、「存在(所在も含めて)」と「所有」の意味を表すと説明する。なお、既に多くの先行研究において、日本語の「ある/いる」と韓国語の「iss-ta」が、語彙的な意味だけではなく、これらの動詞を述語とする「存在構文」と「所有構文」に見られる構文的な特徴に関してもかなり類似する、ということが報告されている。(1)(2)と(4)(5)(6)は、存在の意味を表す—特に(2)と(6)は、出来事の存在を表す—例であり、(3)と(7)(8)は、所有の意味を表す例である。

(1)a　あの辺に筑波大学がある。
　　b　あんなところにトカゲがいる。
(2)a　近くで交通事故があったらしい。
　　b　土曜日の三時から総合体育館でバレーボール大会がある。
(3)a　花子には兄弟がいる/ある。
　　b　太郎は財産がある。

日本語の場合は、(1)a のように存在の主体がもの(無情の主体)である場合

*1　韓国語表記は、Yale 式ローマ字表記法を用いる。韓国語の例文に関しては、基本的にはローマ字表記を用いるが、必要に応じて原文とローマ字表記を併用する場合もある。なお、本稿は、筆者が現在作成中の『韓国語動詞述語文に関する用例辞典』の内容の一部と重なる。

には「ある」が用いられ、(1)b のように人または動物(有情の主体)である場合には、「いる」がそれぞれ用いられる。

(4) hakkyo aph-ey pesu cengkecang-i iss-ta.
学校 前 に バス 停留所 がある
学校の前にバス停がある。

(5) talo -nun cikum kyosil-ey iss-ta.
太郎 は 今 教室 に いる
太郎は今教室にいる。

(6) kunche-eyse sako -ka iss -ess-ten kes kath-ta.
近く で 事故 が あるタ の ようだ(らしい)
近くで事故があったらしい。

(7) nay-keyto kumanhan ton -i iss-ta.
僕 に も それくらいの お金 が ある。
僕にもそれくらいのお金がある。

(8) talo -eykeynun yeyppun ttal-i iss-ta.
太郎 に は かわいい 娘 が いる
太郎にはかわいい娘がいる。

(4)と(5)に示しているように、韓国語の「iss-ta」には、日本語に見られるような「ある」と「いる」の対立が存在しない。韓国語の「iss-ta」に関するこのような特徴は、(7)(8)の所有の場合も同様である。

存在の意味を表す「iss-ta」を述語とする文(以下では「存在構文」と呼ぶ)は、一般的に(4)のように「NP-ey → NP-i/ka → iss-ta(NP-에→ NP-이/가→있다)」という語順になる。存在構文の述語の「iss-ta」は、存在の場所を表す「ey(에)格」と存在の主体を表す「i/ka(이/가)」格を項(argument)として要求する。

(4)' * hakkyo aph-eyse pesu cengkecang-i iss-ta.
学校 前 で バス 停留所 がある

(5)' * talo -nun cikum kyosil-eyse iss-ta.
太郎 は 今 教室 で いる

(9) tayhaklo-eyse(*ey) khephicem-ul wunyengha-nun o-mo-ssi,…
大学路 で (*に) コーヒー店 を 運営 する 呉 某 氏,…

大学路でコーヒー店を経営している呉某氏、…　　(KAIST-2921[*2])

(10)　talli-nun paykma wi-eyse(*ey) ssoa-olli　-n hwal-i cangkki-lul …(高[*3])
走る　白馬　上で　(*に)　射るあげる　タ　矢　が　雉　を
走る白馬の上で射た矢が雉を…

場所(location)を表す格成分に関して、日本語で見られるようなニ格とデ格の区別が韓国語にも存在する。(4)と(4)'、(5)と(5)'、(9)、(10)のような文における「ey 格」と「eyse(에서)格」は、それぞれ「存在の場所」と「行為が行われる場所」の意味を表す。また、(4)(5)(9)(10)において「ey 格」と「eyse 格」を入れ替えることはできない。

(11)　talo-nun cikum tosesil-eyse kongpwu-lul ha　-ko iss-ta.
太郎は　今　図書室で　勉強　を　するテイル
太郎は今図書室で勉強をしている。

(12)　tam mith-ey cilengi-ka cwuk-e iss-ta. (KAIST-2522)
塀　下　に　ミミズが　死ぬ　テイル
塀の下にミミズが死んでいる。

「iss-ta」には、(11)のように「動詞語幹＋ ko iss-ta(-고 있다)」という形で、または、(12)のように「動詞語幹＋ e(a)iss-ta(-어/아 있다)」という形で「継続相(動作の継続・結果の継続)」を表す用法があり、日本語の「動詞＋テイル(テアル)」と同様に、アスペクト的な意味を表す補助用言として用いられる。

以上ではごく簡単ではあるが、日本語の「ある/いる」と韓国語の「iss-ta」について概観した。しかし、以上で述べた説明だけでは、韓国語の「iss-ta」に関して、「iss-ta」には日本語の「ある」と「いる」のような使い分けが存在しないという違いを除けば、日本語の「ある/いる」と比べて何も違いがないという結論になってしまう。この結論のままでは、後述するような「ある/い

---

*2　(KAIST-番号)；番号は、KAIST コーパスの例文(語節)番号である。なお、作品の出典については、『CD-ROM 版 대한민국 국어 정보베이스Ⅱ(大韓民国国語情報ベースⅡ)For Evaluation Only 98.12』KAIST(Korea Terminology Research Center for Language and Knowledge Engineering, 韓国科学技術院・専門用語言語工学研究センター)を参照されたい。インターネット上における検索サイトのアドレスは、次の通りである。(http://csfive.kaist.ac.kr/kcp/)

*3　(高)：Yu, Kum-Ho(유 금호, 1992)『高麗舞・上』世界日報

る」と「iss-ta」を述語とする文に見られる違いについて、適切な説明ができなくなるおそれがある。

次節からは、具体的に日本語の「ある/いる」と韓国語の「iss-ta(있다)」について、「両言語間には具体的にどのような違いがあるか」という視点から詳しく論ずる。

1. 韓国語の「iss-ta」について

一般的に韓国語の「iss-ta」には、動詞的な用法と形容詞的な用法があると指摘されている*4。「動詞的な用法」とは、「iss-ta」を述語とする文の主語が有情名詞である場合、「iss-ta」という行為の意図性(volition)に関する問題—主語が動作主(agent)として解釈されるかどうかの問題である。「iss-ta」の動詞的な用法としては、具体的に次のような現象が取りあげられている*5。

—「cal(잘)」「phyenhi(편히)」「annyenghi(안녕히)」などの副詞と共起可能である。
—「命令」等の用法がある。
—「意図」を表すとされる「iss-kess-ta(있겠다)」「iss-ulyeko-hanta(있으려고 한다)」という表現が成立する。
—「iss-nun-ta」のように「-n-ta」が可能である。

本節では、この中で、副詞との共起関係と「iss-n-ta(있-는-다)」について詳しく述べる。

1.1. 副詞成分との共起関係

(13) 東京にはまだしばらくいるから時々遊びにくるといって、春雨は帰って行った。 (三浦*6)

---

*4 「iss-ta」を品詞分類する際に、一部の先行研究では「iss-ta」のもつ特殊性(「動詞的な性質」と「形容詞的な性質」を同時にもつ)を理由に、「存在詞」という新たな品詞をもうけている研究者もいる。

*5 「動詞的な用法」という用語における「動詞」は品詞分類上の用語ではない。本稿では、「iss-ta」に関する先行研究で一般的に用いられている用語(「動詞的な用法」と「形容詞的な用法」)に従っている。

*6 (三浦):『塩狩峠』三浦綾子(新潮文庫 CD-ROM 版)

(14)　「一年に一度でいいからいらっしゃいね。私のここにいる間は、一年に一度、きっといらっしゃいね。」　(川端[*7])

日本語の「いる」には、(13)(14)のように、本稿のいう「動詞的な用法(言うまでもなく「有情の主体」の場合)」がある。(13)は、「しばらく」という期間を表す副詞と共起しているが、動作主が「いる(滞在する)」という動作を持続する期間の意味を表す。「しばらく」が指す期間は、(発話時を含めて)未来のこと—発話時における状態ではない—である。なお、(15)(16)のような命令的な表現が成立しており、「いる」の動詞的な用法を再確認することができる。

(15)　いやよ。ここにいなさい。　(川端)

(16)　それで正月上京なさる津枝さんにお前を見舞って頂くことにした。その積りでいなさい。　(梶井[*8])

次は—上の(13)(14)と(15)(16)から確認した—動詞的(—状態的)な「いる」を述語とする文中に、いわゆる動作の様態を表す副詞類を共起させるというテストを試みると、以下のような結果になる。

(17)a * 楽にいる。

b * じっといる。

c * ぼんやりいる。

(18)　蹴散らして、踏みたくってやりたい怒りに燃えて、ウイスキーも日本酒もちゃんぽんに呑み散らした私の情けない姿が、こうしていまは静かに雨の音を聞きながら床の中にじっとしている。　(林[*9])

(19)　社員の誰もが、仕事も手につかず、ぼんやりしている頃、富菱銀行の最大の実力者といわれる大畑清兵衛は、…　(赤川[*10])

「い(居)る」について『日本国語大辞典』を引いてみると、「(人や動物の場合)動く物がある場所にとどまって存在する。また、低い状態(姿勢)になる」と説明している(巻一, 1079頁)。日本語では、(17)のように「いる」の様態を—動く物がある場所にとどまって存在する様態を—「楽に」「じっと」「ぼん

*7　(川端):『雪国』川端康成(新潮文庫 CD-ROM 版)

*8　(梶井):『檸檬』梶井基次郎(新潮文庫 CD-ROM 版)

*9　(林):『放浪記』林芙美子(新潮文庫 CD-ROM 版)

*10　(赤川):『女社長に乾杯！』赤川次郎(新潮文庫 CD-ROM 版)

やり」等の副詞類で修飾している文は、おかしい表現になってしまう。むしろ「いる」によって表現される存在に関する様態を表すには、(18)や(19)のように「じっとする」「ぼんやりする」というスル形が一般的である。

(20)a caney yocum {cal / phyenhi} iss -na?*11
君 最近 {元気に/楽に} いるか
君、最近元気か(でいるか)。

(20)b yey, KIM-sensayngnim-to {cal / annyenghi} kyeysi -pni -kka?
はい、金 先生 も {元気に/安寧に} いらっしゃるます か
はい、金先生も元気でいらっしゃいますか。

(21) nena phyenhi iss -kela. (KAIST-1077)
君こそ楽に いる 命令(終止)
君こそ楽にしなさい。

次は、韓国語の「iss-ta」についてであるが、Se, Ceng-Swu(1996a,b)では、「iss-ta」のもつ動詞的な用法の一つとして「cal(잘)」「phyenhi(편히)」「annyenghi(안녕히)」などの副詞と共起可能であると主張する。Se(1996a, b)では、「cal(잘)」「phyenhi(편히)」「annyenghi(안녕히)」などの副詞を「動態副詞語」と呼んでいる。Se 氏は、(20)(21)のように「iss-ta」がこれらの動態副詞語と共起可能であることを根拠に、「iss-ta」には動詞的な用法があると主張する*12。

(22) …(前略)…일본처럼 일반인들에게 법을 따지는 나라에서 그걸 바라보고 가만히 있는다는 사실이 믿기질 않는다. (KAIST-837)
(…(前略)…日本のように、一般の人々には法律を守るよう求めている国が、それを傍観していて何の措置もとらないという事実が信じられない。)

(22)' kukel palapo -ko kamahi iss-nun-ta-nun sasil -i…
それ(を) みる て じっと いる という 事実 が
それを見ていて何の措置もとらないという事実が…

(23) na-nun phiathu cha-uy noph-un cwasek-ey anc-un chay amwu sayngkak-to
僕 は ピアト 車 の 高い 座席 に 座ったまま 何の 考え も

*11 以下の(20)aと(20)bは、Se, Ceng-Swu(1996b), p. 400からの再掲である。
*12 詳しくは、Se(1996a, 399-404)とSe(1996b, 728-729)を参照されたい。

僕はピアト(車の銘柄)車の高い座席に座ったまま何も考えないで

anh-ko menghani iss -ess-ta. (KAIST-3625)
しないで 呆然と いる タ
呆然としていた。

Se(1996)には言及されていないが、(22)と(23)の「kamanhi(가만히)」や「menghani(멍하니)」についても同様なことが言えるであろう。

以上で取りあげた「ある/いる」と「iss-ta」の例は、動詞的な用法ではあるが、存在の意味(動かないでとどまっている)を表す場合であった。しかし、韓国語の「iss-ta」には、(24)(25)(26)のように、日本語の「いる」としては訳せない意味もある。

(24) 그러므로 밤늦게까지 있는다거나 지나치게 햇빛에 그을리는 행동은 모두 피부 트러블의 원인이 된다. (KAIST-380)
(それ故夜遅くまで起きていたり過度に日焼けしたりする行動はすべて皮膚のトラブルの原因になる。)

(24)' kulemulo pam-nuc-key-kkaci iss-nun-ta-kena
それ故 夜 遅く まで いる たり
それゆえ夜遅くまで起きていたり…

(25) (볼, 코, 이마, 턱 부분에) 랩을 씌우고 30분 정도 있는다.
(KAIST-380)
(pol, kho, ima, thek pwupwun-ey) layp -ul ssuy -ko 30-pwun cengto iss-nun-ta
(頬、鼻、額、顎の 部分 に)ラップ をかける て30分 程度 いる
(頬、鼻、額、顎の部分に)ラップをかけて30分ほど待つ。

(26) 2~3분 가량 이들 마사지를 되풀이한 다음 티슈를
2-3pwun kalyang i-tul masaci -lul toyphwuliha-n taum thisyu -lul
2-3分 ほど これらのマッサージを 繰り返す た後 ティッシュ を
2-3分ほどこれらのマッサージを繰り返した後ティッシュを
덥고 10분쯤 있는다. (KAIST-380)
tep -ko10-pwun-ccum iss-nun-ta
かけるて10分 ほど いる
かけて10分ほど待つ。

1.2. 「iss-nun-ta(있-는-다)」について

(27) kulemulo pam-nuc-key-kkaci iss-nun-ta-kena … ((24)を再掲)
それ故 夜 遅く まで いる たり
それゆえ夜遅くまで起きていたり…

(27)の「-nun(는)-」は、先語末語尾(prefinal ending)「-nu(느)-」の異形態(allomorph)の一つである。「-nu-」の意味機能については、研究者の立場によって様々な異説が見られるが、「-nu-」は形容詞的な述語(状態を表す述語)には接続できないという特性に関しては現在のところ異見がないようである[*13]。(28)(29)(30)を参照されたい。

(28) * chayksang wi-ey cangmi-ka iss-nun-ta.
机の 上 に バラが ある

(29) * cangmi-ka ppalka-n-ta.
バラ が 赤い

(30) * tam mith-ey cilengi -ka cwuk-e iss -nun-ta.
塀 下 に ミミズ が 死ぬ テイル タ

前述した(22)(23)(24)(25)(26)も、「iss-nun-ta」を述語としており、この点においても動詞的である。なお、以下に示す例は、いわゆる継続相(動作の継続)を表すアスペクト的な表現に用いられた「iss-ta」の例である。

(31) 그들은 봄동안은 이곳에 머물러 있는다. (KAIST-469)
kutul-un pom-tongan-un ikos -ey memwul -le iss-nun-ta
彼ら は春の 間 はここ に 泊まる テイル
彼らは春の間は、(他の所には行かないで)ここにとどまっている。

(32) …(前略)…그 바로 위에 인간이 서 있는다 해도 이를 느끼지 못할
ku palo wi-ey inkan-i se iss-nun-ta hay-to i -lul nukki-ci mos-ha-l
その真上 に人間 が立つテイル ても これを 感じる 出来ない

---

*13 このような説明だけでは、つまり形容詞には接続できないという事実が「動詞的である」ということにはならないが、「動詞的」であれば「-nu-」が接続可能であることを指摘しておく。「-nu-」が接続しない裸の動詞(無時制文)は、会話文など普通の文では用いられない。ただし、新聞の見出し・日記に用いられる場合があるが、この場合、完了した出来事として捉えられる。

その真上に人間が立っていてもこれを感じられない

정도로… (KAIST-1106)

cengto-lo …

くらいに

くらいに

(33) 그저 종일 취해서 늘어진 채 기둥에 기대어 있는다. (KAIST-1133)

kuce congil chwihay -se nuleci-n chay kitwung-ey kitay -e iss-nun-ta

ただ 一日中 酔う て ぐったりとなるまま 柱 にもたれるテイル

ただ一日中、酔っぱらってぐったりとなったまま柱にもたれている。

(34) …(前略)…하지가 한국에 계속 남아 있는다는 것은 이득이 될

HACI-ka hankwuk-ey kyeysok nam-a iss-nun-ta-nun kes-un ituk -i toy-l

ハージが韓国 に 続けて残るテイル の は 利得がなる

ハージが続けて韓国に残っているのは、利益にならない

수 없다고 설명하였다: (KAIST-1160)

swu eps-ta-ko selmyengha-yess-ta

ない と 説明する タ

ない(利益をもたらすことにはならない)と説明した。

(35) 그 방법에 비해 이대로 자리에 누워 있는다는 것은 전염된

ku pangpep-ey pihay itaylo cali-ey nwu-we iss-nun-ta-nun kes-un cenyem-toy-n

その方法 に比べてこのまま布団に寝るテイル の は伝染されるタ

その方法に比べて、このまま布団の中に横になっているのは伝染さ

폐를 계속 소방차처럼 혹사시키는 것 아니겠습니까? (KAIST-1346)

phyey-lul kyeysok sopangcha-chelem hoksa -sikhi-nun kes ani-keyss-supnikka

肺 を 続けて 消防車 のように酷使する サセル ことではありませんか

れた肺を続けて消防車のように酷使させることではありませんか。

(36) 무대 한가운데 이 진옥 엄격한 얼굴로 단정하게 서 있는다.

(KAIST-2669)

mwutay hankawuntey l, Cin-Ok emkyeha-n elkwul-lo tancengha-key se iss-nun-ta

舞台の 真ん中に (人名) 厳しい 顔 で 端正に 立つテイル

舞台の真ん中に、(人名)、厳しい顔と端正な姿勢で立っている。

(37) 그렇게 말하고, 나는 입을 다물고 의자에 앉아 있는다.

(KAIST-3677)

kuleh-key malha-ko na-nun ip-ul tamwul-ko uyca-ey anc -a iss-nun-ta

そう　言う て 僕 は 口を 閉じるて 椅子に座るテイル

そう言ってから僕は口を閉じて椅子に座っている。

(38)　…(前略)…해야 할 마당에 그런 곳에 숨어 있는다는 것은 국력 낭비에 국민의 심성을 비겁하게 만드는 일이오.　(KAIST-2089)

(…(前略)…動詞＋なければならない時に、そんなところに隠れているのは、国力を無駄にすることだけでなく、国民の心情を卑怯にさせることになりかねないと思うよ。)

(38)'　kule-n　kos　-ey　swum　-e iss-nun-ta-nun kes-un

そんな　ところ に 隠れる　テイル　　の は

そんなところに隠れているのは…

(39)　구타당할 때의 여자의 태도는 '그냥 맞고만 있는다' 가 34.5%…

(KAIST-3695)

kwutha-tangha-l ttay-uy yeca-uy thayto-nun kunyang mac　-ko-man iss-nun-ta ka

殴打される　時　の 女　の 態度 は そのまま殴られるてだけいる　が

(夫に)殴打される時の女性の態度は、「そのまま殴られるがままにいる(我慢するという意味で)」が34.5 %…

よく知られている事実であるが、韓国語の「動詞語幹＋ nu-ta」には、(40)のような「継続相(動作の継続；以下では「進行相」とよぶ)」を表す用法がある[*14]。

(40)　na-nun cikum A-hotheyl-ey memwulu-n-ta.

僕 は　今　A ホテル　に 泊まる

僕は今 A ホテルに泊まっている。

(41)　na-nun cikum A-hotheyl-ey memwulu-ko iss-ta.

僕 は　今　A ホテル　に 泊まる　テイル

---

*14　大まかな説明ではあるが、「-nu-ta」で進行相の意味を表すことが可能なのは、以下に示す(A)のような(＋過程)という特性をもつ動詞類である。

(A)　mek-nun-ta(食べる), ilk-nun-ta(読む), ttwi-n-ta(走る), ca-n-ta(眠る), mantu-n-ta(作る)等

(B)　anc-nun-ta(座る), nwup-nun-ta(寝る), cwuk-nun-ta(死ぬ)等

一般的に、文脈などの前提がなければ、(B)類は、「-nu-ta」形で進行相を表すことは出来ない。

僕は今Aホテルに泊まっている。

未だに究明されていない問題として常に議論の対象となるのは、(40)と(41)の違いは何か、という点である。(40)が表す進行相の意味と、(41)の「-ko iss-ta」形(日本語のテイル形)の文が表す進行相の意味との違いは何であろうか。さらに難しい問題は、1.2.節で取りあげている(42)のような「-ko iss-nun-ta(고 있는다)」形の文は、(40)と(41)とはどう違うかという問題である。

(42) na-nun A-hotheyl-ey (1-nyenkan) memwulu-ko iss-nun-ta
(머무르고 있는다).
(memwul-e iss-nun-ta(머물러 있는다))
僕 は Aホテル に (一年間) 泊まる テイル
僕はAホテルに(一年間)泊まっている。

(40)と(41)に関しては、今のところ不明な点が多いため、これ以上のことは何も説明できない。(42)に関しては、「-nu-」が進行相を表すということに注目し、「-ko iss-nun-ta(고 있는다)」形が「-ko iss-ta」形の進行相を表す表現である可能性について検討する。現代日本語ではあり得ない表現ではあるが、あえて日本語で表現してみると「動詞+テ+イル+テイル(動詞+テイテイル)」のような表現になるだろうか。

(42)のような「-ko iss-nun-ta(고 있는다)」形はあまり生産的ではない。「iss-ta」の進行相の表現になるわけであるから、「-ko iss-nun-ta」全体が「滞在」もしくは「姿勢の維持」のような意味でなければならないと予想される。

(43) 動詞 + ko **ISS** -nun- ta(고 있는다)
↓
[+意図性 [存在]]
↓
動詞の意味的な条件;「滞在」もしくは「動作の様態」を表す意味

図で示せば、(43)のようになると思われるが、この問題については、もっと研究を深めていかなければならない。

2. 結果相を表す「-ko iss-ta」形・「-e(a) iss-ta」形とテイル形について

本節では、「任意の場所{-ey / ニ}—(動詞の表す)状態変化の行われた結果状

態が存在する」という場面を想定し、日韓両言語の「ものの無意志的な状態変化」の意味を表す動詞述語文の場合について、ニ格と「ey 格」で示される名詞句と共起可能かどうかをめぐって考察する。具体的には、日本語については、継続相(結果の継続；以下では「結果相」と呼ぶ)を表すテイル構文と、存在場所の意味を表すニ格名詞句との共起関係が考察の対象となり、韓国語については、結果相を表す「-ko iss-ta」構文及び「-e(a) iss-ta」構文と存在場所を表す「ey 格」名詞句との共起関係が考察の対象となる[*15]。

(44) tam mith-ey cilengi -ka cwuk-e iss -ess-ta. (KAIST-2522)
堺 下 に ミミズ が 死ぬ テイル タ

(45) keki-ey mwun-i yellye iss-nun kes-i huymiha-key po -yess-ta.
(yelli-e iss->yellye iss-) (KAIST-3622)
そこに ドア が 開く テイル の が微かに 見える タ

(46) keli hanpokphan-ey catongcha han-tay -ga pwultha -ko iss-ta. (Song[*16])
道路の真ん中 に 自動車 一 台 が 燃える テイル

(47) kilka-ey cha-ka han-tay kocangna -(a) iss-ta.
道端 に 車 が 一台 故障する テイル

(48) cokum ttelecin kos-ey chwulakha-n pihayngki-uy tongchey-ka
少し離れたところ に 墜落した 飛行機 の 胴体 が
pwusec(i)e iss-ess-ta. (KAIST-2195)
壊れる テイル タ

(49) yangpok-ey tanchwu-ka ttelec -ye iss-ta. (tteleci-e iss-ta>ttelecye iss-ta)[*17]
洋服 に ボタン が とれる テイル

(50) ku-uy yephcali-ey nwuleh-key palay-n kwunyongtamyo-ka kwukyec(i)-e
彼 の 隣の席 に 黄色く 変色した 軍用毛布 が 丸まる テ
iss-ess-ta. (KAIST-265)

---

*15 2節に関する詳しい内容は、安平鎬(近刊)を参照されたい。

*16 (Song)：Song, Ci-Na「molay-sikyey(모래시계；砂時計)」『第8回'96韓国放送作家賞受賞作品集』1996.

*17 任洪彬(1976)から引用した例文である(任洪彬(1998)の 598 頁を参照)。なお、この文は、「洋服は、ボタンがとれてしまい、(話題にしている基準時には)ボタンが付いていない状態である」という意味を表す。ここで問題にしている「洋服に」は、決して着点的な意味ではない。

イルタ

(51) kulus-ey yes-i nok -a iss-ta.[*18]
器 に 飴 が溶ける テイル

(52) yangci palu-n twuntek-ey nwun-i nok -a iss -ess-ta. (KAIST-2200)
陽当たりのいい 丘 に 雪 が 溶けるテイル タ

(53) kencyoki an-ey os-i malla iss-ta. (malu-e iss-ta>malla iss-ta)[*19]
乾燥機の 中 に 服が 乾くテイル

(54) koskos-ey kispal-i pwulec(i)-e iss -ko sichey-tul -i…. (KAIST-2103)
所々 に 旗 が 折れる テイル て 死骸 複数 が…

(55) keki-ey kaci hana-ka situl -e iss -ess-ta. (KAIST-2337)
そこ に 枝 一つ が しおれる テイル タ

(56) wumwul kyeth -ey ppikum piscangmwun -i yellye iss-ta.
(yelli-e iss-ta>yellye iss-ta)
(KAIST-1470)
井戸 隣 に わずかに 閂のついた扉 が 開くテイル

(57) taycwunamwu-ey yelmay-ka maychye iss-ko…. (KAIST-2187)
(maychi-e iss-ko>maychye iss-ko)
棗の木 に 実 が 実る テイル

(58) non -ey pye-ka ik -e iss-ta.[*20]
田んぼ に 稲 が 熟する テイル

(59) pangpatak-ey chayk-i cciceci -e iss-ta. (cciceci-e iss-ta>ccicecye iss-ta)[*21]
床 に 本 が破れる テイル

韓国語に関して今回のコーパスを対象とした調査で集められた用例は、上に示した 14 例(異なり語数)であるが、筆者を含めてインフォーマント調査ではこのような文がかなり生産的であったことを付け加えておく。

上に示した例について注目していただきたいことは、(44)の「cwuk-ta(죽다;死ぬ)」を含めてすべての文における述語が、項(argument)として「ey 格」

*18 李南淳(1987)からの再掲。(p. 570)

*19 李南淳(1987)にも類例がある(p. 570)。李南淳(1987)には、「kencyoki an-ey」の代わりに「ppallaycwul-ey(洗濯物を干す紐に)」となっている。

*20 KAIST のコーパス(KAIST-3631)に類例がある。

*21 Ceng, Tay-Kwu(1994)からの再掲。(p. 210)

をとらない—項構造(argument structure)の中に「ey 格」が含まれない—動詞であるという事実である。

(60) * tam mith-ey cilengi -ka cwuk-ess-ta. (KAIST-2522)
　　塀　下　に ミミズ が 死ぬ　タ

(44)を、(60)のように「-ess(었)-」形(日本語のタ形)にすると非文になってしまう。(45)から(59)までの用例も(44)と同様に「-ess-」形にすると非文になる。(44)と(60)の対比から、(44)において「ey 格」名詞句が共起可能になるのは「iss-ta」が文全体の項構造を変えてしまったからである—「iss-ta」には固有の語彙的な意味がはっきりと残っている—ということが分かる。(45)から(59)までの用例に関しても同様である。

「-ko iss-ta」及び「-e(a) iss-ta」は、一般的に継続相を表すアスペクトマーカー(つまり一語)として捉えられているが、本節で取りあげている例の存在から考えてみると、再検討すべきであると思われる。

(61) 塀の下にミミズが死んでいる。

(62)a */? そこにドアが開いている[*22]。

b */? 道路の真ん中に車が燃えている。

c */? 道端に車が故障している。

d */? 少し離れたところに墜落した飛行機が壊れている。

e */? 洋服にボタンがとれている。

f */? 彼の隣の席に黄色く変色した軍用毛布が丸まっている。

g */? 器に飴が溶けている。

h */? 陽当たりのいい丘に雪が溶けている。

i */? 乾燥機の中に洋服が乾いている。

j */? 所々に旗が折れている。

k */? そこに枝が一つしおれている。

m */? 井戸の隣に閂のついた扉が開いている。

n */? 棗の木に実が熟している。(田んぼに稲が熟している)

p */? 床に本が破れている。

---

*22「?」は、非文ではないが「あまりよくない」「少し変」「(完全ではないが)そんなに悪くない」という場合を指す。

今回の調査結果に基づいていえば、韓国語の(44)等の文に対応する日本語は、(61)(62)に示しているように、韓国語の「ey 格」を日本語のニ格として訳した場合、(61)の「死ぬ」の場合を除けば、その文の多くは非文である—もしくは「あまりよくない」と答えるインフォーマントが多かった。もちろん、調査結果の中では「少し変」「(完全ではないが)そんなに悪くない」という答えも少数あったが、仮に(62)のような文を許容する日本語の母語語者がいたとしても全体的な傾向としては、日本語に比べれば「韓国語は非常に生産的である」ことには変わりはなく、この違いは日韓両言語の間に見られる大きな相違点と言えるであろう。

3. 結論と今後の課題

以上では、日本語の「ある/いる」と韓国語の「iss-ta」をめぐって両言語間の違いと思われる具体的な言語現象について考察した。本稿の主張内容をまとめると、次のようになる。

—「ある/いる」と「iss-ta」は、主文の述語として用いられる場合と、補助用言—継続相(動作の継続・結果の継続)を表すアスペクトマーカーを構成する補助用言—として用いられる場合がある。

—「ある/いる」と「iss-ta」が主文の述語として用いられる場合には、特に「有情の主体」の主語が動作主(agent)として解釈される「動詞的な用法」がある。しかし、韓国語の「iss-ta」は、「動作の様態」を表す副詞類(「cal(잘)」「phyenhi(편히)」「annyenghi(안녕히)」「kamanhi(가만히)」「menghani(멍하니)」)と共起可能であり、また日本語の「いる」にはない「起きる」「待つ」等の意味を表す場合があるという違いが見られる。

両言語に見られるこのような違いから、日本語の「いる」には「存在論的な存在」の意味と、(63)に示すような「動詞的な用法」としての意味しか表すことができないが、韓国語の「iss-ta」には、少なくとも日本語の「いる」よりは広い範囲の意味を表すことが出来る、ということが類推できる。

(63) [動詞的 IRU] ⇒ [+意図性 [存在論的な存在]]
cf) [状態(存在) IRU] ⇒ [存在論的な存在]

—韓国語の「iss-ta」が補助用言として用いられる場合については、「継続相」を表す「-ko iss-ta」「-e(a) iss-ta」における「iss-ta」が、さらに「-ko /-e(a) iss-nun-ta」

という形で「-ko /-e(a) iss-ta」の継続相になるという可能性について検討した。なお、「結果相」を表す「-ko iss-ta」「-e(a) iss-ta」における「iss-ta」は、もともと「ey 格」と共起しない—「ey 格」を項としてとらない—動詞を述語とする文に対し、文全体の項構造を変えてしまい、「ey 格」と共起可能にすることができる。

—言い換えれば、「補助用言」として用いられる「iss-ta」にも一定の語彙的な意味や機能があるということになる。日本語のテイル形における「いる」とは対照的—日本語の「いる」には、ほとんど語彙的な意味や機能がない—である。

本稿で試みている「ある/いる」と「iss-ta」に関する比較が単なる比較に終わらないためには、本稿の主張内容が両言語の体系を何らかの形で反映しているものでなければならない。

従来の先行研究では、両言語間における(64)(65)のような違いについて頻繁に指摘されている。この問題については、単なる違いとして記述するのではなく、なぜこのような違いが両言語間に生じるようになったかを説明しなければならない。

(64)a talo-nun apeci -lul talm -ass-ta. (* talm-a iss-ta)
太郎は お父さんを 似る タ テイル

b talo-nun phal-ul tachy ess-ta. (* tachye iss-ta)
太郎は 腕 を 怪我する タ テイル

(65)a 信長-nun 本能寺-eyse cwuk-ess-ta. (* cwuk-e iss-ta)
は で 死ぬ タ テイル

b talo-nun 1-nyen-cen-ey kyelhonhay-ss-ta. (* kyelhonhay-iss-ta)
太郎は 一 年 前 に 結婚する タ テイル

(64)は、単なる状態を表す例であり、(65)は、工藤(1995)のいう「動作パーフェクト」を表す例である。韓国語では、日本語とは対照的に「単なる状態」や「動作パーフェクト」を表すのに、「-ess-」形(日本語のタ形)が用いられ、「-ko/-e(a) iss-ta」形(日本語のテイル形)にすると非文になってしまう。なぜ両言語にはこのような違いがあるのであろうか。筆者は、このような問題を解決するのに、本稿で述べたような両言語に見られる違いが重要な意味を持つと考えている。稿を改めて論ずることにしたい。

参 考 文 献

Ko, Sek-Cwu(고 석주). 1996. 「'있다' 구문에 대한 연구」『국어 문법의 탐구』3 巻, 99-127. 南基心編 太學社

Kim, Yeng-Cwu(김 영주). 1990. *The Syntax and Semantics of Korean Case*: The Interaction Between Lexical and Syntactic Levels of Representation, Doctorial Dissertation, Harvard University.

Nam, Ki-Sim(남 기심). 1993. 『국어 조사의 용법— '에' 와 '로' 를 중심으로—』 서광학술자료사

Pak, Yang-Kyu(박 양규). 1972. 「국어 처격에 대한 연구」『국어연구』27, 1-66.

Se, Ceng-Swu(서 정수). 1996a. 『수정증보판 국어문법』 漢陽大学校出版院

Se, Ceng-Swu(서 정수). 1996b. 『현대국어문법론』 漢陽大学校出版院

Sin, Sen-Kyeng(신 선경). 1998. 『「있다」의 어휘의미와 통사구조 연구』서울대학교대학원(국어국문학과 국어학전공)박사학위논문

Yang, Jeng-Sek(양 정석). 1995. 『국어동사의 의미 분석과 연결이론』 도서출판 박이정

Yu, Hyen-Kyeng(유 현경). 1998. 『국어 형용사 연구』 한국문화사

李 南淳(1987)「'에', '에서' 와 '-어 있다', '-고 있다'」『國語學』16, 567-595. 國語學會(韓国)

I, Pyeng-Kyu(이 병규). 1996. 「문장 구성 성분의 항가 의존성 검토」『국어 문법의 탐구』3, 173-215. 太學社

任 洪彬(1976)「부정법 {-어}와 상태진술의 {-고}」『국민대학교논문집 제 8 집』(任洪彬(1998)『국어문법의 심층 1』593-621. 太學社に所収)

Ceng, Tay-Kwu(정 태구). 1994.「'어 있다' 의 意味와 論項構造」『國語學』24, 203-230. 國語學會(韓国)

Choy, Ki-Yong(최 기용). 1998. 「'있-' 의 범주, 논항 구조 그리고 능격성」『國語學』32, 107-134. 國語學會(韓国)

Choy, Ho-Chel(최 호철). 1993. 「현대국어 서술어의 의미 연구」고려대 박사학위논문

*　　*

安 平鎬(1999)「現代韓国語の「었(-ess-)」形による「現在の状態」を表す場

合の条件をめぐって」『空間表現の文法化に関する総合的研究』平成 7 - 10 年度、文部省科学研究費補助金・基盤研究(A)(2)研究成果報告書. 23 - 41.
安　平鎬(近刊)「結果相を表す表現と空間表現との共起関係―日韓対照を中心に―」『空間の文法(仮題)』くろしお出版
工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』ひつじ書房
杉本　武(1988)「「動詞＋ている」の表すアスペクトについて」『論集ことば』101-115. くろしお出版
宋　美玲(2000)「日韓両言語における時間表現の対照研究―「非過去の事象」に対する時間解釈を中心に―」第 162 回朝鮮語研究会(2000 年 1 月 18 日、於神田外語学院)発表論文
中右　実(1990)「存在の認知文法」『文法と意味の間(国広哲弥教授還暦退官記念論文集)』 161-179. くろしお出版
中右　実(1994)『認知意味論の原理』大修館書店
益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版

ベトナム語のムード詞の意味的な特徴(その2)

—“còn”の用法を中心に—

村上雄太郎(レー・バン・クー)

1. はじめに

ここで扱う「ムード詞」は、次のように、各種のムードやアスペクトの意味を表すために動詞や形容詞の前に使われる cũng, còn, mới, đã などの語である。

(1) Ba giờ nó *mới* về.
三 時 彼 帰る
(彼は3時にならないと帰ってこない。)

(2) Ba giờ nó *đã* về.
(彼は3時には、もう帰っている。)

(3) Nó không những biết tiếng Anh mà *còn* biết tiếng Nhật.
彼 ばかりではなく 出来る英語 それに 日本語
(彼は英語ばかりではなく日本語も出来る。)

(4) Thánh *cũng* có khi lầm. (諺)
聖人 ある 時 誤る
(弘法も筆の誤り。)

このうち、“mới”については拙稿の「ベトナム語のムード詞の意味的な特徴－“mới”の用法を中心に－」(平成10年度の本報告書、II、pp. 443-453)で、その意味的な特徴と、その各用法の間の関連性を考察してみた。本稿では、“còn”を取り上げ、その基本的な意味を考察した上で、この意味が用法によって、どのように変わっていくのか、という用法と用法との間のつながりを探ってみたい。

2. “còn”の意味と用法の概観

文献11では、"còn"の用法は動詞、副詞そして接続詞に分類されている。その要点を紹介すると以下のようになる(用例もこの文献による)。

Ⅰ(動詞(động từ)として)、続けて存在すること、または残存することを表す。例えば、

(5) Còn một tuần lễ nữa là đến Tết.
残る 一週間 もう だ 着く お正月
(後一週間でお正月になる。)

(6) Nó còn tiền.
彼 残る お金
(彼はお金が残っている。)

Ⅱ(副詞(phụ từ)として)、a. ある動作や状態がある時間まで続くことを表したり、b. 他の動作や性質との対照のために、ある動作や性質についての断定を表したりする。以下の(7)がaの例で、(8)がbの例である。

(7) Anh ta còn rất trẻ.
彼 まだ 非常に 若い
(彼はまだまだ若い。)

(8) Hôm qua còn nắng to hơn hôm nay nhiều.
昨日 さらに 快晴 より 今日 たくさん
(昨日は、今日よりもよく快晴だった。)

Ⅲ(接続詞(kết từ)として)、これから述べる事が、先ほど述べた事とは、異なったり逆だったりするということを表す。例えば、

(9) Nó ở nhà, còn anh ?
彼 居る 家 ところで あなた?
(彼は家に居る。ところで、あなたは?)

この分類では、上の(3)の例や以下の例は、Ⅱのbの用法に属すると考えられる。

(10) Nó *không những* biết tiếng Anh *mà* *còn* biết tiếng Nhật.
彼 ばかりでなく 出来る 英語 それに 日本語
(彼は英語だけでなく日本語も出来る。)

(11) Thày *còn* chưa hiểu rõ, *nữa là* trò.
先生 していない 分かる 詳しく まして 生徒

（先生にだってまだよく分からないのに、まして生徒には無理だろう。）

(12) *Thà* chết *còn hơn* chịu nhục.
寧ろ～する方が良い 死ぬ ましだ 受ける 侮辱
（侮辱を受けるくらいなら、死んだ方がましだ。）

次に、動詞、または形容詞の前に使われるこのような“còn”に絞って、その(3)における用法との(10)～(12)における用法は、どのように繋がっているのか、を考えてみたい。具体的には、(3)の用法における“còn”の意味が、本質的な、基本的なものとして、(10)～(12)の各用法にも何らかの形で保持されていると捉えた上で、各用法に応じるその特徴を考察してみたい。

もちろん、文型全体の意味特性、言い換えれば、それぞれの文の表現的な機能という観点から見れば、(3)のような文型と、(10)～(12)の文型は、かなり異なる表現的な機能を果たすと認めなければならない。

3. 動詞や形容詞に先行する“còn”の各文型の意味

(3)の文型では、物事が続いて、（意識されている）他の状態へまだ移行していないという、いわば“còn”の基本的な意味しか含まれていないのに対し、(10)の文型では、「N1 ばかりでなく、N2 も～する」という「追加」の意味も含まれている。また、(11)の文型では、以下で紹介されるように、話し相手を「説得したり、その意見を否定したりするための断定」の意味が含まれている。つまり、この文型の“còn”は「～でさえも／～でも」の意味で前節に使って、後節を推論する根拠となる事実を表す。後節によく”huống chi“（まして）や“nói gì (đến)”（言うまでもない）や“nữa là”（況や）を“còn”と呼応させて使う。なお、“đến cả / ngay cả”（さえも）と呼応して、＜đến cả ＋N1＋còn＋V＋nữa là＞のように、極端な意味を表すこともある。

そして、(12)の文型では、「V1 をするくらいなら、V2 をした方がましだ」といった判断や選択・決意の意味が含まれている。

このような意味の変化を裏付けるように、構文的にも、次のような相違点がある。

(3)と違って、(10)の“còn”は、取り立て詞の働きを持っている。つまり、「文の骨格を作るのに直接関わることはな」く、「基本的に必要な要素ではない」（文献8、p. i）ものである。具体的には、(10)の骨格を作るのは、次のような客観的な事柄を表すものだと言える。

(13) Nó biết tiếng Anh và tiếng Nhật
（彼には英語と日本語が出来る。）

これに、話し手の主観的な「追加」の意味が加わって、(10)のような文が出来上がるのである。そこで、“còn”(も)と、“không những”(だけではなく)は取り立て詞であり、取り立てられるのは“tiếng Anh”(英語)と“tiếng Nhật”(日本語)である。

また、(11)のような<N1＋còn＋V＋nữa là＋N2>または、<N1+ còn + V + huống chi＋N2>の文型でも“còn”と“nữa là”、“huống chi”が取り立て詞で、それぞれ“thày”(先生)と“trò”(生徒)を取り立てるのであるが、この文型による推論で、話し手は「N2 が絶対に V」という強い結論を出す。

(11)と同様に、(12)でも、話し手の判断や評価が表される。(11)で、表現の焦点が“nữa là”や“huống chi”に続く N2 だとすれば、(12)ではそれは“còn hơn”に続くものと思われる。というのは、(11)で「N2 が絶対に V」ということが暗示されるのに対し、(12)の<V1＋còn hơn ＋V2>(V1 するくらいなら、V2 した方がましだ)という文型では「V2 を絶対にしない」「V2だけはしたくない」ということが暗示される。

以上は、動詞や形容詞に先行する“còn”の各文型の意味特性上の相違点を見た。

次に、各文型間のつながり、もっと正確に言えば、各文型における“còn”の基本的な意味の現われ方を見ることにする。

先ず、<N＋còn＋V/Adj>と<N1+còn+V+nữa là＋N2>との場合を見る。

「自然言語の論理」(logic của ngôn ngữ tự nhiên)という観点から、後者の文型の意味特性を分析する研究に、文献4(pp.64-73)がある。その論点をまとめると以下のようになる(用例もこの文献による)。

次の対話の中の“X còn V huống gì Y”という文型や“X còn V nữa là!”という文型は、ある事を明言の形ではなく、含み(hàm ý)として表すのに使われる。この含みは、論理的な結論(kết luận logic)であり、綿密な推論の結果である。十分な論拠を持つ断定の言い方である。 従って、日常の言語では、相手を説得したりその意見を否定したりするべく、断定の言い方の中に使われることがある(pp.70-71)という。

(14)_Bài toán này hơi khó, có thể nó không làm được.
問題 この 少し難しい おそらく 彼 [否定] やる 出来る
(この問題は少し難しい。おそらく彼には解けないだろう。)
_ Bài toán trước nó còn làm được {huống gì bài này./nữa là !}
問題 前 彼 解く出来る まして 問題 この 況や
(前の問題だって彼に解けるというのに、ましてこの問題はなおさらである。)

(15) _Không biết nó có làm nổi bài toán này hay không ?

［否定］知る 彼　ある　やる 出来る　　それとも ［否定］
（彼にこの難しい問題が解けるのだろうか？）
_Bài toán trước nó còn làm được {huống gì bài　này.／nữa là !}

(14)では、答えは「彼に出来ない訳がない！」「彼に出来ないというあなたの考えは間違いである」といった「否定しながら断定する発言」(lời khẳng định-bác bỏ)の意味を持っている。また、(15)では、答えは「絶対、彼に出来る。確信を持ちたまえ。間違いがないはずだ」といった「断定で説得する発言」(lời khẳng định-thuyết phục)の意味をもっている(p.71)という。

ここで注目すべきは、「相手を説得したり、その意見を否定したりするために」(p.71)、この文型が使われるという指摘である。何故かというと、(14)や(15)のような対話が成立するためには、相手の否定的、または懐疑的な意見を持つという状況が必要な条件になるからである。これこそ、"còn"を使う条件でもあると考えられる。つまり、この場合、一般的に言えば、話し相手の言っている状態には、物事の性質の程度や範囲は(まだ)広がっていない、達していないと、話し手は暗示する形で強く主張するのである。この場合の「ある状態に物事の性質の程度や範囲が達していない」という意味合いは、"còn"の基本的な意味とつながると考えられる。

4. "còn"の基本的な意味

"còn"の基本的な意味とは、ある状態に留まっており、意識されている他の状態へは移行していないということだと言えよう。例えば、次の文は、「彼の経済状況は、お金がなくなっているという状態に変わっていない」ことを含みとして表す。

(16)　Nó *còn*　tiền.　　(＝Nó　*chưa*　*hết*　tiền.)
　　彼　残る お金　　彼　していない　切れる お金
　　(彼はお金が残っている。)(彼はお金が切れていない。)
(17)　Tiền　mất,　　tật *còn*.　(＝Tuy　tiền mất, nhưng tật *chưa*　*mất*.)
　　お金　無くなる　病　残る　　けれども　　しかし　してない
　　(お金は無くなったけれども、病は依然として治っていない。)

同様に,次の文も、「彼の身体の状況が起きているという状態に留まっており、まだ寝ている状態に移行していない」ことを含みとして表すものと考えられる。

(18)　Nó　còn　thức.　　(＝Nó　chưa　ngủ.)
　　彼　まだ　起きている　　彼　していない　寝る
　　(彼はまだ起きている。)(彼はまだ寝ていない。)

“còn”を、このように“chưa”などの語の意味と関連させての記述については、文献3(p.106)を参照されたい。

もっとも、上の2文中の“còn”は完全には同じではない。(16)と(17)と違って、(18)では、“còn”は語彙的な意味のある動詞としては使われなく(注)、いわば(16)と(17)の“còn”が文法化したものと言える。それにもかかわらず、意味としては、基本的に、両者の間に、共通点があると言える。それは、ともに「意識されている、他の状態へ移行していない」という事態を表すところである。

その証拠に、次のように,“đã”(もう)と組み合わせて疑問文を作ることができることを挙げられよう。上で述べたように、このような疑問文を作れる背景に、“còn thức”(まだ起きている)という表現をする時、“chưa ngủ”(まだ寝ていない)という意味も含まれているという事情が有ると言える。

(19) Nó *còn* thức hay *đã* ngủ ?
彼 起きるそれとも 寝る
(彼はまだ起きている？それとも、もう寝ている？)

5. <N1＋còn＋V＋huống chi＋N2>の“còn”の意味的な特徴

例えば、上の(14)と(15)の場合には、「この問題は少し難しい。おそらく彼には解けないだろう」や「彼にこの難しい問題が解けるのだろうか？」という相手の意見は、話し手によって、「この問題の難しさの範囲は、彼に解けないという程度に達する」と解釈されると言える。これを否定するために、つまり「この問題は難しいかもしれないが、彼に解けないというほどには達していない、その難しさの範囲は、まだ彼に解ける程度に留まり、解けない程度には移行していない」というのである。「前の問題」の難しさは「解けない」程度に達しないのであるから、「前の問題」よりも簡単だと文脈ではっきりする「この問題」の難しさは、当然のことながら、達しないに違いない。

ここで、<N＋còn＋V/ Adj>中の“còn”が物事を客観的な時間の経過に沿って位置づけるのに対し、<N1＋còn＋V＋huống chi＋N2>中の“còn”は、人の主観的な判断や評価によって物事の位置づけをする。また、前者の方は、まだ動詞の性格を保持しているので、次のように否定される構文が成立するが、後者の場合には成立しない。

(20) Nó *không còn* ngủ nữa.
彼 寝る もう
(彼はもう寝ていない。)

上の「時間の経過に沿って物事を位置付けるのではなく、人の主観的な判断や評価によって物事の位置付けをする」という性格は次の文型の“còn”にも認められる。

6. ＜thà V1＋còn hơn＋V2＞の“còn”の意味的な特徴

例えば、下のような文の中の“còn”を考察してみよう。

(21)(＝(12)) *Thà* chết *còn hơn* chịu nhục.
寧ろ～する方が良い 死ぬ ましだ 受ける 侮辱
(侮辱を受けるくらいなら、死んだ方がましだ。)

この場合にも、「死ぬ」ことが、いなかにマイナス的な事態だと考えられても、「我慢できる」や「受けても良い」という忍耐に関する価値判断のヒエラルキー上では、「侮辱を受ける」ことの辛さや酷さにまでは及んでいないと解釈できるだろう。つまり、「侮辱を受ける」ことによる辛さや酷さよりは、たとえ、通常最悪だ、一番望ましくない事態だと思われる「死ぬ」ことさえも、まだましだというようなところに、“còn”の意味的な特徴が有ると言える。これが、「意識されている他の状態へは移行していない」という“còn”の基本的な意味の、この文型における現われ方でもある。

もちろん、表現の機能から見ると、この文型によって話し手の価値的な判断や選択・決意が表されるということになる。つまり、この発言が行われる環境というものは、「この状況では、忍びがたいかもしれないが、やはり一時的に、侮辱を受けるようなこともやむを得ないだろう」というような意見が有る、または有る可能性があり得るようなものだと解釈される。この文型はこのような意見や考え方に対するものである。その真意、暗示するところは「侮辱を受けることだけはしたくない」ということである。なぜならば、誰しも生きている存在としては、死ぬことが一番望ましくない事態だ言えるが、それでも、侮辱を受ける事態の辛さに比べると、この死ぬ事態の方がまだ及んでいないからである。この文型は、次のような変形(variant)があるが、その中の“còn”の意味的な特徴は変わっていない。

(22) *Nếu phải* chịu nhục *thì thà* chết *còn hơn.*
もし なければならない 受ける 侮辱 寧ろ～する方が良い 死ぬ ましだ
(侮辱を受けるくらいなら、死んだ方がましだ。)

この文型が使われる状況が、つぎのような発言の例で一層明らかになると思われる。

(23) *Thà* ở truồng *còn hơn là* phải mặc đồ làm bằng lông thú.
裸でいる なければならない 着る 物 作るで 毛皮 動物
(毛皮を着るぐらいなら、裸でいる。)

このような発言は、実際、動物愛護のデモで使用されたことのあるスローガンの一つであるが、その背景には、毛皮の使用が奨励されたり容認されたりするという状況があると言える。

次に、「追加」を意味する文型における"còn"の意味的な特徴を見てみよう。

7. <không những+V1+mà còn+V2>の"còn"の意味的な特徴

例えば、次の文では、相手の発言から、「彼」の外国語の能力の範囲が「英語が出来る」という程度で終わる、それが限界だというように思われるかもしれないと捉え、それに「追加」するという話し手の姿勢が認められる。

(24) _Nó rất giỏi tiếng Anh.
彼 とても 上手だ 英語
(彼は英語がよく出来る。)
_Nó *không những* biết tiếng Anh *mà* *còn* biết tiếng Nhật.
のみならず 出来る それに
(彼は英語だけでなく日本語も出来る。)

この場合にも、「彼の外国語の能力が英語が出来るというところに留まっているようなものではなく、日本語が出来るというところにまで伸びている」といった内容が"còn"の意味的な特徴をなすものだ言える。実際の使用状況では、次のような文型も見かけるが、"còn"のこの特徴に関しては変わらないと考えられる。

ここでも、「私の受けた待遇の良さ」が「歓待されたところ」に留まるものと思われるかもしれないが、実は、それに留まらず「お土産をもらえる」ところまでに達するという意味が"còn"によって表される。

(25) *Đã* được khoản đãi, tôi *còn* được tặng cả quà *nữa*.
[実現]受ける歓待する 私 贈呈する お土産 もう
(歓待された上、お土産までもらった。)

これらの文型で、<N+không những+V1+mà còn+V2>や<đã +V1+N +còn+ V2+(nữa)>におけるV2の内容はV1の内容の中に含まれてはならな

いという制限がある。例えば、(24)の文では通常、ベトナム人にとっては英語が出来るようになる機会が、日本語の場合に比べて、よりあるために、英語が出来るということには日本語が出来るということが含まれないと、考えられる。言い換えれば、この場合、外国語の能力の程度を問題にすれば、日本語が出来ることは英語が出来ることに比べて、より高いレベルになると思われるのである。客観的な時間の経過という物事の位置づけとは違うものの、このような文型でも、物事の性質の存在する範囲がある決まった方向に進展や展開していくと、“còn”の用法で、話し手は主観的に捉えていると言えよう。

8. まとめ

以上、“còn”の意味的な特徴を、動詞や形容詞に先行する用法に絞って、考察してきた。それをまとめると、次のようになる。

“còn”の基本的な意味は、ある状態に留まっており、意識されている他の状態へは移行していないということである。この意味は＜N＋còn＋V/ Adj＞という文型のみならず、＜N1＋còn＋V＋nữa là＋N2＞や＜thà ＋V1＋còn hơn＋V2＞や＜N＋không những＋V1＋mà còn＋V2＞のような文型にも、様々な形で保持される。最初の文型で、時間の客観的な経過に沿って発話時点における物事が位置づけられるのに対し、後の3文型では時間の経過と同じように、物事の性質の範囲を広がっていくものとして捉え、その広がりに対して話し手の判断や価値的な評価が行われる。

注：

もっとも、(16)や(17)の“còn”も、例えば、“thức”（起きる）や“”ngủ（寝る」などの動詞とはまた違った性格を持っている。後の2動詞の場合、「既然」を示す“đã”や「未然」を示す“chưa”などの要素と共起できるのに対し、前の“còn”の場合には、出来ない。例えば、

（ｉ）a. Nó đã thức.
　　（彼はもう起きている。）
　b. Nó chưa thức.
　　（彼はまだ起きていない。）
（ii）a. ＊Nó đã còn tiền.
　b. Lúc ấy thì nó còn tiền.
　　その時は
　　（その時には彼はお金が残っていた。）
　c. ＊Nó chưa còn tiền.

つまり、"Nó còn thức"(彼はまだ起きている)＝"Nó chưa ngủ"(彼はまだ寝ていない)が成立するように、"Nó còn tiền"(彼はお金が残っている)＝"Nó chưa hết tiền"(彼はまだお金が切れていない)も成立するということを考える際、"Nó còn tiền"は、

(iii) Nó còn　có　tiền"
　　彼　まだ　有る　お金
　　(お金がまだ有る。)

の略だということも考えられるのである。

参考文献

1. Cao Xuân Hạo (1986) Một số biểu hiện của cách nhìn Âu Châu đối với cấu trúc tiếng Việt (ベトナム語の構造に対するヨーロッパー的な見方の現れ) in *Những vấn đề ngôn ngữ học về các ngôn ngữ phương Đông* (東洋諸語の言語学の諸問題) Hà Nội : VNNH
2. ——(1998) Về ý nghĩa thì và thể trong tiếng Việt, (ベトナム語の時制・体の意味に関して) *Ngôn Ngữ* N.5, Hà Nội : VNNH
3. Đỗ Hữu Châu (主編)、Cao Xuân Hạo (1995) *Tiếng Việt 12- Ban khoa học xã hội* (ベトナム語—高校3年次、社会科学専攻) Hà Nội: GD
4. Hoàng Phê (1989)*Logic ngôn ngữ học(qua cứ liệu tiếng Việt)* (言語論理学、ベトナム語の資料を基にして) Hà Nội: KHXH
5. レー・バン・クー(1995)「ベトナム語の cũng(も)の意味と用法」『「も」の言語学』東京:ひつじ書房
6. ——&川口健一(編)(1990)『ベトナム語の表現文法』東京外国語大学語学教育研究協議会
7. Nguyễn Đức Dân (1987) *Logic·Ngữ nghĩa· Cú pháp* (論理・意味・シンタクス) Hà Nội : ĐH&THCN
8. 沼田善子(1992)『日本語文法セルフ・マスターシリーズ5 「も」「だけ」「さえ」など一とりたて一』東京:くろしお出版
9. 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
10. Ủy ban KHXH VN (1983) *Ngữ pháp tiếng Việt* (ベトナム語の文法) Hà Nội : KHXH
11. Viện Ngôn Ngữ Học (1995 版) *Từ điển tiếng Việt* (ベトナム語辞典)・Hà Nội :VNNH